



令和6年度  
「みやぎ発展税」の  
活用実績と成果

令和7年7月



宮 城 県

## 目 次

I	「みやぎ発展税」（法人事業税の超過課税）の概要	1
II	「富県宮城推進基金」の概要	3
III	県内総生産の推移等	4
IV	パッケージごとの実績と成果	6
1	産業振興パッケージ	9
1-1	企業集積促進	9
1-2	技術高度化支援	16
1-3	中小企業・小規模事業者活性化	32
1-4	人材育成促進	40
1-5	人材確保支援	53
1-6	地域産業振興促進	60
2	災害対策パッケージ	75
2-1	災害に対応する産業活動基盤の強化	75
2-2	防災体制の整備	79
V	令和6年度「みやぎ発展税」活用事業一覧	83

# I 「みやぎ発展税」（法人事業税の超過課税）の概要

「みやぎ発展税」は、厳しい財政状況の中で、「宮城の将来ビジョン」（平成19年度～令和2年度）に掲げた政策推進の基本方向である「富県宮城の実現～県内総生産10兆円への挑戦～」と「人と自然が調和した美しく安全な県土づくり」に向けた取組を充実・加速させるため、平成20年3月に課税期間を5年間として導入したものです。

「みやぎ発展税」を財源として、県内総生産10兆円の達成を目指す産業振興施策（「産業振興パッケージ」）と震災時における被害を最小化させる施策（「震災対策パッケージ」）に鋭意取り組んできた結果、自動車関連産業や高度電子機械産業などを中心に企業集積が進んだほか、耐震強化を行った橋梁は、東日本大震災においても落橋することなく緊急輸送道路として機能するなど、多くの成果を生み出すことができました。

平成23年3月の東日本大震災発生以降、本県が「迅速な震災復興」と並行して、「宮城の将来ビジョン」の実現を図るには、震災からの復旧・復興の取組とともに、将来的にも安定した経済基盤の構築と震災の教訓を踏まえた真に災害に強い県土づくりを引き続き推進していく必要があったため、「みやぎ発展税」の課税期間を平成25年3月から5年間延長しました。

「宮城の将来ビジョン」において引き続き目標に掲げた県内総生産10兆円の達成に加え、中小企業・小規模事業者の持続的発展のほか、人手不足への対応など、様々な環境変化により生じる新たな課題の解決に積極的に取り組んでいく必要があったことから、平成29年に「みやぎ発展税」の課税期間を平成30年3月から5年間延長しました。

令和4年には、この延長後の課税期間が令和5年2月までとなっていることを踏まえ、これまでの活用事業の実績や成果、県内の経済情勢や県政を取り巻く環境等を総合的に検証しながら、今後のあり方を検討しました。この結果、「新・宮城の将来ビジョン」（令和3年度～令和12年度）の実現や、デジタル・トランスフォーメーション（DX）、激甚化する自然災害などの新たな課題に対応していく必要があったことから、「みやぎ発展税」の課税期間を令和5年3月から5年間延長したところです。

こうした中、令和6年度には、「みやぎジョブフェア in インドネシア」の開催及び「大崎市立おおさき日本語学校」の開設に向けた支援などによる外国人材受入の促進や、県内の中小ものづくり企業の特色や魅力を学生向けに発信し、就職の有力な選択肢としての認識を深めていくことを狙いとした産学官連携の組織である「ものづくりカレッジ」の開設など、産業人材の育成・確保を強く意識しながら取組を進めました。

## (1) 課税期間

課税期間	平成20年3月1日から令和10年2月29日まで 第1期：平成20年3月1日から平成25年2月28日まで（5年間） 第2期：平成25年3月1日から平成30年2月28日まで（5年間） 第3期：平成30年3月1日から令和 5年2月28日まで（5年間） 第4期：令和 5年3月1日から令和10年2月29日まで（5年間） ※ この期間内に終了する事業年度分の法人事業税及びこの期間内の解散に係る清算所得に対する法人事業税が対象
------	---

## (2) 超過税率

- 「みやぎ発展税」導入時の宮城県県税条例（昭和25年宮城県条例第42号）第41条（法人事業税）に定める税率（＝標準税率）の5%相当額

## (3) 適用法人等

- 資本金又は出資金の額が1億円を超える法人、若しくは所得が年4千万円（収入金額の場合、年3億2千万円）を超える法人等

#### (4) 活用の基本的な考え方

- 「みやぎ発展税」は、「宮城の将来ビジョン」の実現に向け、県経済の成長を図るための産業振興に関する施策としての「産業振興パッケージ」と大規模な地震による被害の最小化に関する施策としての「震災対策パッケージ」に活用してきました。
- 近年、地震以外の自然災害により大きな被害が発生していることから、第4期からは多様化・激甚化する大規模地震以外の自然災害にも幅広く対応することができるよう、「震災対策パッケージ」を「災害対策パッケージ」に改め、着実に取組を進めることになりました。なお、第4期の所要額は、約413億円を想定しています。



#### 【参考】今後のあり方検討時点で想定した第4期における各項目の所要額 【413億円】※

I 産業振興パッケージ 【398億円】※	II 災害対策パッケージ 【15億円】改
<b>1 企業集積促進 【278億円】※</b> 企業の工場新增設等を促進する「みやぎ企業立地奨励金」、半導体・情報関連産業の集積促進、産業基盤整備等	<b>1 災害に対応する産業活動基盤の強化 【10億円】</b> 指定避難所などとして利用する施設等の機能強化や輸送路の強靱化など、大規模災害におけるリスク軽減を加速
<b>2 技術高度化支援 【30億円】</b> 産学官連携等による県内企業の技術力向上と新規参入、マッチング、競争力強化の支援等	<b>2 防災体制の整備 【5億円】</b> 人口減少社会を見据えた地域の防災力の維持・向上のための体制整備・人材育成等
<b>3 中小企業・小規模事業者活性化 【30億円】</b> 中小企業・小規模事業者支援施策の総合的な推進、創業・第二創業の促進、デジタル化支援等	
<b>4 人材育成促進 【15億円】</b> 産業界から大学、高校等まで一体となった産業人材育成体制の強化、即戦力となる優秀な人材の育成	
<b>5 人材確保支援 【15億円】</b> 専門知識を有する人材等の県内企業への環流促進や企業の人材確保に向けた雇用環境の整備支援等	
<b>6 地域産業振興促進 【30億円】</b> 商業の振興や農林水産業の競争力強化など、地域産業振興に資する施策等の機動的な展開	

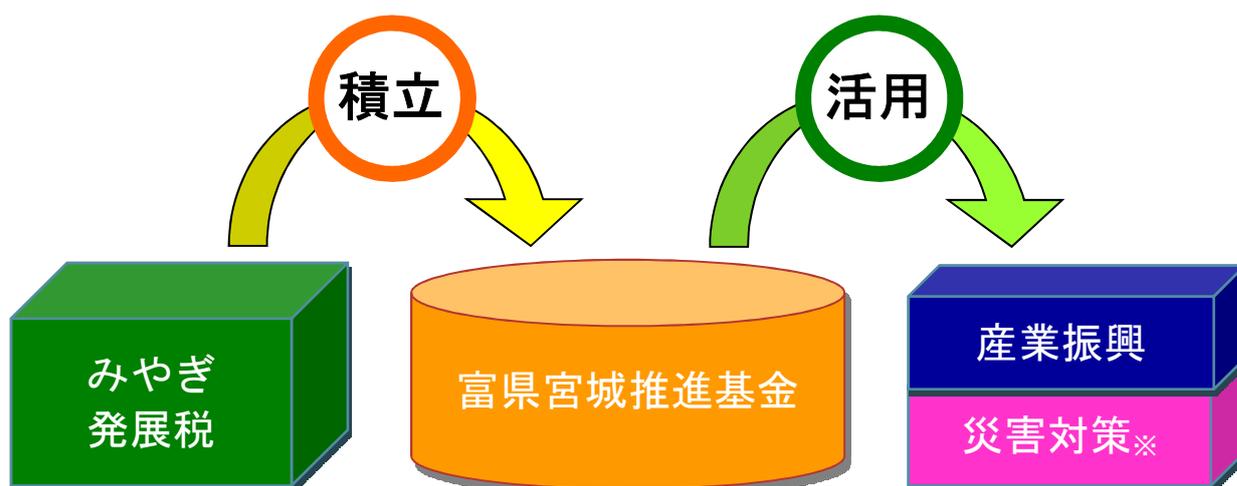
◆ 毎年度均等配分ではなく、その時々に対応すべき課題に応じて収内柔軟に予算化

※ みやぎ企業立地奨励金において、令和4年度までに指定し、令和5年度以降に交付する見込額を含む

## Ⅱ 「富県宮城推進基金」の概要

### (1) 「富県宮城推進基金」の設置

- 「みやぎ発展税」は、その税込及び用途を明確にするため、富県宮城推進基金条例（平成20年宮城県条例第28号）に基づき「富県宮城推進基金」（以下「基金」という。）を平成20年4月1日から設置し、運用しています。



※第3期までは震災対策

### (2) 基金の活用額の推移について

- 基金の各年度の積立額及び活用額の推移は次のとおりです。

(単位：千円)

	平成20年度	21	22	23	24	25	26	27	28	29
基金積立額 (A)	4,373,780	2,516,044	2,577,657	2,637,010	3,669,694	3,715,355	4,714,472	4,461,752	5,162,472	4,758,471
基金活用額 (B)	832,662	866,517	767,246	1,325,687	2,667,987	3,153,171	2,829,464	2,545,014	3,683,534	4,051,986
(A) - (B) : (C)	3,541,119	1,649,527	1,810,411	1,311,322	1,001,707	562,184	1,885,008	1,916,738	1,478,938	706,485
(C) の累計	3,541,119	5,190,645	7,001,056	8,312,378	9,314,085	9,876,269	11,761,277	13,678,015	15,156,953	15,863,439

	30	令和元年度	2	3	4	5	6	合計
基金積立額 (A)	4,728,640	5,094,519	4,959,214	5,097,521	5,297,395	5,423,426	5,661,055	74,848,478
基金活用額 (B)	3,168,725	6,114,987	3,710,470	5,353,570	5,081,702	5,157,414	6,959,784	58,269,920
(A) - (B) : (C)	1,559,915	▲ 1,020,468	1,248,745	▲ 256,049	215,693	266,012	▲ 1,298,729	16,578,558
(C) の累計	17,423,353	16,402,885	17,651,630	17,395,581	17,611,274	17,877,287	16,578,558	

※ 各項目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計額とは一致しない場合があります。  
 ※ 令和6年度の基金活用額 (B) には、翌年度への繰越額を含みます。

- 令和7年3月31日現在の基金残高・・・16,690,220千円

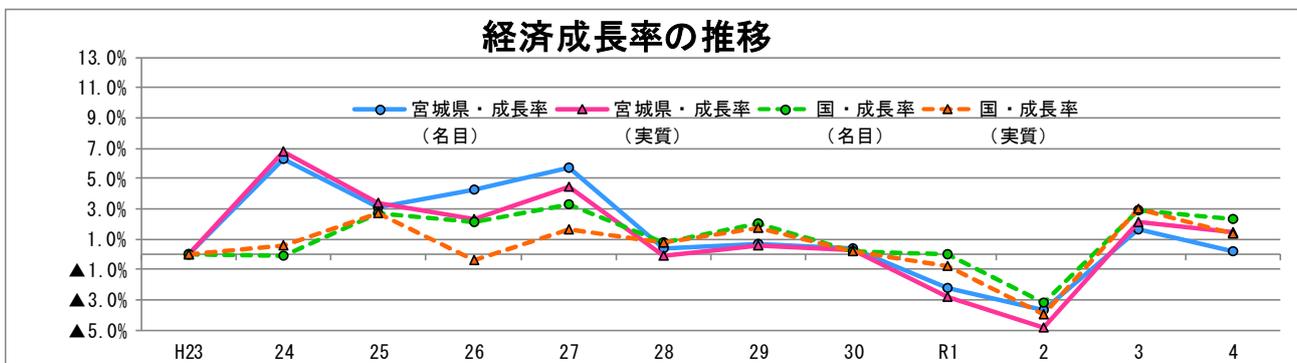
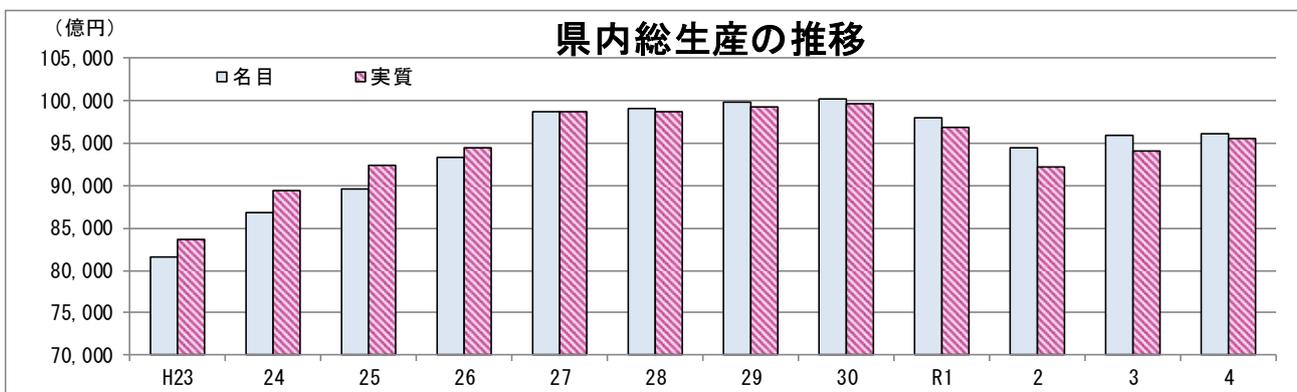
※ 令和7年3月31日現在の基金残高16,690,220千円は、令和7年度への繰越額を基金残高に含んでいるなどの理由により、上記の表中令和6年度 (C) の累計16,578,558千円とは一致しない。

### Ⅲ 県内総生産の推移等

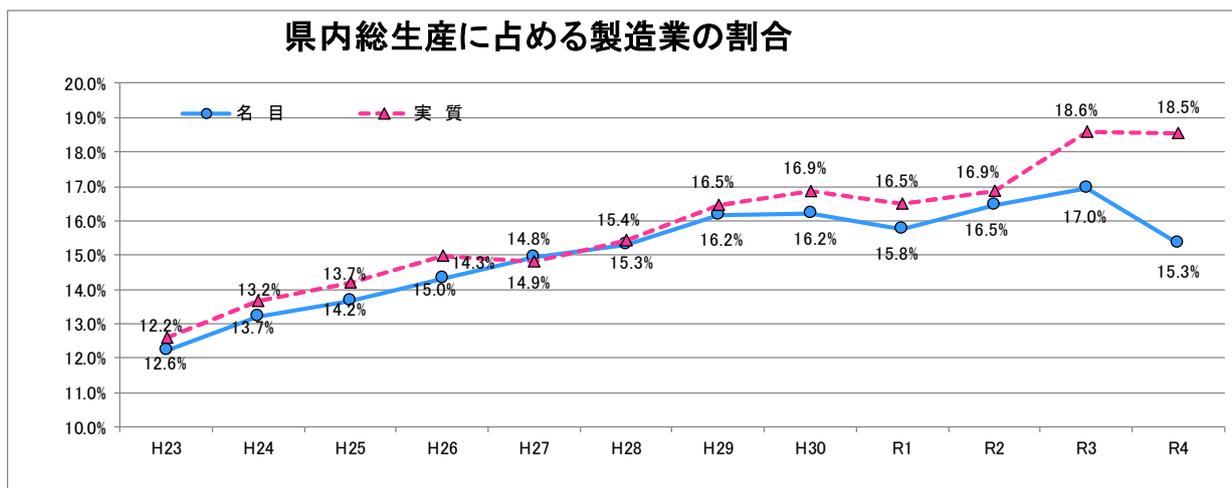
- 「みやぎ発展税」を導入した平成20年以降、リーマン・ショックを契機とした海外景気の失速、株価下落、長期にわたるデフレ経済や円高基調など、大変厳しい経済状況が続き、平成23年3月に発生した東日本大震災の影響により、本県の経済及び社会基盤は、大きな打撃を受けました。
- 平成24年度以降は、復興の進展に伴う経済活動の活性化に加えて、企業誘致や地元企業の取引拡大などの効果もあり、平成30年度には、県内総生産（名目）が10兆円に達しました。直近の実績値である令和4年度の県内総生産は、新型コロナウイルス感染症の影響による落ち込みからの持続的な回復により、名目で9兆6,147億円（対前年度比0.2%増）、実質で9兆5,529億円（同1.5%増）となりました。

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
県内総生産（名目）	81,657	86,779	89,509	93,372	98,718	99,132	99,843	100,266	98,055	94,393	95,975	96,147
県内総生産（実質）	83,634	89,353	92,407	94,522	98,768	98,694	99,251	99,596	96,829	92,206	94,138	95,529
宮城県・成長率（名目）	—	6.3%	3.1%	4.3%	5.7%	0.4%	0.7%	0.4%	▲2.2%	▲3.7%	1.7%	0.2%
宮城県・成長率（実質）	—	6.8%	3.4%	2.3%	4.5%	▲0.1%	0.6%	0.3%	▲2.8%	▲4.8%	2.1%	1.5%
<参考> 国・成長率（名目）	—	▲0.1%	2.7%	2.1%	3.3%	0.8%	2.0%	0.2%	0.0%	▲3.2%	2.9%	2.3%
<参考> 国・成長率（実質）	—	0.6%	2.7%	▲0.4%	1.7%	0.8%	1.8%	0.2%	▲0.8%	▲3.9%	3.0%	1.4%

出典：令和4年度宮城県民経済計算  
2024年度国民経済計算推計（内閣府経済社会総合研究所国民経済計算部）



- 本県においては、「みやぎ発展税」を活用した施策をはじめとした様々な取組により、平成20年度以降、自動車関連産業や高度電子機械産業を中心として世界トップクラスの企業が県内に立地するなど製造業の集積が着実に進み、県内総生産に占める製造業の割合は、東日本大震災の影響により平成23年度以降、一貫して上昇してきました。直近の実績値である令和4年度は、名目では原油高や円安の影響で、石油・石炭製品への中間投入が増加したこと等により製造業の割合が低下したものの、実質では比較可能な平成23年度以降で過去最高となった前年度と同水準となりました。



※1 実質値は平成27暦年を参照年とする連鎖方式で推計されており、連鎖方式による実質値には加法整合性がないため、総数と内訳の和は一致しない。

- 県内の製造品出荷額等は、東日本大震災の影響により、平成23年に大きく落ち込んだ後、着実に回復を続け、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により再度減少したものの、高度電子機械産業が大きく伸びたことなどにより順調な伸びを見せ、令和4年には5兆4,829億円（対前年比9.6%増）と2年連続で過去最高額を記録しました。発展税導入以降の製造品出荷額等の伸び率は54%で、都道府県の中で最も高い値となっています。（全国平均：7%）

製造品出荷額等	(単位：億円)															
	平成19年	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和元年	2	3	4
宮城県	35,516	35,387	29,441	35,689	27,673	34,242	37,265	39,722	40,171	41,128	44,696	46,656	45,336	43,580	50,034	54,829
全国	3,367,566	3,355,788	2,652,590	2,891,077	2,849,688	2,887,276	2,920,921	3,051,400	3,131,286	3,021,852	3,190,358	3,318,094	3,225,334	3,020,033	3,302,200	3,617,749

出典：平成19～令和2年宮城県の工業統計（確報）  
 経済産業省工業統計調査（2020年産業別統計表（概要版））  
 令和3年経済センサス活動調査（産業別集計（製造業）に関する集計（概要版））  
 2022～23年 経済構造実態調査（製造業事業所調査）



## IV パッケージごとの実績と成果

「みやぎ発展税」を活用した事業についてパッケージごとに事業実績と成果を紹介します。

【事業費・基金活用額一覧】

(単位:千円)

活用項目	産業振興パッケージ							災害対策パッケージ (震災対策パッケージ)			合計	
	企業集積 促進	技術高度化 支援 (～H29: 旧中小企業 技術高度化 支援)	中小企業・ 小規模事業者 活性化	人材育成促進 (～H29: 旧人づくり支援)	人材確保支援	地域産業 振興促進	小計	災害に 対応する 産業活動 基盤の強化	防災体制 の整備	小計		
平成20年度	事業費	1,348,859	195,382		74,175		145,861	1,764,277	649,345	54,780	704,124	2,468,402
	うち基金 活用額	301,813	195,382		34,196		117,571	648,963	128,920	54,780	183,699	832,662
平成21年度	事業費	1,567,842	72,443		109,764		219,138	1,969,188	823,230	57,607	880,837	2,850,024
	うち基金 活用額	522,620	72,443		53,008		88,893	736,965	93,046	36,507	129,553	866,517
平成22年度	事業費	689,125	64,250		51,509		263,483	1,068,367	755,673	209,642	965,315	2,033,682
	うち基金 活用額	207,522	63,020		24,406		167,204	462,152	109,552	195,542	305,094	767,246
平成23年度	事業費	1,092,894	29,022		10,644		90,901	1,223,461	206,827	23,917	230,744	1,454,205
	うち基金 活用額	1,092,894	28,250		10,644		59,156	1,190,943	125,927	8,817	134,744	1,325,687
平成24年度	事業費	2,292,790	37,042		42,233		188,658	2,560,723	492,859	187,886	680,745	3,241,468
	うち基金 活用額	2,282,090	36,551		15,409		167,148	2,501,198	79,066	87,723	166,789	2,667,987
平成25年度	事業費	2,723,204	127,473		86,307		243,699	3,180,684	2,944	95,292	98,236	3,278,919
	うち基金 活用額	2,709,604	126,308		25,559		236,949	3,098,420	2,944	51,807	54,751	3,153,171
平成26年度	事業費	2,367,478	83,177		48,287		315,289	2,814,231	10,114	66,327	76,441	2,890,672
	うち基金 活用額	2,340,812	80,164		47,334		306,289	2,774,600	10,114	44,750	54,864	2,829,464
平成27年度	事業費	2,009,990	184,303		53,270		233,526	2,481,090	38,983	64,518	103,501	2,584,590
	うち基金 活用額	1,991,690	181,562		52,397		232,064	2,457,714	38,983	48,318	87,301	2,545,014
平成28年度	事業費	2,571,402	216,875		98,174		835,523	3,721,975	22,433	69,108	91,541	3,813,516
	うち基金 活用額	2,544,802	213,320		97,297		753,938	3,609,358	22,433	51,743	74,176	3,683,534
平成29年度	事業費	3,335,529	282,488		93,437		337,804	4,049,258	26,938	53,559	80,497	4,129,756
	うち基金 活用額	3,316,429	279,394		92,737		282,928	3,971,488	26,938	53,559	80,497	4,051,986
平成30年度	事業費	2,039,164	254,146	132,747	98,555	99,741	187,839	2,812,192	348,215	53,161	401,376	3,213,568
	うち基金 活用額	2,026,264	250,038	132,747	97,855	99,741	160,704	2,767,349	348,215	53,161	401,376	3,168,725
令和元年度	事業費	4,800,126	238,861	161,909	93,267	83,619	195,979	5,573,761	438,972	117,938	556,910	6,130,670
	うち基金 活用額	4,794,326	237,170	154,912	92,567	83,619	195,484	5,558,078	438,972	117,938	556,910	6,114,987
令和2年度	事業費	2,522,816	368,084	171,672	82,768	82,751	465,090	3,693,181	233,772	49,316	283,088	3,976,269
	うち基金 活用額	2,514,006	199,722	165,023	79,739	82,751	415,005	3,456,248	233,772	20,450	254,222	3,710,470

【事業費・基金活用額一覧】

(単位:千円)

活用項目	産業振興パッケージ							災害対策パッケージ (震災対策パッケージ)			合計	
	企業集積 促進	技術高度化 支援 (~H29: 旧中小企業 技術高度化 支援)	中小企業・ 小規模事業者 活性化	人材育成促進 (~H29: 旧人づくり支援)	人材確保支援	地域産業 振興促進	小計	災害に 対応する 産業活動 基盤の強化	防災体制 の整備	小計		
令和3年度	事業費	4,249,282	1,018,812	215,613	90,004	68,162	240,871	5,882,743	11,836	30,268	42,104	5,924,847
	うち基金 活用額	4,244,571	459,022	211,766	89,257	68,162	238,689	5,311,466	11,836	30,268	42,104	5,353,570
令和4年度	事業費	4,069,179	422,520	304,357	103,839	45,813	307,979	5,253,686	14,513	43,489	58,002	5,311,688
	うち基金 活用額	3,848,065	419,170	302,067	103,263	45,813	305,323	5,023,702	14,513	43,488	58,001	5,081,702
令和5年度	事業費	4,032,074	408,488	385,843	126,796	102,176	337,912	5,393,289	95,273	56,560	151,832	5,545,122
	うち基金 活用額	3,843,052	403,722	384,160	38,202	83,130	330,627	5,082,893	17,973	56,549	74,521	5,157,414
令和6年度	事業費	4,171,916	509,171	464,096	383,366	163,519	2,482,750	8,174,819	182,251 (93,361)	74,155 (10,000)	256,405 (103,361)	8,431,224 (103,361)
	うち基金 活用額	3,936,555	504,452	464,096	382,396	142,843	1,407,391	6,837,732	28,551 (9,361)	74,140 (10,000)	102,690 (19,361)	6,940,422 (19,361)
合計	事業費	45,883,670	4,512,539	1,836,237	1,646,395	645,781	7,092,303	61,616,925	4,447,537	1,317,522	5,765,059	67,381,984
	うち基金 活用額	42,517,116	3,749,691	1,814,771	1,336,267	606,059	5,465,363	55,489,268	1,741,114	1,039,538	2,780,652	58,269,920

※1 令和6年度は令和7年度への繰越額を外数として(かっこ書き)で記載。なお、合計には、令和7年度への繰越額を含みます。

※2 項目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計額とは合致しない場合があります。

【参考】

(単位:千円)

活用項目	産業振興パッケージ							災害対策パッケージ (震災対策パッケージ)			合計	
	企業集積 促進	技術高度化 支援 (~H29: 旧中小企業 技術高度化 支援)	中小企業・ 小規模事業者 活性化	人材育成促進 (~H29: 旧人づくり支援)	人材確保支援	地域産業 振興促進	小計	災害に 対応する 産業活動 基盤の強化	防災体制 の整備	小計		
第1期計	事業費	6,991,509	398,140	/	288,325	/	908,043	8,586,016	2,927,933	533,832	3,461,765	12,047,781
	うち基金 活用額	4,406,938	395,646	/	137,663	/	599,974	5,540,221	536,510	383,368	919,879	6,460,100
第2期計	事業費	13,007,605	894,317	/	379,475	/	1,965,840	16,247,237	101,412	348,804	450,216	16,697,453
	うち基金 活用額	12,903,339	880,748	/	315,325	/	1,812,167	15,911,580	101,412	250,177	351,589	16,263,168
第3期計	事業費	17,680,566	2,302,423	986,298	468,432	380,086	1,397,758	23,215,563	1,047,307	294,171	1,341,479	24,557,042
	うち基金 活用額	17,427,232	1,565,122	966,515	462,681	380,086	1,315,205	22,116,842	1,047,307	265,305	1,312,612	23,429,454
第4期計	事業費	8,203,990	917,659	849,939	510,163	265,695	2,820,662	13,568,108	370,884	140,715	511,599	14,079,707
	うち基金 活用額	7,779,607	908,174	848,255	420,598	225,973	1,738,017	11,920,625	55,884	140,688	196,573	12,117,198
合計	事業費	45,883,670	4,512,539	1,836,237	1,646,395	645,781	7,092,303	61,616,925	4,447,537	1,317,522	5,765,059	67,381,984
	うち基金 活用額	42,517,116	3,749,691	1,814,771	1,336,267	606,059	5,465,363	55,489,268	1,741,114	1,039,538	2,780,652	58,269,920

※1 第4期計には、令和7年度への繰越額を含みます。

※2 項目ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計額とは合致しない場合があります。

**産業振興・災害対策パッケージ合計 [R6活用額:約69億6千万円] [※H20～R6活用額合計:約583億円]**

<p><b>1 産業振興パッケージ [R6活用額:約68億4千万円] [※H20～R6活用額合計:約555億円]</b></p> <p><b>(1) 企業集積促進</b></p> <p>▽ 企業立地奨励金をはじめとする積極的な企業誘致施策を展開し、新たな立地や地元企業の工場の増設等が進捗したほか、半導体関連産業の誘致・集積に向けた取組方針を策定しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「みやぎ企業立地奨励金事業」(実績・成果等) ・交付件数:18件[R6]・立地件数:239社[H21～R6累計] ・奨励金による新規雇用者数:29,743人[R7.4現在]</li> <li>◆「企業誘致活動強化事業」(実績・成果等) ・半導体産業の誘致・集積等に関する県の基本的な方針である「みやぎ半導体産業振興ビジョン」の策定・公表[R6]</li> </ul>	<p><b>(2) 技術高度化支援 (旧:中小企業技術高度化支援)</b></p> <p>[R6活用額:約5億1千万円]</p> <p>▽ 県内中小企業の競争力強化のため、技術力や研究開発力、営業力等の向上を支援し、取引の創出・拡大につなげました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「新規参入・新産業創出等支援事業」(実績・成果等) ・交付件数:12件[R6] ・実用化・商品化件数:24件[H27～R6累計]</li> <li>◆「放射光施設利用促進事業」(実績・成果等) ・「放射光利用実地研修」の開催:1.4回 [H26～R6累計] ・教育機関(高等学校等)のナノテラス利用:3校[R6]</li> </ul>	<p><b>(3) 中小企業・小規模事業者活性化</b></p> <p>[R6活用額:約4億6千万円]</p> <p>▽ 中小企業・小規模事業者の持続的発展・成長に向け、デジタル化を含む生産性改善支援や創業・第二創業の加速化に向けた取組を推進しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「中小企業等デジタル化支援事業」(実績・成果等) ・アドバイザー派遣:571回[R6] ・交付件数:112件 [同上]</li> <li>◆「テック系スタートアップ成長支援事業」(実績・成果等) ・テックスタ宮城の設置・運営[R5～6] ・個別マッチング数:96件[R5～6累計] ・支援対象数及び構成員数:166者 [同上]</li> </ul>
<p><b>(4) 人材育成促進 (旧:アスや皮助)</b> [R6活用額:約3億8千万円]</p> <p>▽ 産業界から大学、高校まで一体となり、実践的な研修やものづくり産業等の認知度の向上などの取組を実施し、即戦力となる人材等を育成しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「外国人材受入体制モデル構築事業」(実績・成果等) ・奨励金の交付:1件(大崎市立おおさき日本語学校) [R6]</li> <li>◆「半導体人材育成・産学連携推進事業」(実績・成果等) ・半導体PR冊子の作成及び配布 [R6] ・半導体人材育成関係機関連絡調整会議の開催[同上] ・高校教員向け半導体研修会の開催[同上] ・小中学生向けイベントの開催:1回、744人参加[同上]</li> </ul>	<p><b>(5) 人材確保支援</b> [R6活用額:約1億4千万円]</p> <p>▽ 企業の外国人材確保支援や、人材の県外流出抑制、県内への還流促進に取り組み、企業の人材確保を支援しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「外国人材現地ジョブフェア事業」(実績・成果等) ・「みやぎジョブフェアinインドネシア」参加企業数:46社[R6] ・参加企業への就職を支援したインドネシア人:146人[同上]</li> <li>◆「ものづくりカリキュラムプロジェクト推進事業」(実績・成果等) ・開学式、企業説明会等:ものづくり企業数延べ75社及びひ参加学生数延べ1,165人[R6]</li> </ul>	<p><b>(6) 地域産業振興促進</b> [R6活用額:約14億1千万円]</p> <p>▽ 地域経済を支える商業の振興や農林水産業の競争力強化を図り、新たな課題等に対しても機動的に事業を展開しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「ものづくり海外販路開拓支援事業」(実績・成果等) ・県産工業品テストマーケットの実施:24社[R6]</li> <li>◆「地域ポイント等導入支援事業」(実績・成果等) ・「みやぎ防災」アプリの登録者数:約62万人[R6] ・「みやぎポイント」消費額:約18億円(国庫等を含む) [同上]</li> </ul>
<p><b>2 災害対策パッケージ [R6活用額:約1億2千万円] [※H20～R6活用額合計:約28億円]</b></p>		
<p><b>(1) 災害に対応する産業活動基盤の強化</b> [R6活用額:約4千万円]</p> <p>▽ 多くの県民が利用する施設の耐震化を推進するなど、災害時にける県民生活の安全と経済活動の確保を図りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「小学校スクールゾーン内ブロック塀等除却助成事業」(実績・成果等) ・交付件数:25市町96件[R6] ・H30の県等の調査で「除却が必要」と判定されたブロック塀のうち改善されたもの:24箇所 [R1～6累計]</li> </ul>		
<p><b>(2) 防災体制の整備</b></p> <p>▽ 防災体制の充実に向け、東日本大震災などの大規模な災害の教訓を生かし、地域の防災対策の中心となる人材の養成等を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「地域防災リーダー育成等推進事業」(実績・成果等) ・地域防災リーダー養成講習 ・地域防災コース:544人受講、企業防災コース:41人受講[R6] ・養成講習等受講者数:10,386人[H21～R6累計]</li> </ul>		
<p><b>(3) 防災体制の整備</b></p> <p>[R6活用額:約8千万円]</p> <p>▽ 防災体制の充実に向け、東日本大震災などの大規模な災害の教訓を生かし、地域の防災対策の中心となる人材の養成等を実施しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆「地域防災リーダー育成等推進事業」(実績・成果等) ・「みやぎ防災」アプリの登録者数:約62万人[R6] ・「みやぎポイント」消費額:約18億円(国庫等を含む) [同上]</li> </ul>		



みやぎハロー  
半導体バージョン

# 1 産業振興パッケージ

## 平成20～令和6年度事業費 61,727百万円(基金活用額 55,489百万円)

- [第1期(平成20～24年度)事業費 8,586百万円(基金活用額 5,540百万円)]
- [第2期(平成25～29年度)事業費 16,247百万円(基金活用額 15,912百万円)]
- [第3期(平成30～令和4年度)事業費 23,216百万円(基金活用額 22,117百万円)]
- [第4期(令和5～6年度)事業費 13,678百万円(基金活用額 11,921百万円)]

「産業振興パッケージ」では、企業誘致策の強化や技術高度化などによる県内中小企業等の競争力強化、産業振興の基礎である産業人材の育成・確保により、高度電子機械産業や自動車関連産業を中心とした製造業の集積促進に向けた取組を進めてまいりました。また、「富県宮城の実現」の成果を県内各地域で享受できるように、魅力ある地域資源を活用した観光産業、農林水産業、食品製造業等の付加価値向上に取り組ましました。

### 1-1 企業集積促進

## 平成20～令和6年度事業費 45,884百万円(基金活用額 42,517百万円)

- [第1期(平成20～24年度)事業費 6,992百万円(基金活用額 4,407百万円)]
- [第2期(平成25～29年度)事業費 13,008百万円(基金活用額 12,903百万円)]
- [第3期(平成30～令和4年度)事業費 17,681百万円(基金活用額 17,427百万円)]
- [第4期(令和5～6年度)事業費 8,204百万円(基金活用額 7,780百万円)]

企業立地奨励金をはじめとする積極的な企業誘致施策を展開し、新たな立地や地元企業の工場の増設等が進捗しました。

### (1)みやぎ企業立地奨励金事業

- 平成21～令和6年度事業費 34,172,824千円(基金活用額 34,172,824千円)
  - [第1期(平成20～24年度)事業費 3,462,394千円(基金活用額 3,462,394千円)]
  - [第2期(平成25～29年度)事業費 11,168,880千円(基金活用額 11,168,880千円)]
  - [第3期(平成30～令和4年度)事業費 12,789,540千円(基金活用額 12,789,540千円)]
  - [第4期(令和5～6年度)事業費 6,752,010千円(基金活用額 6,752,010千円)]
- 県内に工場等を新設又は増設する企業に対し、企業立地奨励金を交付。

#### ① 事業の実績

年度	交付件数	交付額
平成21年度	2件	4,437千円
平成22年度	9件	112,807千円
平成23年度	13件	1,077,260千円
平成24年度	20件	2,267,890千円
平成25年度	21件	2,679,360千円
平成26年度	23件	1,910,970千円

## IV「1 産業振興パッケージ」「1-1 企業集積促進」

年度	交付件数	交付額
平成27年度	17件	1,574,150千円
平成28年度	24件	2,356,420千円
平成29年度	32件	2,647,980千円
平成30年度	18件	1,367,550千円
令和元年度	26件	1,567,720千円
令和2年度	25件	1,929,530千円
令和3年度	32件	4,202,450千円
令和4年度	26件	3,722,290千円
令和5年度	16件	3,707,840千円
令和6年度	18件	3,044,170千円
第1期通算	44件	3,462,394千円
第2期通算	117件	11,168,880千円
第3期通算	127件	12,789,540千円
第4期通算	34件	6,752,010千円
通算	322件 (239社)	34,172,824千円

※ 奨励金を複数年度に分割して交付した場合、年度ごとに1件と数えている。(注1)

(注1) 奨励金は、企業の立地決定後、まず工事着手前に奨励金対象工場として指定したのち、操業を開始した翌年度以降に交付します。

なお、1年度あたり5億円を超える場合は、複数年度に分割して交付することとしています。

### ② 事業の成果

#### イ 立地件数

令和6年度までの企業立地件数のうち、「みやぎ企業立地奨励金」の交付企業は239社になります(注2)。

(注2) 経済産業省の「工場立地動向調査」によれば、平成20年から令和6年までの17年間で、429件(電気業を除く。)の企業立地がありました。

なお、工場立地動向調査の対象は、製造業の企業が1,000㎡以上の用地を取得又は借地した場合であり、「みやぎ企業立地奨励金」の対象企業とは、対象・時点が一致していないことから件数は同一にはなりません。

#### ロ 雇用創出数

奨励金交付対象工場等のうち、すでに操業し、令和6年度までに奨励金を交付した工場等(239社うち操業中止8社)の雇用者数(令和7年4月1日現在)は、29,743人(うち正社員18,554人)となっており、令和7年度以降に交付予定の雇用見込数も合わせると30,796人となります。



トヨタ自動車東日本株式会社(大衡村)

## 主 な 立 地 企 業

年度	企 業 名	産 業 分 野	立 地 市 町 村
平成20年度	セントラル自動車(株) (現トヨタ自動車東日本(株))	自動車関連産業	大衡村
	パナソニックEVエナジー(株) (現プライムアースEVエナジー(株))	自動車関連産業	大和町
	アイシン高丘東北(株)	自動車関連産業	大衡村
	(株)金沢村田製作所	高度電子機械産業	仙台市泉区
	白石食品工業(株)	食品関連産業	大和町
	山田水産(株)	食品関連産業	石巻市
平成21年度	トヨタ紡織東北(株)	自動車関連産業	大衡村
	東京エレクトロン宮城(株)	高度電子機械産業	大和町
平成22年度	トヨタテツ東北(株)	自動車関連産業	登米市
	(株)ジャムコ	航空宇宙関連産業	名取市
	(株)東北フジパン	食品関連産業	岩沼市
	(株)高政	食品関連産業	女川町
平成23年度	フクダ電子(株)	高度電子機械産業	大和町
	セコム工業(株)	高度電子機械産業	白石市
	レンゴー(株)	木材関連産業	大和町
平成24年度	中央精機東北(株)	自動車関連産業	大衡村
	ポラテック東北(株)	木材関連産業	加美町
	(株)読売新聞東京本社	印刷業	大和町
平成25年度	舞台アグリイノベーション(株)	食品関連産業	亘理町
	(株)コバヤシ	食品関連産業	大和町
平成26年度	(株)スタンレー宮城製作所	自動車関連産業	登米市
	豊田合成東日本(株)	自動車関連産業	栗原市
	メルコジャパン(株)	航空宇宙関連産業	山元町
	スギ製菓(株)	食品関連産業	塩竈市
平成27年度	丸電プレス工業(株)	自動車関連産業	栗原市
	タツタ電線(株)	高度電子機械産業	大和町
	マルハニチロ(株)	食品関連産業	石巻市
	(株)コスメティック・アイーダ	化粧品製造業	亘理町
	(株)TBM	土石製品製造業	多賀城市
平成28年度	アルプス電気(株) (現アルプスアルパイン(株))	高度電子機械産業	大崎市
	(株)ハイレックスコーポレーション	自動車関連産業	栗原市
	(株)イノアックコーポレーション	自動車関連産業	栗原市
平成29年度	CKD(株)	高度電子機械産業	大衡村
	日本積層造形(株)	高度電子機械産業	多賀城市
	(株)ワイ・デー・ケー	高度電子機械産業	大和町
	(株)ヤヨイサンフーズ	食品関連産業	気仙沼市
平成30年度	エスファクトリー東北(株)	食品関連産業	登米市
	トライデントオサベフーズ(株)	食品関連産業	登米市
	(株)I.D.F	高度電子機械産業	石巻市

IV「1 産業振興パッケージ」 「1-1 企業集積促進」

令和元年度	(株)ケーヒン (現日立Astemo (株))	自動車関連産業	村田町
	スターゼン(株)	食品関連産業	多賀城市
	(株)ニッケ機械製作所	生産用機械器具製造業	登米市
	牧野精工(株)	高度電子機械産業	登米市
令和2年度	(株)イズミテクノ	高度電子機械産業	大衡村
	(株)旭洋工業製作所	自動車関連産業	登米市
	(株)ウェルファムフーズ	食品関連産業	涌谷町
	豊田合成東日本(株)	自動車関連産業	大衡村
令和3年度	アルプスアルパイン(株)	高度電子機械産業	大崎市
	(株)サワ	生産用機械器具製造業	東松島市
	J A全農ラドファ(株)	食品関連産業	色麻町
令和4年度	日本ファインセラミックス(株)	高度電子機械産業	富谷市
	(株)NTKセラテック	高度電子機械産業	富谷市
	宮城製粉(株)	食品関連産業	亘理町
令和5年度	(株)小糸製作所	自動車関連産業	名取市
	(株)ライト製作所	高度電子機械関連産業	大和町
	(株)ニューテック	高度電子機械関連産業	大衡村
令和6年度	(株)三幸	高度電子機械関連産業	名取市
	(株)KODTEC	高度電子機械関連産業	栗原市

(注1) 社名は報道等公表時点のもの。各企業の立地決定(立地表明など)をした年度毎に表示している。

(注2) 「産業分野」欄は、県の企業誘致重点戦略の最重点及び重点の8分野に位置付けられている産業名を基本としています。

**(2)工場立地基盤整備事業貸付金**

- 平成20～令和5年度事業費 3,695,540千円（基金活い用額 3,065,601千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 550,000千円（基金活用額 550,000千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 1,604,800千円（基金活用額 1,604,800千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 288,800千円（基金活用額 72,500千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 1,251,940千円（基金活用額 838,301千円）]
- 市町村が行う企業誘致を促進するため、工場用地整備に必要な資金を無利子貸付。

**① 事業の実績**

年度	貸付件数	開発面積
平成20年度	1件	1.8ha
平成21年度	1件	11.6ha
平成26年度	1件	22.5ha
平成27年度	1件	5.0ha
平成28年度	1件	3.2ha
平成29年度	2件	23.7ha
令和元年度	1件	0ha
令和4年度	1件	1.5ha
令和5年度	1件	0ha
令和6年度	1件	9.6ha
第1期通算	2件	13.4ha
第2期通算	5件	54.4ha
第3期通算	2件	1.5ha
第4期通算	2件	9.6ha
通算	11件	78.9ha

※令和元年度は平成29年度貸付分の追加貸付のため、開発面積は0haとなっている。

※令和5年度は令和4年度貸付分の追加貸付のため、開発面積は0haとなっている。

**② 事業の成果**

- ・ 本貸付金により造成した工業団地等に、令和6年度までに18社が立地しています。



貸付金を活用して造成した工業用地  
(愛島西部工業団地)

### (3) 産業用地整備設計等事業補助金

- 令和6年度事業費 20,000千円（基金活用額 20,000千円）  
 [第4期（令和6年度）事業費 20,000千円（基金活用額 20,000千円）]
- （事業概要）産業用地造成事業の実施にあたって必要な設計等事業（基本構想、基本計画、基本設計、実施設計）を行う市町村等に対し、補助金を交付。

#### ① 事業の実績

年度	実績等
令和6年度	産業用地整備及び再生可能エネルギー導入支援調査への補助：2件

#### ② 事業の成果

- ・当補助金による支援を受けた2町で設計等事業が行われ、県内における分譲可能面積（見込み含む）が増加したとともに、立地企業へ提供できる情報が充実したことにより、誘致活動の円滑化が図られました。

### (4) 情報通信関連企業立地促進奨励事業

- 平成20～令和6年度事業費 383,692千円（基金活用額 383,692千円）  
 [第1期（平成20～24年度）事業費 136,000千円（基金活用額 136,000千円）]  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 16,845千円（基金活用額 16,845千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 154,535千円（基金活用額 154,535千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 76,312千円（基金活用額 76,312千円）]
- 雇用拡大や地域経済の活性化を図るため、製造業等のソフトウェア設計・開発部門及び開発型IT企業に対して、初期投資軽減及び新規雇用促進のための奨励金を交付し、戦略的な企業誘致を展開。

#### ① 事業の実績

年度	交付件数	交付額
平成20年度	1件	50,000千円
平成21年度	1件	37,100千円
平成22年度	1件	48,900千円
平成25年度	1件	3,081千円
平成27年度	1件	900千円
平成29年度	3件	12,864千円
平成30年度	8件	21,178千円
令和元年度	11件	25,267千円
令和2年度	13件	45,635千円
令和3年度	6件	17,345千円
令和4年度	9件	45,060千円
令和5年度	7件	25,785千円
令和6年度	13件	46,918千円
第1期通算	3件	136,000千円
第2期通算	5件	16,845千円
第3期通算	47件	154,485千円

IV「1 産業振興パッケージ」「1-1 企業集積促進」

年度	交付件数	交付額
第4期通算	20件	72,703千円
通算	75件 (40社)	380,033千円

※ 奨励金を複数年度に分割して交付した場合、年度ごとに1件と数えている。

② 事業の成果

- ・ コールセンター（平成20～22年度まで）及び開発系IT企業の立地により、新規雇用958人分が創出されました。

その他の企業集積促進に関する事業

1-1 企業集積促進	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
名古屋産業立地センター運営事業	中京地区において、自動車関連産業を中心に企業誘致活動を強化	平成20～令和6年度 193,115 (193,037)	平成20～令和6年度にかけ、延べ7,558件の企業訪問を実施	自動車関連産業を中心に28社の県内立地に貢献
企業誘致活動強化事業	効果的な企業誘致を行うため、県内の市場調査・分析、情報収集を実施	令和5～6年度 39,998 (39,998)	半導体や蓄電池をはじめとする成長産業の誘致・集積に向けた業界・市場動向に関する調査等を実施した。	各産業に関する情報収集・分析結果を戦略的な企業誘致活動に繋げることができたほか、半導体産業の誘致・集積等に関する県の基本的な方針である『みやぎ半導体産業振興ビジョン』を策定した。
企業立地型交通安全施設整備事業	工業団地関連の交通信号機等を整備	平成20～令和6年度 289,414 (73,880)	工業団地関連の信号機50基を整備	工業団地内の交通の安全と物流の円滑化に貢献

1-2 技術高度化支援

平成20～令和6年度事業費 4,522百万円(基金活用額 3,750百万円) ※平成20～29年度:旧中小企業技術高度化支援

[第1期(平成20～24年度)事業費 398百万円(基金活用額 396百万円)]

[第2期(平成25～29年度)事業費 894百万円(基金活用額 881百万円)]

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 2,302百万円(基金活用額 1,565百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 928百万円(基金活用額 908百万円)]

【参考】第4期(令和5～6年度)企業版ふるさと納税寄附金活用額 事業費 10,244千円

県内中小企業の競争力強化のため、技術力や研究開発力、営業力等の向上を支援し、取引の創出・拡大につなげました。

(1)産学官連携素材技術活用支援事業

○ 令和5～6年度事業費 17,443千円(基金活用額 17,443千円)

[第4期(令和5～6年度)事業費 17,443千円(基金活用額 17,443千円)]

○ 材料・分析分野において、産学官連携を通じた県内事業者の技術開発力・競争力向上を図り、県内企業が有する課題の解決に向けた技術開発を推進。

① 事業の実績

- ・ セミナー及びポスター発表会を開催し、県内企業に対し、大学の研究成果や企業の取組事例等の情報を発信しました。
- ・ 産学連携を通じた県内事業者の技術開発力・競争力向上を図ることを目的に、情報収集及び課題解決支援を行いました。

年度	実績等
令和5年度	セミナー開催(3件、318人)、ポスター発表会(1件、104人)、課題解決支援の実績(7件)
令和6年度	セミナー開催(2件、201人)、セミナー等出席5件、新規学術機関訪問4件、課題解決支援の実績(6件)

② 事業の成果

- ・ セミナー等の開催により、産学連携のきっかけづくり及び成果の水平展開を図っています。
- ・ 会場とオンラインとのハイブリッド方式で開催することにより、多くの参加者を得ています。



プラスチック再生材使いこなしセミナー 開催状況



グリーンイノベーションシンポジウム 開催状況

**(2)富県宮城技術支援拠点整備拡充事業**

- 平成20～22・25～令和6年度事業費 1,499,595千円（基金活用額 1,499,595千円）  
 [第1期（平成20～24年度）事業費 251,612千円（基金活用額 251,612千円）]  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 355,604千円（基金活用額 355,604千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 548,946千円（基金活用額 548,946千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 343,433千円（基金活用額 343,433千円）]
- 地域企業が単独で保有することの難しい機器を宮城県産業技術総合センターに整備し、新製品開発支援や技術高度化支援を実施。

**① 事業の実績**

- ・ 自動車関連産業や高度電子機械産業等における技術高度化に向けた基盤を整備するため、地域企業が単独で保有することが難しい以下の47機器を産業技術総合センターに設置しました。

年度	設置機器
平成20年度	大型連続式放電プラズマ焼結装置（SPS）
平成21年度	車載機器用EMC試験装置
平成22年度	味・香り評価装置
平成25年度	複合環境試験装置、切削・研削評価装置、クリーブ試験機
平成26年度	高速引張試験機
平成27年度	高機能マテリアル3Dプリンターシステム、ポータブル3Dデジタイザ、非接触三次元表面粗さ測定機
平成28年度	走査型電子顕微鏡FE-SEM、高速液体クロマトグラフ
平成29年度	化合物分析システム、回転式動的粘弾性測定装置、ヘッドスペースガスクロマトグラフ、磁場中熱処理装置、温度可変振動試料型磁力計
平成30年度	食品分析評価支援装置、三次元モデル設計システム、高品位グラフィック処理システム、難加工性材切削評価システム、紫外可視近赤外分光光度計、電源ノイズアナライザ、リアルタイムスペクトラムアナライザ
令和元年度	酒造関連支援設備（超低温フリーザー（微生物用）、オートクレーブ、サーマルタンク、クリーンベンチ）、エンジニアリングプラスチック造形システム
令和2年度	真空凍結乾燥装置、大容量冷却遠心分離機
令和3年度	真空ホットプレス、高精度3次元形状検査システム、CAEシステム、ガスクロマトグラフ質量分析装置、X線光電子分光装置、エネルギー分散型蛍光X線分析装置
令和4年度	電波暗室測定システム、超低温恒温恒湿槽、電界放出型電子プローブマイクロアナライザー、超高速液体クロマトグラフ質量分析システム
令和5年度	シールドボックス、静電気放電イミュニティ試験装置、味評価装置、テクスチャー評価装置、加工特性評価システム、BCI試験機、耐電圧試験機
令和6年度	三次元座標測定機、万能試験機



万能試験機



三次元座標測定機

## ② 事業の成果

- 自動車部品の新製品開発の評価や新素材の開発など、導入した機器を活用した県内中小企業等への技術支援を7,284件（平成20～令和6年度）実施しています。

設置機器	機器概要等
大型連続式放電プラズマ焼結装置（SPS）	地域企業が県の技術支援を受けながら、本装置を活用し、金属やセラミックス粉末を焼き固めて作製する材料の大型化が可能となりました。
車載電子機器用EMC試験装置	自動車産業関連企業が開発した車載機器を県内で試験することができるようになりました。
味・香り評価装置	食品加工業関連企業の新製品開発に必要な、食品素材の味評価等、食品加工に関する評価を行うことができるようになりました。
複合環境試験装置	自動車部品の製品化にあたり必須の試験である“温度・湿度を制御しながら行う振動試験”が実施できるようになりました。
切削・研削評価装置	切削・研削加工面の評価や精密加工等で使用する工具等の摩耗状態の評価が可能となりました。
クリープ試験機	プラスチック材料の耐久性評価の一つであるクリープ試験が可能となりました。
高速引張試験機	製品の使用環境に即した速度域での試験及び圧縮・引張のサイクル試験が可能となりました。
高機能マテリアル3Dプリンターシステム	3次元CADデータから耐熱樹脂による型を直接造形し、ウレタンゴムなどの樹脂モデル用型の短時間作製が可能となりました。
ポータブル3Dデジタル	自動車や高度電子産業分野における大型複雑形状工業製品の短時間3次元形状計測が可能となりました。
非接触三次元表面粗さ測定機	半導体産業や光学部品の評価に必要なナノメートル単位の表面性状の計測・評価が可能となりました。
走査型電子顕微鏡FE-SEM	元素分析を行うことができ、製品の開発等において、素材を詳細に観察・分析することが可能となりました。
高速液体クロマトグラフ	農林水産物や加工食品に含まれる栄養成分、機能性成分の測定、加工食品の加工条件による品質評価が可能となりました。
化合物分析システム	開発した材料が設計どおりに作られているかの評価や、製品に付着した細かな異物の種類を特定することが可能となりました。
回転式動的粘弾性測定装置	食品や工業製品の硬さや柔らかさ、粘り気を数値化して評価することが可能となりました。
ヘッドスペースガスクロマトグラフ	食品、飲料等の高付加価値化や品質保証のため、「香り」を数値化して評価することが可能となりました。
磁場中熱処理装置	高度電子機械や自動車の製造工程を高度化するために必要なセンサー開発に用いられる磁性材料等を作ることが可能となりました。
温度可変振動試料型磁力計	高度電子機械や自動車の製造工程を高度化するために必要なセンサー開発に用いられる磁性材料等の磁気特性の測定が可能となりました。
食品分析評価支援装置	食品中に含まれる糖・タンパク質等の濃度や微生物の繁殖に関する水分量、カロリーや色調等、食品の開発に必要な測定が可能となりました。
三次元モデル設計システム	3DCADソフトウェア及びワークステーション一式。県内ものづくり企業による3Dものづくりの支援が可能となりました。
高品位グラフィック処理システム	グラフィック処理ソフトウェア及びプリンターからなる、商品パッケージの開発や試作支援が可能となりました。

IV「1 産業振興パッケージ」 「1-2 技術高度化支援」

設置機器	機器概要等
難加工性材切削評価システム	航空機材料等に用いられる難加工材を加工する際に工具にかかる負担（工具磨耗具合、工具先端温度等）を計測し、最適な加工条件を導出することが可能となりました。
紫外可視近赤外分光光度計	目には見えない波形の光を用い、その反射率を測定することで、溶液や固体試料、食品等、様々な物質の成分分析が可能となりました。
電源ノイズアナライザ	電源周辺で発生するノイズを測定することが可能となりました。
リアルタイムスペクトラムアナライザ	工場等の現場で不定期に発生したりなくなったりする電子ノイズを確実に捉えることが可能となりました。
酒造関連支援設備	清酒用酵母の開発や酒造用米候補品種の評価に当たり、試験醸造を行うことが可能となりました。
エンジニアリングプラスチック造形システム	エンジニアリングプラスチック材料による造形が可能となり、強度が必要な部品を短時間で製作することが可能となりました。
真空凍結乾燥装置	食品の凍結及び乾燥を同時に行う装置であり、加工食品等の試作開発等が可能となりました。
大容量冷却遠心分離機	食品バイオ関連の試験や分析のための前処理として用いられ、味噌などの半固形物の濃縮、乳酸菌などの微生物の分離濃縮、清酒試験醸造の際の上槽などが可能になりました。
真空ホットプレス	1000kNの加圧ロッド、各パラメーターのプログラムコントローラーを搭載し、自動で高温高压を必要とする焼結品試作が可能となりました。
高精度3次元形状検査システム	精密/光沢部品や1メートル以上の大型部品に対する高精度な3次元形状測定が可能となりました。
CAEシステム	流体シミュレーションの機能が強化され、気体中の液体の挙動や、微粒化された液体の分散過程などの解析が可能となりました。また、同時に導入した各種センサー類により実験とシミュレーションの整合性の確認が可能となりました。
ガスクロマトグラフ質量分析装置	オートサンプラーを装備し、多サンプルを連続分析することが可能となりました。また、熱脱着システムを搭載し、高効率で微量香気成分の分析が可能になりました。
X線光電子分光装置	アルゴンクラスターガスイオン銃を装備したことにより、表面のエッチングダメージを受けやすいポリマーなどの深さ方向分析が容易になりました。また、数百 $\mu\text{m}$ 四方の微小領域の元素マッピングが可能になりました。
エネルギー分散型蛍光X線分析装置	前処理をせず、数十 $\mu\text{m}$ サイズの試料を軽元素から測定できるため、微小異物の特定や軽元素で構成される物質の分析が可能となりました。また試料の凹凸に追従した元素マッピングが可能となりました。
電波暗室測定システム	最新の国際規格に準拠した、電子機器製品の放射エミッション測定（不要ノイズ測定）および放射イミュニティ試験（ノイズ耐性評価）が可能となりました。
超低温恒温恒湿槽	企業が開発、製造あるいは販売する製品や部品を長期間槽内に配置することで、対象部品等の耐環境性能や信頼性を評価あるいは不具合抽出を行うことが可能となりました。
電界放出型電子プローブマイクロアナライザー	高性能分光結晶、軟X線分光器を搭載し、鮮明な高倍率観察と詳細な元素マッピングが可能となりました。
超高速液体クロマトグラフ質量分析システム	アミノ酸や糖、有機酸等の定量分析を行う装置であり、最大4本のカラムをバルブ切り替えにより選択することが可能となりました。
シールドボックス	地域企業の製品評価に効率よく対応することが可能となりました。
静電気放電イミュニティ試験装置	最新の国際規格に準拠した、電子機器製品の静電気放電イミュニティ試験が可能となりました。
味評価装置	食品に含まれる成分をセンサーで取得することにより、官能評価の数値化を行うことが可能となりました。
テクスチャー評価装置	食品の食感等の定量的評価、工業製品の微小応力測定、食品・化粧品等生活用品の滑り・塗布性評価等が可能となりました。

IV「1 産業振興パッケージ」「1-2 技術高度化支援」

設置機器	機器概要等
加工特性評価システム	プラスチックをはじめとする高分子材料を溶かし混ぜ合わせ、形作る加工設備であり、同時に溶けたときの特性も評価することが可能となりました。
B C I 試験機	最新の国際規格に準拠した、車載用電子機器製品への試験（ノイズ耐性評価）が可能となりました。
耐電圧試験機	電気用品安全法や薬機法に準拠した、耐電圧試験および絶縁抵抗試験等が可能となりました。
三次元座標測定機	自動車や建設機器、半導体関連の大型部品の精度検査が可能となりました。
万能試験機	金属やプラスチック、種々の複合材料等、各種材料及び様々な製品、部品の試験を効率よく正確に実施することが可能となりました。

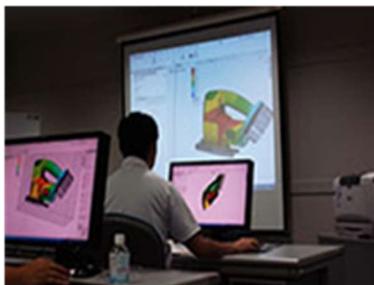
**(3) デジタルエンジニアリング高度化支援事業**

- 平成28～令和6年度事業費 129,275千円（基金活用額 125,122千円）  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 27,918千円（基金活用額 26,072千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 58,342千円（基金活用額 56,757千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 43,015千円（基金活用額 42,293千円）]
- 産業技術総合センターに設置した「みやぎデジタルエンジニアリングセンター」において、クリエイティブなデジタルエンジニアの育成、県内企業への技術の普及啓発。

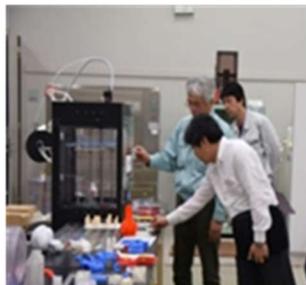
**① 事業の実績**

- ・ 3Dプリンターや3DCADを高度に活用し、自ら課題解決に取り組むデジタルエンジニア育成を行う研修事業、セミナー、複数の研究会を実施しました。また、個別のデジタルエンジニアリングの技術課題に取り組む企業に対し、課題解決支援を実施しました。

年度	実績等
平成28年度	産業技術総合センターに「みやぎデジタルエンジニアリングセンター」を設置。技術セミナー（1回36人参加）、研究会（7回延べ103人参加）、研修（6コース延べ30人参加）を実施
平成29年度	セミナー（6回延べ64人参加）、研究会（10回延べ130人参加）、研修（7コース延べ23人参加）を実施
平成30年度	セミナー（9回延べ242人参加）、研究会（5回延べ125人参加）、研修（5コース延べ28人参加）を実施
令和元年度	セミナー（9回延べ320人参加）、研究会（3回延べ91人参加）、研修（2コース延べ14人参加）
令和2年度	セミナー（3回延べ79人参加）、研究会（4回延べ101人参加）、研修（2コース延べ14人参加）
令和3年度	セミナー（3回延べ172人参加）、研究会（3回延べ106人参加）、研修（2コース延べ19人参加）
令和4年度	セミナー（2回延べ126人参加）、研究会（3回延べ142人参加）、研修（3コース延べ10人参加）
令和5年度	セミナー（4回延べ106人参加）、研究会（3回延べ91人参加）、研修（4コース延べ21人参加）
令和6年度	セミナー（5回延べ85人参加）、研究会（3回延べ99人参加）、研修（3コース延べ12人参加）
第2期通算	セミナー等（7回延べ100人参加）、研究会（17回延べ233人参加）、研修（延べ53人参加）
第3期通算	セミナー（26回延べ939人参加）、研究会（18回延べ565人参加）、研修（延べ85人参加）を実施
第4期通算	セミナー（9回延べ191人参加）、研究会（6回延べ190人参加）、研修（延べ33人参加）を実施
通算	セミナー等（42回延べ1,230人参加）、研究会（41回延べ988人参加）、研修（延べ171人参加）を実施



3DCAD高度活用研修



3Dプリンターによる  
小ロット生産技術研修

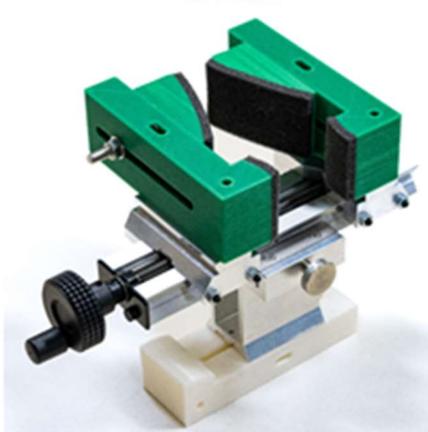


金属粉末3Dプリンター造形品

## ② 事業の成果

- ・ 参画企業が金属粉末造形サービス提供企業を設立し、また世界最大級の金属3Dプリンターを国内で最初に導入したことにより、3Dプリンターによる県内製造業の活性化が期待されます。
- ・ 既存の加工技術を3Dプリンター造形品に応用する技術開発に、企業と共同で取り組みました。
- ・ 本事業の課題解決事業を活用し、県内企業が生産工程改善のための治具の設計及び試作を行いました。

### 生産工程改善のための治具の開発



デジタルエンジニアリング課題解決活用例

## (4) 高度電子機械産業集積促進事業(人材育成センターを除く)

- 平成20～令和6年度事業費 632,335千円（基金活用額 597,342千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 27,060千円（基金活用額 24,567千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 208,252千円（基金活用額 196,530千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 272,767千円（基金活用額 260,694千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 124,256千円（基金活用額 115,551千円）]
- 県内企業や関係機関で構成する「みやぎ高度電子機械産業振興協議会」を運営し、高度電子機械産業の市場や技術に関するセミナーの開催、展示会出展支援を通じ、県内企業の取引の創出・拡大を促進。

## ① 事業の実績

年度	実績等
平成20年度	11月に「みやぎ高度電子機械産業振興協議会」を設立し、先進企業等での技術内覧会を開催
平成21年度	発注企業との商談会等の開催や、「半導体等製造装置」「医療・健康機器」「エネルギー・デバイス」「航空機」市場の各研究会活動を実施
平成22年度	4研究会活動の運営、市場技術セミナー、ビジネスマッチングの開催、企業の展示会への出展支援
平成23年度	4研究会活動の運営、講演会、市場技術セミナーの開催、企業の展示会への出展支援
平成24年度	4研究会活動の運営、市場技術セミナーの開催（6回396人）、展示会への出展支援（8回）、川下企業への技術プレゼンテーション（1回9社）、工場見学会（1回）の開催
平成25年度	市場技術セミナーの開催（7回509人）、展示会への出展支援（9回延べ42社）、川下企業への技術プレゼンテーション（3回23社）、工場見学会（1回）の開催、プロジェクト支援事業の推進
平成26年度	市場技術セミナーの開催（17回1,270人）、展示会への出展支援（11回延べ52社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（24回69社）、工場見学会（3回）の開催、国際認証取得奨励金の交付（1件）、プロジェクト支援事業の推進
平成27年度	市場技術セミナーの開催（15回945人）、展示会への出展支援（10回延べ57社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（44回165社）、工場見学会（2回）の開催、国際認証取得奨励金の交付（3件）、医療分野参入促進補助金の交付（5件）、プロジェクト支援事業の推進
平成28年度	市場技術セミナーの開催（16回812人）、展示会への出展支援（9回延べ44社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（50回164社）、工場見学会（1回）の開催、国際認証取得奨励金の指定（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（4件）、プロジェクト支援事業の推進
平成29年度	市場技術セミナーの開催（12回710人）、展示会への出展支援（10回延べ52社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（59回110社）、国際認証取得奨励金の指定（1件）・交付（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（4件）、プロジェクト支援事業の推進
平成30年度	市場技術セミナーの開催（13回939人）、展示会への出展支援（8回延べ39社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（52回108社）、国際認証取得奨励金の交付（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（5件）、プロジェクト支援事業の推進

## IV「1 産業振興パッケージ」 「1-2 技術高度化支援」

年度	実績等
令和元年度	市場技術セミナーの開催（9回645人）、展示会への出展支援（5回延べ19社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（54回68社）、国際認証取得奨励金の交付（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（5件）、プロジェクト支援事業の推進
令和2年度	市場技術セミナーの開催（7回655人）、展示会への出展支援（5回延べ14社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（19回26社）、国際認証取得奨励金の交付（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（3件）、プロジェクト支援事業の推進
令和3年度	市場技術セミナーの開催（10回540人）、展示会への出展支援（4回延べ16社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（47回57社）、国際認証取得奨励金の交付（2件）、医療分野参入促進補助金の交付（3件）、プロジェクト支援事業の推進
令和4年度	市場技術セミナーの開催（12回747人）、展示会への出展支援（5回延べ26社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（44回56社）、国際認証取得奨励金の交付（2件）、医療分野参入促進補助金の交付（3件）、プロジェクト支援事業の推進
令和5年度	市場技術セミナーの開催（11回651人）、展示会への出展支援（5回延べ31社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（42回45社）、国際認証取得奨励金の交付（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（4件）、プロジェクト支援事業の推進
令和6年度	市場技術セミナーの開催（16回877人）、展示会への出展支援（5回延べ35社）、川下企業への技術プレゼンテーション等（42回82社）、国際認証取得奨励金の交付（1件）、医療分野参入促進補助金の交付（4件）、プロジェクト支援事業の推進

### ② 事業の成果

- ・ 今後成長が見込まれる「半導体・エネルギー」、「医療・健康機器」、「航空宇宙」分野のセミナー開催や展示会への出展支援のほか、川下企業への技術プレゼンテーションや県内企業紹介等を通じて、614件（平成20～令和6年度）の商談が成立しました。

### (5)ものづくり中小企業”生産性向上実現”DX 戦略推進事業

- 令和6年度事業費 41,555千円（基金活用額 41,555千円）  
[第4期（令和6年度）事業費 41,555千円（基金活用額 41,555千円）]
- 県内中小企業のDXの推進、生産現場の生産性向上等を図るため、DXの機運を醸成するとともに、AI・IoT等先進技術の導入や活用による生産性向上等の取組を支援

### ① 事業の実績

年度	実績等
令和6年度	DX・デジタル化の機運醸成イベント（講演会・展示会）の開催（1回95人） DX・デジタル化関連のワークショップの開催（2回30人） ものづくり中核企業AI・IoT先進技術導入補助金を交付（4件） 身の丈DXラボの見学（177社、334人） AI・IoT体験会の開催（3回73人） AI・IoTの活用等に関する技術相談（295件） AI・IoTの活用等に関する伴走支援（17件）

## ② 事業の成果

- ・ DX・デジタル化を推進するためのイベント（講演会・展示会）及びワークショップの開催によりものづくり中小企業によるDX、デジタル化の機運を醸成した。
- ・ 地域経済を牽引していくものづくり中核企業によるAI・IoT等の先進技術の導入経費の補助金の交付や、身の丈DXラボ、AI・IoT体験会、AI・IoTの活用等に関する技術相談・伴走支援等により、生産現場における生産性の向上等の取組が加速化しました。



DX・デジタル化の機運醸成イベント（講演会）

**(6)新規参入・新産業創出等支援事業**

- 平成26～令和6年度事業費 516, 775千円（基金活用額 516, 775千円）  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 106, 335千円（基金活用額 106, 335千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 296, 002千円（基金活用額 296, 002千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 114, 438千円（基金活用額 114, 438千円）]
- 高度電子機械産業分野等での新事業、新産業創出を目指して、産学官連携による技術高度化等に必要な技術・製品開発費用の一部を支援するとともに、川下企業等への新規参入を目指して、試作開発等に取り組む県内企業に対し、その費用の一部を支援。

**① 事業の実績**

年度	実績等
平成26年度	試作開発支援事業費補助金6件を交付
平成27年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型3件、成長分野参入支援型8件）を交付
平成28年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型3件、成長分野参入支援型6件）を交付
平成29年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、成長分野参入支援型9件）を交付
平成30年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型1件、成長分野参入支援型8件）を交付
令和元年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型2件、成長分野参入支援型8件）を交付
令和2年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型3件、成長分野参入支援型9件）を交付
令和3年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型3件、成長分野参入支援型6件）を交付
令和4年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型3件、成長分野参入支援型6件）を交付
令和5年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型3件、成長分野参入支援型4件）を交付
令和6年度	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型4件、グループ開発型3件、成長分野参入支援型5件）を交付
第2期通算	試作開発支援事業費補助金6件、新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型10件、成長分野参入支援型23件）を交付
第3期通算	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型20件、グループ開発型12件、成長分野参入支援型37件）を交付
第4期通算	新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型8件、グループ開発型6件、成長分野参入支援型9件）を交付
通算	試作開発支援事業費補助金6件、新規参入・新産業創出等支援事業費補助金（地域イノベーション創出型38件、グループ開発型18件、成長分野参入支援型69件）を交付

## ② 事業の成果

- ・ 採択企業が、高度電子機械産業や医療分野において新たな製品を開発・販売しました。
- ・ 本事業により、地域企業の産学官連携による新技術、新製品の開発体制が構築され、地域イノベーション開発型及びグループ開発型に採択された案件のうち、平成27年度から令和6年度において12件が商品化または実用化されており、6件が引き続き商品化または実用化に向けて取り組んでいます。
- ・ 成長分野参入支援型に採択された企業が、電子部品用複合型プラスチックリールの試作開発を行い、川下企業へ提案しました。

なお、平成27年度から令和6年度の採択案件による参入件数は12件となっております。



地域イノベーション創出型を活用した  
産学官連携による試作開発例

(7)自動車関連技術支援事業

※平成20年度「自動車関連産業OB活用事業」、平成21年度～令和5年度「自動車関連産業特別支援事業」を含む

- 平成20～令和6年度事業費 455,655千円（基金活用額 445,282千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 79,687千円（基金活用額 79,687千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 141,060千円（基金活用額 141,060千円）]
  - [第3期（平成30～令和2年度）事業費 179,000千円（基金活用額 178,930千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 55,908千円（基金活用額 45,605千円）]

（うち企業版ふるさと納税寄附金活用額 事業費 10,244千円）
- 自動車関連産業の集積を目指し、県単独による展示商談会開催や自動車関連企業OB等による生産現場改善支援によって県内企業の受注獲得を支援するとともに、研修参加等の経費補助やセミナー開催による情報提供により人材育成を支援。加えて、企業の新技術・新工法の開発・提案に向けた共同研究や部品分析、個別プロジェクト検討等技術開発を支援。

① 事業の実績

年度	実績等
平成20年度	生産現場改善指導を3社に対し実施、自動車産業特別支援コーディネーター（企業OB）の配置、先進企業等での技術内覧会等を開催
平成21年度	アドバイザーによる生産現場改善指導（35社）、新規参入セミナー（317社559人参加）
平成22年度	展示商談会（27社参加）、非常勤職員による県内企業指導（20社）、アドバイザーによる生産現場改善指導（11社）
平成23年度	展示商談会（38社参加）、非常勤職員による県内企業訪問、アドバイザーによる生産現場改善指導（8社）
平成24年度	展示商談会（28社参加）、非常勤職員による県内企業訪問、アドバイザーによる生産現場改善指導（10社）
平成25年度	展示商談会（8社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問、アドバイザーによる生産現場改善指導（集合研修6回2社・個別支援10社）、自動車関連産業セミナー（4回延べ計412人参加）及び新技術・新工法研究開発促進（支援企業数2社）
平成26年度	展示商談会（5社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問、アドバイザーによる生産現場改善指導（集合研修5回44社・個別支援8社）、人材育成補助金交付（3社）、自動車関連産業セミナー（3回延べ計201人参加）及び新技術・新工法研究開発促進（支援企業数4社）
平成27年度	展示商談会（17社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修7回55社・個別支援9社）、人材育成補助金交付（7社）、自動車関連産業セミナー（4回延べ計140人参加）及び新技術・新工法研究開発促進（支援企業数4社）
平成28年度	展示商談会（4社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修6回84社・個別支援7社）、人材育成補助金交付（5社）、自動車関連産業セミナー（4回延べ計269人参加）及び新技術・新工法研究開発促進（支援企業数5社）、ベンチマーク支援（展示棟建設、ベンチマーク用車両調達、部品分析委託等）

IV「1 産業振興パッケージ」 「1-2 技術高度化支援」

年度	実績等
平成29年度	展示商談会（39社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修6回89社・個別支援7社）、人材育成補助金交付（6社）、自動車関連産業セミナー（5回延べ計288人参加）及び新技術・新工法研究開発促進（支援企業数4社）、ベンチマーク支援（専任非常勤職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（2件）等）
平成30年度	展示商談会（16社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修5回48社・個別支援6社）、人材育成補助金交付（6社）、自動車関連産業セミナー（4回延べ計130人参加）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数4社）、ベンチマーク支援（専任非常勤職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（5件）等）
令和元年度	展示商談会（9社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修9回76社・個別支援7社）、人材育成補助金交付（6社）、自動車関連産業セミナー（3回延べ計110人参加）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数8社）、ベンチマーク支援（専任非常勤職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（7件）等）
令和2年度	商談会（23社、1大学参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修6回60社・個別支援5社）、人材育成補助金交付（1社）、自動車関連産業セミナー（1回26人参加）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数6社）、ベンチマーク支援（会計年度任用職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（4件）等）
令和3年度	商談会（5社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修6回39社・個別支援4社）、人材育成補助金交付（4社）、自動車関連産業セミナー（2回92人参加）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数6社）、ベンチマーク支援（会計年度任用職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（4件）等）
令和4年度	商談会（6社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修5回28社・個別支援7社）、人材育成補助金交付（8社）、自動車関連産業セミナー（2回92人参加）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数6社）、ベンチマーク支援（会計年度任用職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（6件）等）
令和5年度	商談会（26社参加）、非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修7回38社・個別支援5社）、人材育成補助金交付（9社）、自動車関連産業セミナー（1回8人参加）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数6社）、ベンチマーク支援（会計年度任用職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（延べ19件）等）
令和6年度	非常勤職員や自動車産業振興アドバイザーによる県内企業訪問及び生産現場改善指導（集合研修7回44社・個別支援6社）、新技術・新工法研究開発促進（支援企業数3社）、ベンチマーク支援（会計年度任用職員配置、セミナー開催、部品分析委託、個別プロジェクト支援（延べ17件）等）

② 事業の成果

- ・ 県内企業の自動車関連産業への新規参入や取引拡大を図るため、受注獲得、人材育成、技術開発のそれぞれの分野で各種支援を継続してきた結果、706件（平成20～令和6年度）の商談が成立しました。

**(8)自動車関連産業におけるカーボンニュートラル推進支援事業**

- 令和5～6年度事業費 80,058千円（基金活用額 80,058千円）  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 80,058千円（基金活用額 80,058千円）]
- 脱炭素に向けた動きが世界中で広がる中、自動車関連産業においてもカーボンニュートラル化の推進が求められていることから、県内自動車関連企業のカーボンニュートラル化の支援を実施。

**① 事業の実績**

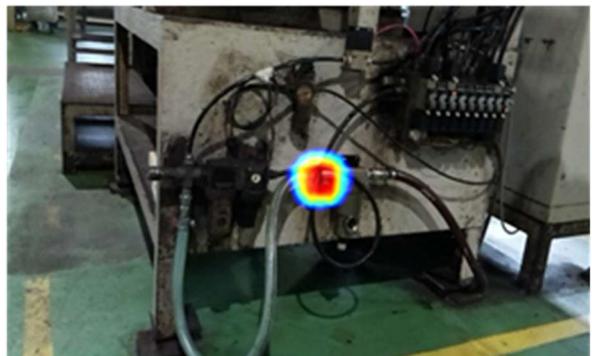
年度	実績等
令和5年度	脱炭セミナーの開催（4回、157人受講）、エネルギーの使用状況等の調査・診断の実施（6社）オンライン相談窓口の設置、カーボンニュートラル化実現のための設備更新等省エネルギーのための方策・実施手順に関する計画策定等の支援（4社）、脱炭素化促進計画等に従って導入する設備の整備費用について補助金を交付（2社）、オンライン相談窓口の設置、県内企業の課題把握（調査・分析）、ポータルサイトの開設
令和6年度	脱炭セミナーの開催（1回、38人受講）、エネルギーの使用状況等の調査・診断の実施（8社）オンライン相談窓口の設置、カーボンニュートラル化実現のための設備更新等省エネルギーのための方策・実施手順に関する計画策定等の支援（7社）、脱炭素化促進計画等に従って導入する設備の整備費用について補助金を交付（2社）、ポータルサイトの開設

**② 事業の成果**

セミナー等を通じたカーボンニュートラル化に関する理解促進や脱炭素化促進計画の策定支援等、県内自動車関連企業のカーボンニュートラル化推進に寄与しています。



脱炭素セミナー



エネルギー診断

IV「1 産業振興パッケージ」 「1-2 技術高度化支援」

その他の技術高度化支援に関する事業

1-2 技術高度化支援	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
産学連携プロジェクト推進事業	本県の強みを活かした商品開発や地域づくりについての調査検討を行うため、テーマ指定による産学共同研究会を実施	令和元～6年度 10,417 (10,417)	放射光施設を利用した食品分野での商品開発や食料・商品のブランド化に関する調査を行う産学共同研究会を、県内学術機関に委託(延べ5件)して実施	県内企業の次世代放射光施設活用に向け、企業や学術機関の放射光施設利用の意識醸成に貢献
高度電子機械産業集積促進事業 (ビジネスマッチング強化促進事業)	「半導体・エネルギー」「医療・健康機器」「航空宇宙」の重点3分野及び高度電子機械産業の振興を図るため、BM専門員(推進員)を配置し、県内企業の取引創出・拡大に向けた事業を実施	令和6年度 14,440 (14,440)	BM推進員による首都圏の大手川下企業のニーズ調査、BM専門員による県内企業の技術シーズの把握等を通じた、個別商談会、個別あっせん等のビジネスマッチングの実施	県内企業の取引創出・拡大に貢献
ものづくり基盤技術高度化支援事業	県内中小企業等が技術開発等のツールとして有効な国補助事業「戦略的基盤技術高度化支援事業」(サポイン)を活用するため、(公財)みやぎ産業振興機構の体制整備強化を実施	令和元～6年度 54,188 (54,188)	(公財)みやぎ産業振興機構に専門員を4人配置し、県内中小企業等を支援	県内企業の技術開発に貢献
放射光施設利用促進事業	放射光施設ナノテラスの利用促進及び同施設を核として研究機関等が集積するリサーチコンプレックスの形成実現に向けた取組を実施	平成30～令和6年度 62,541 (62,541)	東北放射光施設推進協議会(5回)や、同協議会を発展改組した「NanoTerasu利用推進協議会」主催の講演会(3回)、放射光利用技術研究会(12回)を開催したほか、県内企業の利用促進のため既存放射光施設やナノテラスでの利用実地研修(14件)、学校教育の一環でのナノテラス利用(3校)を実施。	ナノテラスの普及啓発と県内企業の技術開発、企業や教育機関など様々な主体による施設の活用に貢献
地域企業競争力強化支援事業	産業技術総合センターが主体となり研究開発、技術移転を支援	平成20～令和6年度 138,709 (138,709)	研究開発した技術(延べ13テーマ)を県内企業へ移転	県内企業の高付加価値製品の開発や実用化を支援し競争力を強化に貢献
自動車関連産業参入支援事業	自動車関連産業の集積を目指し、県内企業の新規参入や取引拡大に向けた事業を総合的に展開	令和6年度 2,860 (2,860)	県単独商談会(138社、1大学)	県内企業の取引拡大に貢献

## 1-3 中小企業・小規模事業者活性化

平成30～令和6年度事業費 1,836百万円(基金活用額 1,815百万円)

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 986百万円(基金活用額 967百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 850百万円(基金活用額 848百万円)]

中小企業・小規模事業者の持続的発展・成長に向けて、生産性の改善等に向けた取組に加え、後継者の確保等事業承継に関する支援や起業のための拠点の確保、人的ネットワーク構築の機会の提供など創業・第二創業の加速化に向けた取組を推進しました。

## (1) テック系スタートアップ成長支援事業

○ 令和5～6年度事業費 24,590千円(基金活用額 24,590千円)

[第4期(令和5～6年度)事業費 24,590千円(基金活用額 24,590千円)]

○ テック系スタートアップ・サポートコンソーシアム宮城(略称:テクスタ宮城)の運営、東北大学発等テック系スタートアップ企業と支援機関のマッチングやスタートアップ関連イベントの開催を通じて、スタートアップ企業の成長支援や地元定着を推進。

## ① 事業の実績

年度	実績等
令和5年度	テクスタ宮城の設置・運営、支援機関と東北大学発等スタートアップとの個別マッチング(38件)やマッチングのきっかけとなる主催イベント(4回)、共催イベント(8回)を開催
令和6年度	テクスタ宮城の運営、支援機関と東北大学発等スタートアップとの個別マッチング(58件)やマッチングのきっかけとなる主催イベント(5回)、共催イベント(8回)を開催、令和6年10月アーバンネット仙台中央ビル「YUI NOS」内にスタートアップ支援拠点を設置

## ② 事業の成果

- 令和5年5月の設立以降、テクスタ宮城の運営と、支援機関とのマッチングやスタートアップ関連イベントの開催を通じて、宮城県内のスタートアップへの成長支援と定着支援を行った結果、支援対象スタートアップ数及びテクスタ宮城の構成員数が、設立当初と比較し82者増加し、166者となり、宮城県内におけるスタートアップエコシステムの形成に貢献しました。



ワークショップの様子



交流サロンの様子

**(2)スタートアップ加速化支援事業** ※平成29年度:地域産業振興促進、平成30年度から令和2年度:創業加速化支援事業

- 平成29～令和6年度事業費 377,684千円（基金活用額 377,684千円）
  - [第2期（平成29年度）事業費 18,068千円（基金活用額 18,068千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 243,090千円（基金活用額 243,090千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 116,526千円（基金活用額 116,526千円）]

○県内において創業又は第二創業する方にスタートアップ資金を補助。

**① 事業の実績**

年度	補助件数	補助金額
平成29年度	15件（うち継続 0件、新規 15件）	13,068千円
平成30年度	30件（うち継続 15件、新規 15件）	23,633千円
令和元年度	30件（うち継続 15件、新規 15件）	28,575千円
令和2年度	40件（うち継続 15件、新規 25件）	44,913千円
令和3年度	44件（うち継続 23件、新規 21件）	54,006千円
令和4年度	42件（うち継続 21件、新規 21件）	52,714千円
令和5年度	41件（うち継続 21件、新規 20件）	45,982千円
令和6年度	41件（うち継続 19件、新規 22件）	44,840千円
第2期通算	15件（うち継続 0件、新規 15件）	13,068千円
第3期通算	186件（うち継続 89件、新規 97件）	203,840千円
第4期通算	82件（うち継続 40件、新規 42件）	90,822千円
通算	283件（うち継続 129件、新規 154件）	307,730千円

※事業費は補助金額に事務費を加えたもの。

※補助件数は通算283件であるが、2か年事業のため支援者数は154者。

**② 事業の成果**

- ・平成29～令和6年度で、154者の創業を支援することにより、雇用の創出や地域産業の再生に寄与しています。



「食」を観光資源にした地域活性化を目指す事業の創業（R5 採択）



民泊を通じて空き家保有者と観光客を接続する事業の創業（R6 採択）

### (3)生産現場改善強化支援事業

- 平成30～令和6年度事業費 258, 215千円（基金活用額 258, 215千円）  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 179, 376千円（基金活用額 179, 376千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 78, 839千円（基金活用額 78, 839千円）]
- 県内ものづくり企業の生産現場における生産性改善等の取組に対する支援及び人員配置の適正化等による経営の安定化の促進。

#### ① 事業の実績

- ・ 生産現場改善支援（専門家派遣）及び生産性向上設備導入等支援を実施し、県内中小企業・小規模事業者の生産性改善の取組を支援しました。
- ・ 現場改善セミナーを開催し、生産現場の改善に対する意識啓発、改善の成果の発信や取組の水平展開を図りました。

年度	生産現場改善支援 (専門家派遣)	生産性向上設備 導入等支援	現場改善セミナー の開催
平成30年度	12社	7社	6回181人
令和元年度	18社	7社	4回69人
令和2年度	13社	10社	1回7人
令和3年度	11社	10社	2回13人
令和4年度	13社	10社	2回21人
令和5年度	14社	11社	3回46人
令和6年度	17社	9社	3回68人
通算	98社	64社	21回405人

#### ② 事業の成果

- ・ 不適格品の減少や労働生産性の向上、配置人員の削減など、企業の生産性の向上に貢献しています。



生産現場改善支援の様子



現場改善セミナーの様子

#### (4) 事業承継支援体制強化事業

- 平成30～令和6年度事業費 97,359千円（基金活用額 97,359千円）  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 67,562千円（基金活用額 67,562千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 29,797千円（基金活用額 29,797千円）]
- 県内中小企業・小規模事業者経営者に事業承継の必要性を喚起するとともに、円滑な事業承継を支援。

##### ① 事業の実績

- ・ 県内中小企業の事業承継ニーズを掘り起こすため、「宮城県事業承継・引継ぎ支援センター」に事業承継専門員（2人）を配置し、金融機関や商工会・商工会議所等の支援機関と連携し、事業承継診断の実施等について支援を行いました。
- ・ 事業承継支援の重点地区を設定し、重点地区においては、事業者向けセミナーを開催するなど、重点的に支援しました。
- ・ 事業承継ネットワークのポータルサイトを運営し、広く事業承継の重要性をPRするとともに、支援機関向けに事業承継の事例を掲載しました。

年度	事業承継診断件数
平成30年度	1,526件
令和元年度	2,004件
令和2年度	2,472件
令和3年度	4,151件
令和4年度	5,026件
令和5年度	3,557件
令和6年度	3,191件
通算	21,927件

##### ② 事業の成果

- ・ 令和6年度は金融機関等の地域の支援機関から216社の相談が宮城県事業承継・引継ぎ支援センターに引き継がれ、事業承継の実現に向けてより具体的な支援の段階に進んでいます。
- ・ 地域の商工会、商工会議所等による無料相談会が開催されるなど、中小企業者の事業承継を支援し、持続的経営、地域産業の再生を支援するネットワークの拡大につながりました。



事業者向けチラシ



#### 事業承継事例

お手伝いをさせていただいた事業承継の事例をご紹介します。

ポータルサイト

### (5) 中小企業等デジタル化支援事業

- 令和4～6年度事業費 490,641千円（基金活用額 490,641千円）  
 [第3期（令和4年度）事業費 99,876千円（基金活用額 99,876千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 390,765千円（基金活用額 390,765千円）]
- デジタル技術活用に向けたセミナー等の開催や相談助言を行うアドバイザーの派遣、デジタル技術を活用したサービス等導入に係る経費の補助を実施。

#### ① 事業の実績

年度	実績等
令和4年度	中小企業経営者向けデジタル化推進セミナー（1回109人）、宿泊事業者向けデジタル化推進セミナー（1回62人）の開催、アドバイザーの派遣（109回）、中小企業等デジタル化支援事業補助金の交付（62件）
令和5年度	中小企業経営者向けデジタル化推進セミナー（1回69人）、建設業向けデジタル化推進セミナー（1回33人）、宿泊事業者向けデジタル化推進セミナー（1回44人）の開催、アドバイザーの派遣（527回）、中小企業等デジタル化支援事業補助金の交付（98件）
令和6年度	アドバイザーの派遣（571回）、中小企業等デジタル化支援事業補助金の交付（112件）

#### ② 事業の成果

- ・ 生産性向上等を目的として中小企業等のデジタル化の取組についてアドバイザー派遣及び導入経費の補助を実施し、県内中小企業等のデジタル化・DXを推進しました。



補助金で導入したギフト受注システム

### (6) 中小企業等共同化チャレンジ事業

- 令和6年度事業費 3,823千円（基金活用額 3,823千円）  
 [第4期（令和6年度）事業費 3,823千円（基金活用額 3,823千円）]
- （事業概要）  
 人口減少社会における中小・小規模事業者の課題解決に向けて、複数事業者が共同・連携して実施する「経営の効率化」や、「新事業展開」等の新たなチャレンジへの取組を支援。

① 事業の実績

年度	実績等
令和6年度	中小企業が共同で行う経営効率化の取組に対する補助：2件

② 事業の成果

(1) <温泉旅館における泊食分離の取組：鳴子温泉>

- ・素泊まり客のルームサービス需要に対応するため、地元カフェや在京シェフとの協働や、宿泊客が簡易に注文できるアプリの開発など、ルームサービス提供体制を整備した。

(2) <バックオフィス業務の共同化：電気工事業>

- ・電気工事業者の成り手不足により、個人事業主の仕事量が増加し、夜間には本業の他、事務処理をせざるを得ない状況が生じていた。
- ・このような雑務を電気工事業者A社が巻き取ることで、個人事業主Bがより多くの現場へ入ることができ、かつ長時間労働の改善が図られた。
- ・事務処理を担ったA社では、電気工事業個人事業主の事務処理を担う受け皿として、本業以外の事業展開を図る予定であり、経営の多角化による企業の成長に貢献した。

(7)小規模事業者伴走型支援体制強化事業 ※平成28～29年度：地域産業振興促進

- 平成28～令和6年度事業費 109,249千円（基金活用額 87,784千円）  
 [第2期（平成28～29年度）事業費 24,018千円（基金活用額 24,018千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 73,549千円（基金活用額 53,767千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 11,682千円（基金活用額 9,999千円）]
- 小規模事業者の経営計画の策定や販路拡大を支援するために、商工会や商工会議所が実施する伴走型支援の取組の強化。

① 事業の実績

- ・小規模事業者の経営計画等の策定を支援するため、専門家を招いた経営計画等作成セミナーの開催や個別指導を実施しました。
- ・また、小規模事業者の販路拡大を支援するため、小規模事業者の商談会出展支援や商工会・商工会議所職員の商談会への同行による指導を実施しました。

年度	セミナーの開催	個別指導の実施	出展補助	同行支援
平成28年度	51回	389件	—	—
平成29年度	56回	289件	—	—
平成30年度	40回	542件	42回	10回
令和元年度	74回	533件	36回	8回
令和2年度	80回	470件	—	—

## IV「1 産業振興パッケージ」「1-3 中小企業・小規模事業者活性化」

年度	セミナーの開催	個別指導の実施	出展補助	同行支援
令和3年度	41回	275件	1回	—
令和4年度	26回	171件	9回	1回
令和5年度	28回	112件	11回	2回
令和6年度	18回	107件	13回	3回
第2期通算	107回	678件	—	—
第3期通算	261回	1,991件	88回	19回
第4期通算	46回	219件	24回	5回
通算	414回	2,888件	112回	24回



経営計画等作成セミナーの様子（商工会）



経営計画等作成セミナーの様子（商工会議所）

### ② 事業の成果

- ・ 平成28～令和6年度で、1,823件の経営計画等が策定されるとともに、753件の小規模事業者持続化補助金の採択に結びつくなど、小規模事業者の持続的経営に寄与しています。
- ・ 平成30～令和6年度で、112社に対し、商談会の出展を補助し、小規模事業者の販路拡大、新たな販路の開拓に寄与しています。

IV「1 産業振興パッケージ」「1-3 中小企業・小規模事業者活性化」

その他の中小企業・小規模事業者活性化に関する事業

1-3 中小企業・小規模事業者活性化	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
ものづくり産業起業家等育成支援事業	ものづくり産業の振興に資する研究開発を行うベンチャー企業等に対して、県内のインキュベーター施設やオフィス等に入居する場合の賃料を支援	平成30～令和6年度 27,384 (27,384)	県内の中小企業者延べ79社に対して、民間賃貸オフィス等に係る賃料の一部を補助	県内中小企業の事業展開に貢献
富県宮城資金等円滑化支援事業	自動車関連産業・高度電子産業等に取り組む企業の負担軽減による融資利活用の促進を図るため、県信用保証協会の基本保証料より引き下げた県制度保証料を設定	平成20～令和6年度 17,385 (17,385)	信用保証協会に対して41社の信用保証料軽減に係る補助を実施	自動車関連産業及び高度電子産業等に取り組む企業の資金融通円滑化に貢献
ステージアップ支援事業	地域企業の底上げを図るため、地域を牽引し、地域への波及効果が期待される認定企業に対し、設備導入や研究開発、販路開拓等を支援	令和3～6年度 63,597 (63,597)	ステージアップに取り組む認定企業10社が目標達成に必要な設備導入等に要する経費の一部を補助	県内中小企業の地域産業の活性化に貢献
水産加工業企業力強化支援事業	持続的に成長できる水産加工企業群を形成するため、徹底した伴走型支援による経営課題の解決と中核人材の育成を通して、企業競争力を強化するとともに、企業間連携の取組を促進	令和3～6年度 100,477 (100,477)	専門家派遣(94社384回)、生産性改善支援(34社)、グループ経営研究等支援(13グループ:R4で終了)、新戦略導入支援(5社:R5～)を実施	水産加工会社の生産性の改善や企業力強化に貢献
みやぎ創業推進支援事業	本県での創業を志向するUJターン希望者への創業環境等の情報提供	平成29～令和6年度 73,076 (73,076)	創業情報提供(429回)や創業セミナー(47回)、みやぎ訪問ツアー(2回)、オンライン起業塾(1回)を開催したほか、県内において創業相談(776件)、市町村創業支援ネットワーク会議(18回)、創業コンテストを実施	本県での創業を志向するUJターン希望者への支援体制の構築に貢献
新事業創出支援事業	「地域中小企業応援ファンド事業」と連携し、地域資源等を活用した新商品・新サービス提供のための研究開発等を支援	平成30～令和6年度 87,893 (87,893)	地域資源等を活用して新商品の開発等を行う97社に補助	県内企業の新商品開発等に貢献
取引拡大チャレンジ支援事業	販路開拓を進めるため、伴走型支援を県内全域で展開し、ものづくり中小企業等の受注獲得を支援	平成30～令和6年度 114,002 (114,002)	商談会等(35回)の開催や、営業活動強化支援事業(409件)、WEB開設支援事業(97件:R3で終了)、WEB営業活動強化支援事業(41社:R5で終了)を実施	商談会や県外発注企業へのアフターフォローを実施し、県内中小企業等の受注獲得に貢献
食品製造業経営力強化サポート事業	食のマーケットの多様化の影響等により、経営が悪化している食品製造事業者等の経営改善を図るため、専門家の派遣等により課題の洗い出しから事業の再構築に向けた取組までの一連の過程を支援	令和6年度 17,318 (17,318)	専門家派遣と専門家からのアドバイスに基づき実践する経営改善活動の一部を補助し、あわせて県内食品製造事業者を対象としたフードビジネス塾を開催	・支援対象事業者が今後の中長期的目標を立てそれを達成するためのアクションプランを作成し、経営改善に向けた取組をスタート ・受講者が自社の現状把握、課題整理をすることで経営を改めて考える機会を創出

1-4 人材育成促進

平成20～令和6年度事業費 1,745百万円(基金活用額 1,337百万円)※平成20～29年度:旧人づくり支援

[第1期(平成20～24年度)事業費 288百万円(基金活用額 138百万円)]

[第2期(平成25～29年度)事業費 379百万円(基金活用額 315百万円)]

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 468百万円(基金活用額 463百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 610百万円(基金活用額 421百万円)]

【参考】第4期(令和5～6年度)企業版ふるさと納税寄附金活用額 事業費 189百万円

技術力や生産性の向上等を支える人材を育成・確保し、本格化した企業集積の成果を地元雇用に結びつけるため、産業界から大学、高校まで一体となり、実践的な研修やものづくり産業等の認知度の向上などの取組を実施し、即戦力となる人材等を育成しました。

(1)半導体人材育成・産学連携推進事業

○ 令和6年度事業費 14,500千円(基金活用額 14,500千円)

[第4期(令和6年度)事業費 14,500千円(基金活用額 14,500千円)]

○ 直接的な人材育成策に加え、育成した人材の地域への定着・確保に向けて、保護者等、地域全体で半導体関連産業を支える機運を醸成するもの。

① 事業の実績

- ・若年層に向けて、半導体産業に対する興味関心を喚起し、人材確保につなげる取組を行った。
- ・東北大学が半導体に関する教育プラットフォームを開発するための費用を補助した。
- ・大学や高等専門学校、東北経済局との情報共有や意見交換を目的に会議を開催した。
- ・高校教員向けに半導体に関する理解促進のための研修会を開催した。

年度	実績等
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体PR冊子の作成及び配布</li> <li>・むすび丸半導体バージョンの作成</li> <li>・小中学生向けイベントの開催(1回、参加744人)</li> <li>・首都圏UIJターン希望者向けイベント(1回、参加23人)</li> <li>・半導体人材育成プラットフォーム基盤構築・整備事業費補助金(東北大学)</li> <li>・半導体人材育成関係機関連絡調整会議(1回)</li> <li>・高校教員向け半導体研修会(1回、参加23人)</li> </ul>

② 事業の成果

- ・PR冊子やイベント等を通して、主に若年層の半導体産業に対する興味関心を喚起した。
- ・東北大学における半導体教育プラットフォームを整備した。
- ・学術機関等との会議で得られた情報や意見を、次年度以降の取組に反映させていく。
- ・研修会で得られた知識等を、高校生の進路指導に活かしてもらう。



半導体PR冊子



むすび丸半導体バージョン



小中学生向けイベント

## (2) 現地人材サポート体制構築事業

- 令和6年度事業費 58,657千円（基金活用額 58,657千円）  
 [第4期（令和6年度）事業費 58,657千円（基金活用額 58,657千円）]
- 台湾、ベトナム、インドネシアにおいて、本県への就職を希望する人材や留学希望者の母集団形成を推進

### ① 事業の実績

- ・台湾、ベトナム、インドネシアの2か国1地域に相談窓口を設置し、外国人材及び教育機関等を対象としたセミナーやフェアなどを開催したほか、特設ホームページやSNS等による情報発信等を実施した。

年度	実績等
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人材サポートセンター開設：3カ所</li> <li>・セミナー・フェア等の実施回数：43回</li> </ul>

### ② 事業の成果

- ・外国人材と県内企業等とのマッチングを図ったほか、留学希望者等の母集団形成及び留学生募集等の支援を行った。



宮城県キャリアサポートセンター（インドネシア共和国ジャカルタ市内）

### (3)外国人材受入体制モデル構築事業

- 令和6年度事業費 270,000千円（基金活用額 270,000千円）  
 [第4期（令和6年度）事業費 270,000千円（基金活用額 270,000千円）]
- 外国人材の受け入れ体制の構築に取り組もうとする地域をモデル地域として選定し、財政支援を行うことで将来的に同様の取組が県内複数地域で展開されることを誘引。

#### ① 事業の実績

- ・ 令和6年度は、大崎市をモデル地域に選定し、外国人材の受け入れ及び定着を目的とした日本語学校の設立に関する補助金である「令和6年度外国人材受入体制モデル構築奨励金」を交付した。

年度	実績
令和6年度	令和6年度外国人材受入体制モデル構築奨励金：1件 270,000千円（大崎市）

#### ② 事業の成果

- ・ 補助金の交付を通じて、モデル地域における外国人材受入体制の構築を図ることで、外国人材の受け入れ及び定着を促進し、地域産業の活性化及び地域活力の維持・向上に貢献した。



おおさき日本語学校 校舎



展望室



ホール



教室



図書室

**(4) デジタル人材採用・育成支援事業**

- 平成30年度～令和6年度事業費 150,910千円（基金活用額 150,910千円）  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 85,132千円（基金活用額 85,132千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 65,778千円（基金活用額 65,778千円）]
- IT企業等が教育機関等と連携して行う取組の支援や研修機会の提供より、県内IT企業等における人材確保及び人材育成を支援。

**① 事業の実績**

年度	実績等
平成30年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（1件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数10人）、高度IT技術者向け研修（受講者数49人）
令和元年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（1件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数15人）、高度IT技術者向け研修（受講者数53人）
令和2年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（1件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数17人）、高度IT技術者向け研修（受講者数43人）
令和3年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（1件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数13人）、高度IT技術者向け研修（受講者数78人）
令和4年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（1件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数21人）、中堅層IT技術者向け研修（受講者数48人）、高度IT技術者向け研修（受講者数69人）
令和5年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（2件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数20人）、中堅層IT技術者向け研修（受講者数43人）、高度IT技術者向け研修（受講者数73人）
令和6年度	みやぎIT産業認知度向上支援事業補助金の交付（3件）、新卒者等未経験者向け研修（受講者数30人）、中堅層IT技術者向け研修（受講者数32人）、高度IT技術者向け研修（受講者数68人）

**② 事業の成果**

- ・ 県内IT産業の認知度向上に資する取組を支援したほか、県内IT企業へ採用された未経験者等を対象とした研修を実施したことにより、県内IT企業の競争力向上等が期待されます。

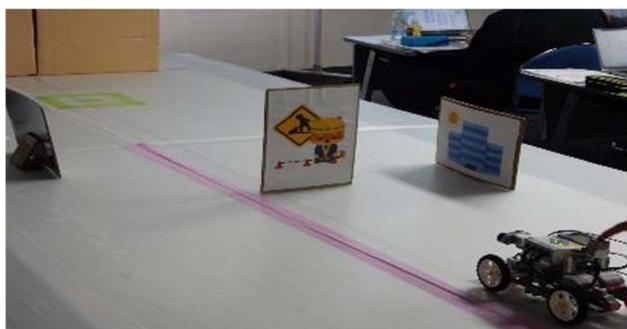
**(5) 高度産業人材育成センター運営事業**

- 平成24～令和6年度事業費 123,310千円（基金活用額 111,658千円）  
 [第1期（平成20～24年度）事業費 5,027千円（基金活用額 5,027千円）]  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 66,285千円（基金活用額 66,285千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 40,346千円（基金活用額 40,346千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 11,652千円（全額企業版ふるさと納税寄附金を活用）]
- 「みやぎカーインテリジェント人材育成センター」において、新潟県を含む東北7県の大学、高等専門学校、専門学校生等を対象に人材育成研修を実施。
- 「みやぎ高度電子機械人材育成センター」において、県内又は県出身の工学系の大学3年生、高等専門学校生を対象に人材育成研修を実施。

① 事業の実績

- 「みやぎカーインテリジェント人材育成センター」では、自動車の開発・設計に携わるメーカーの現役技術者等による実践的な実習、講義、工場見学等から構成される人材育成研修を実施しました。

年度	実績等
平成24年度	計16日間の研修を実施し、100人が研修を修了。
平成25年度	計16日間の研修を実施し、69人が研修を修了。
平成26年度	計15日間の研修を実施し、57人が研修を修了。
平成27年度	計13日間の研修を実施し、90人が研修を修了。
平成28年度	計13日間の研修を実施し、63人が研修を修了。
平成29年度	計13日間の研修を実施し、57人が研修を修了。
平成30年度	計17日間の研修を実施し、42人が研修を修了。
令和元年度	計16日間の研修を実施し、57人が研修を修了。
令和2年度	計8日間の研修を実施(一部オンライン実施)し、90人が研修を修了。
令和3年度	計13日間の研修を実施し、96人が研修を修了。
令和4年度	計13日間の研修を実施し、102人が研修を修了。
令和5年度	計13日間の研修を実施し、72人が研修を修了。
令和6年度	計11日間の研修を実施し、108人が研修を修了。
第1期通算	100人が研修を修了。
第2期通算	336人が研修を修了。
第3期通算	387人が研修を修了。
第4期通算	180人が研修を修了。
通算	1,003人が研修を修了。



みやぎカーインテリジェント  
人材育成センター研修風景

- 「みやぎ高度電子機械人材育成センター」では、大学教授や企業技術者等による実践的な実習、講義、企業見学等から構成される人材育成研修を実施しました。

IV「1 産業振興パッケージ」 「1-4 人材育成促進」

年度	実績等
平成26年度	計15日間の研修を実施し、電子計測制御コース12人、機械制御コース15人が研修を修了。
平成27年度	計15日間の研修を実施し、電子計測制御コース13人、機械制御コース14人が研修を修了。
平成28年度	計15日間の研修を実施し、電子計測制御コース12人、機械制御コース13人が研修を修了。
平成29年度	計15日間の研修を実施し、電子計測制御コース12人、機械制御コース9人が研修を修了。
平成30年度	計15日間の研修を実施し、エレクトロニクス（旧電子計測制御）コース7人、メカトロニクス（旧機械制御）コース13人が研修を修了。
令和元年度	計15日間の研修を実施し、エレクトロニクス（旧電子計測制御）コース6人、メカトロニクス（旧機械制御）コース7人が研修を修了。
令和2年度	計5日間の研修を企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ中止。代替事業として先輩エンジニアとのリモート交流会を実施（参加者21名）。
令和3年度	計5日間の研修を実施し35人が研修を修了。
令和4年度	計5日間の研修を実施し20人が研修を修了。
令和5年度	計5日間の研修を実施し25人が研修を修了。
令和6年度	計5日間の研修を実施し33人が研修を修了。
第2期通算	電子計測制御コース49人、機械制御コース51人が研修を修了。
第3期通算	エレクトロニクス（旧電子計測制御）コース13人、メカトロニクス（旧機械制御）コース20人が研修を修了。研修期間見直し後の令和3・4年度では55人が研修を修了。
第4期通算	58人が研修を修了。
通算	エレクトロニクス（旧電子計測制御）コース62人、メカトロニクス（旧機械制御）コース71人が研修を修了。研修期間見直し後の令和3～6年度では113人が研修を修了。



みやぎエンジニア夏期セミナー研修  
(学術施設見学の様子)



みやぎエンジニア夏期セミナー研修  
(体験実習の様子)

② 事業の成果

- 令和5年度の「みやぎカーインテリジェント人材育成センター」の修了者72人中の就職該当年次者53人のうち、28人が自動車関連企業に就職しており、自動車づくりを担う人材の育成につながっています。

## IV「1 産業振興パッケージ」「1-4 人材育成促進」

- ・ 令和5年度の「みやぎ高度電子機械人材育成センター」の修了者25人中の就職該当年次者20人のうち、4人が高度電子機械関連企業に就職し、高度電子機械産業を担う人材の育成につながっています。

### (6)ものづくり人材育成確保対策事業

- 平成20～令和6年度事業費 335,827千円（基金活用額 262,189千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 21,498千円（基金活用額 21,498千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 109,501千円（基金活用額 106,601千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 139,553千円（基金活用額 134,090千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 65,275千円  
（うち63,657千円について企業版ふるさと納税寄附金を活用）]

- ものづくり産業の人材確保に向けた認知度向上の取組のほか、製造業への就職の拡大や早期離職の防止等を図るためにキャリアカウンセラーの高校等への派遣を実施。

### ① 事業の実績

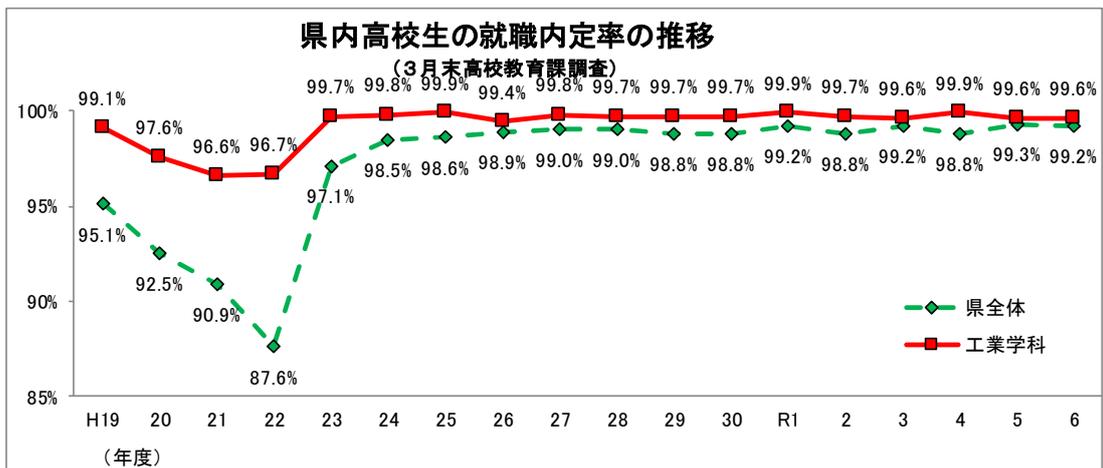
年度	実績等
平成20年度	企業向け人材確保セミナー、高校生向けものづくり企業見学会、隣県大学等での県内企業セミナー等を実施
平成21年度	企業向け採用力向上セミナー、高校生向け入社準備セミナー等を開催。高校等延べ26校にキャリアカウンセラーを派遣
平成22年度	企業向け採用力向上セミナー、高校生向け工場見学会等を開催。高校等延べ41校にキャリアカウンセラーを派遣
平成23年度	企業向け採用力向上セミナー、高校生向け工場見学会等を開催。高校等延べ30校にキャリアカウンセラーを派遣
平成24年度	企業向け採用力・育成力向上セミナー、高校生向け工場見学会、県内外理工系大学生向けセミナー等を開催。高校等延べ31校でキャリアカウンセラー派遣によるセミナーを実施
平成25年度	企業向け採用力向上セミナー（6回、67事業所）、高校生・大学生・若年求職者向け工場見学会（13回、408人）、県内外理工系大学生等向けセミナー（4回、257人）。高校等延べ30校でキャリアカウンセラー派遣によるセミナーを実施
平成26年度	企業向け採用力向上セミナー（4回、47事業所）、高校生・大学生・若年求職者向け工場見学会（15回、493人）、県内外理工系大学生等向けセミナー（2回、78人）。高校等延べ29校でキャリアカウンセラー派遣によるセミナーを実施。主に高校生を対象としたものづくり産業広報誌を発行
平成27年度	企業向け採用力向上セミナー（4回、108事業所）、高校生・大学生向け工場見学会（42回、1,074人）、県内外理工系大学生等向けセミナー（5回、129人）。高校等延べ24校でキャリアカウンセラー派遣によるセミナーを実施。主に高校生を対象としたものづくり産業広報誌を発行。ものづくり人材育成コーディネーターを配置。
平成28年度	企業向け採用力向上セミナー（4回、110事業所）、高校生・大学生向け工場見学会（35回、1,403人）、県内外理工系大学生等向けセミナー（5回、85人）。高校等延べ30校でキャリアカウンセラー派遣によるセミナーを実施。主に高校生を対象としたものづくり産業広報誌を発行。ものづくり人材育成コーディネーターを配置

IV「1 産業振興パッケージ」「1-4 人材育成促進」

年度	実績等
平成29年度	企業向け採用力向上セミナー（4回、169事業所）、高校生・大学生向け工場見学会（13回、735人）、県内外理工系大学生等向けセミナー（5回、59人）。高校等延べ28校でキャリアカウンセラー派遣によるセミナーを実施。主に高校生を対象としたものづくり産業広報誌を発行。ものづくり人材育成コーディネーターを配置。
平成30年度	企業向け採用力向上セミナー（4回、92事業所）、高校生・大学生向け工場見学会（24回、1,356人）、県内外理工系大学生等向けセミナー（5回、79人）。高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ29校）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。
令和元年度	企業向け採用力向上セミナー（3回、72事業所）、高校生や教員等向け工場見学会（23回、1,071人）、ものづくり企業セミナー（仙南地域 参加企業48社、参加学生数約500人）。高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ29校）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。
令和2年度	高校生向け工場見学会（13回、653人）、高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ31校、1,060人）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。
令和3年度	高校生や教員等向け工場見学会（16回、626人）、高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ29校、977人）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。
令和4年度	高校生や教員等向け工場見学会（17回、664人）、高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ22校、806人）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。
令和5年度	高校生や教員等向け工場見学会（35回、1,202人）、高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ21校、393人）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。
令和6年度	高校生や教員等向け工場見学会（25回、970人）、高校等へのキャリアカウンセラー派遣によるセミナー（延べ24校、461人）。高校生等を対象としたものづくり産業広報誌発行。ものづくり人材育成コーディネーター配置。

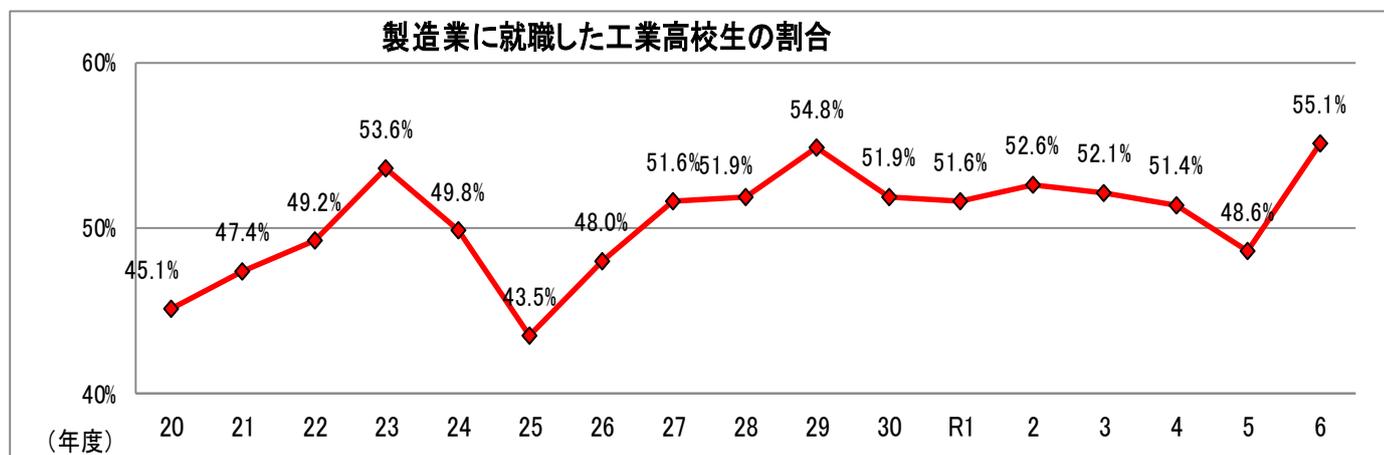
② 事業の成果

- 平成19年度から平成22年度にかけ、県全体の高校生の就職内定率は低下しましたが、工業学科は横ばい又は微減に留まっていました。東日本大震災後は、関係機関が連携した就職支援や雇用状況の改善により就職内定率は上昇しており、中でも工業学科は高い内定率を達成しています。



## IV「1 産業振興パッケージ」 「1-4 人材育成促進」

- ・また、製造業に就職した工業高校生の割合は、近年概ね50パーセント前後の割合で推移しています。
- ・本事業及び後述の「みやぎクラフトマン21事業」を通じた高校生への製造業の認知度向上、実践的な指導による技能向上により、本県の次代を担うものづくり産業の人材育成に取り組んでいます。



### (7) 産業人材養成教員研修事業

- 平成20～令和6年度事業費 12,256千円（基金活用額 12,256千円）  
[第1期（平成20～24年度）事業費 4,726千円（基金活用額 4,726千円）]  
[第2期（平成25～29年度）事業費 2,676千円（基金活用額 2,676千円）]  
[第3期（平成30～令和4年度）事業費 3,104千円（基金活用額 3,104千円）]  
[第4期（令和5～6年度）事業費 1,750千円（基金活用額 1,750千円）]
- 県立の工業・農業・水産高等学校及び同様の専門学科又はコース（類型）を置く県立高等学校及び県立特別支援学校に在籍する専門教科担当教員を対象とし、県内外の企業等に派遣しての研修や高度技術者等を講師に招聘しての研修等を行うことで、各産業分野の最先端の技術・技能を習得させることにより実践的指導力を向上させ、専門高校等において産業人材の養成を図るとともに、専門高校等と産業界との連携を深める。

#### ① 事業の実績

これまでに、最先端の技術・技能を有する専門学校及び企業に、延べ260人の工業等を担当する教諭、実習助手を派遣するとともに、企業から招聘型の研修には延べ194人の教諭等が参加し、産業分野での最新技術を習得することで、教職員の指導力の向上を図りました。

（令和6年度実績 派遣研修：8団体に10人派遣 招聘型研修：13人参加）

② 事業の成果

建築図面作成のため専用 CAD の操作方法や図面作成技術を教員自身が身に付けることで、これまでの指導内容を見直すとともに新たな情報や技術を踏まえた指導方法を模索することで、生徒の学習活動に大いに役立てられています。

また、切削加工における技術を経験豊富な指導者から学ぶことにより、実際に作業を進めるうえでのポイント実感することで、生徒に対して的確な指導を行うことにつながっています。



建築図面作成研



切削加工技術の向上

(8)みやぎクラフトマン21事業

- 平成22～令和6年度事業費 172, 567千円（基金活用額 54, 080千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 62, 695千円（基金活用額 14, 490千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 80, 314千円（基金活用額 19, 730千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 19, 860千円（基金活用額 19, 860千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 9, 698千円（全額企業版ふるさと納税寄附金を活用）]
  
- 工業系学科を有する学校において、企業OB等の熟練技能者による実践的な指導や最新工作機械の導入等を通じて、企業で即戦力となる人材を育成。

① 事業の実績

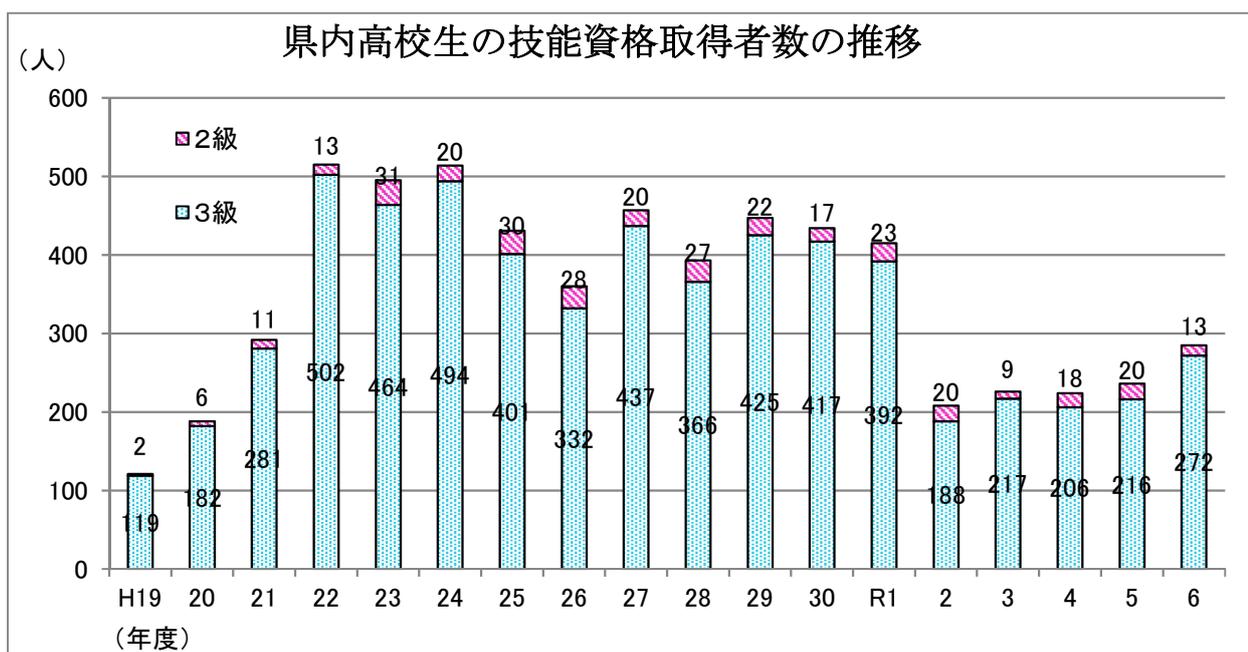
年度	実績等
平成22年度	工業高校等9校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など140プログラムを実施したほか、工業系高校2校で工作機械を導入
平成23年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など112プログラムを実施したほか、工業系高校2校で工作機械を導入
平成24年度	工業高校等14校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など163プログラムを実施したほか、工業系高校2校で工作機械を導入
平成25年度	工業高校等14校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など193プログラムを実施したほか、工業系高校2校で工作機械等を導入
平成26年度	工業高校等14校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など176プログラムを実施したほか、工業系高校1校で工作機械等を導入
平成27年度	工業高校等14校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など172プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
平成28年度	工業高校等14校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など133プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
平成29年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など131プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施

## IV「1 産業振興パッケージ」「1-4 人材育成促進」

平成30年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など133プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
令和元年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など133プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
令和2年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など70プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
令和3年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など79プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
令和4年度	工業高校等12校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など129プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
令和5年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など133プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
令和6年度	工業高校等13校において、企業OB等の熟練技能者による実践授業など131プログラムを実施したほか、溶接技術講習会を実施
第1期通算	企業OB等の熟練技能者による実践授業など415プログラムを実施
第2期通算	企業OB等の熟練技能者による実践授業など805プログラムを実施
第3期通算	企業OB等の熟練技能者による実践授業など544プログラムを実施
第4期通算	企業OB等の熟練技能者による実践授業など264プログラムを実施
通算	企業OB等の熟練技能者による実践授業など2,028プログラムを実施

### ② 事業の成果

- ・ 本事業の実施により、高校生のものづくりに関する意識の醸成、専門知識と仕事との関連性の理解促進がはかられ、資格取得、就職への意欲向上につながったほか、各種競技大会での好成績などの効果が現れています。
- ・ 県内多数の企業の協力や、企業OB等の熟練技能者による実践的な指導により、多くの生徒が技能検定試験に合格しており、意欲的にもものづくり技能の向上、即戦力となる人材の育成に取り組んでいます。※技能資格取得者数：2級311人、3級5,329人(平成22～令和6年度)





【写真】

「みやぎクラフトマン21事業」

実践風景及びその成果

(2024年・技能五輪全国大会愛知大会)

(9)「地学地就」産業人材育成事業

※平成25年度～令和2年度まで：地学地就・地域産業の担い手育成推進事業

- 平成29～令和6年度 事業費 320,464千円（基金活用額 218,188千円）  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 38,038千円（基金活用額 38,039千円）]  
 [第3期（平成30～令和3年度）事業費 180,438千円（基金活用額 180,149千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 101,988千円（全額企業版ふるさと納税寄附金を活用）]
- 学校と地域の企業及び県の関係機関が連携協力して、地域の将来を支えるものづくり人材の育成と確保及び職場定着の取組を推進。

① 事業の実績

年度	実績等
平成29年度	就職希望者の多い指定校30校に連携コーディネーターを15人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,232件）、 求人者対応（1,302件）、面接指導（321件）、企業訪問（246件）
平成30年度	就職希望者の多い指定校30校に連携コーディネーターを15人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,168件）、 求人者対応（1,023件）、面接指導（272件）、企業訪問（460件）
令和元年度	就職希望者の多い指定校30校に連携コーディネーターを15人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,132件）、 求人者対応（1,117件）、面接指導（324件）、企業訪問（341件）
令和2年度	就職希望者の多い指定校24校に連携コーディネーターを12人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（755件）、 求人者対応（526件）、面接指導（151件）、企業訪問（129件）
令和3年度	就職希望者の多い指定校26校に連携コーディネーターを11人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（357件）、 求人者対応（357件）、企業訪問（486件）
令和4年度	就職希望者の多い指定校22校に連携コーディネーターを11人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,010件）、 求人者対応（1,010件）、企業訪問（449件）
令和5年度	就職希望者の多い指定校22校に連携コーディネーターを13人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,563件）、 求人者対応（1,226件）、企業訪問（735件）
令和6年度	就職希望者の多い指定校22校に連携コーディネーターを13人配置。 連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,731件）、 求人者対応（1,507件）、企業訪問（759件）

## IV「1 産業振興パッケージ」「1-4 人材育成促進」

年度	実績等
第2期通算	連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（1,232件）、求人者対応（1,302件）、面接指導（321件）、企業訪問（246件）
第3期通算	連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（4,422件）、求人者対応（4,033件）、面接指導（747件）、企業訪問（1,865件）
第4期通算	連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（3,294件）、求人者対応（2,733件）、企業訪問（1,494件）
通算	連携コーディネーターの活動実績（延べ件数）：相談対応（8,948件）、求人者対応（8,068件）、面接指導（1,068件）、企業訪問（3,605件）



企業訪問（就職指導研修会）

### ② 事業の成果

- ・ 圏域版プラットフォーム会議コアメンバーとして、地域産業界と高校との連絡調整を行い、卒業生の就職先を定期訪問し職場定着を図るとともに、企業訪問で得た情報を生徒・保護者に還元し、就職先の理解促進・認知度向上につながっています。
- ・ 離職した卒業生を県や関係機関の人材確保事業につなぎ、再就職を促しました。

### その他の人材育成促進に関する事業

1-4 人材育成促進	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
産業デジタル化支援事業	中小企業等の経営者や担当者向けにデジタル技術活用等に関するセミナーを開催する	令和6年度 360 (360)	中小企業等の経営者や担当者向けにデジタル技術活用等に関するセミナーを全4回(参加者延べ計189人)開催した。	実施後アンケートにおいて、「大変満足している」「満足している」の割合がいずれも8割強であったほか、デジタル化実態調査における進行度が令和4年度の32.7%から令和6年度には48%に上昇した。
専門教育次世代人材育成プロジェクト事業	地域活性化の担い手として、分野や領域の壁を越えて人や組織の「協働」を創出し、地域産業の振興を推進できる人材の育成	令和6年度 1,810 (840)	石巻地域の専門高校4校で連携し、産学官が協働しながら、地域活性化アイデア等に取り組んでいる。中間発表として、石巻市の交流広場を会場に地域住民向けに中間発表会を行った。	生徒委員会を12回実施し、学校間の連携を意識しながら、商品開発のアイデアも2つ程出された。高校生が考える地域課題や地域の活性化アイデアの発表会を実施した。

## 1-5 人材確保支援

平成30～令和6年度事業費 646百万円(基金活用額 606百万円)

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 380百万円(基金活用額 380百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 266百万円(基金活用額 226百万円)]

専門的な知識や経験を有する人材等の県内企業への環流(U I Jターン)促進や企業の人材確保に向けた環境整備等を支援しました。

## (1)ものづくりカレッジプロジェクト推進事業

○ 令和6年度事業費 8,649千円(基金活用額 8,649千円)

[第4期(令和6年度)事業費 8,649千円(基金活用額 8,649千円)]

○ みやぎ工業会を中心とする産業界、理工系学部を有する東北学院大学、東北工業大学、石巻専修大学、東北文化学園大学と、宮城県で「ものづくりカレッジ」を設置し、産学官が一体となって中小ものづくり企業の魅力等を学生に伝えることで、大卒人材の県内就職や県内定着につなげることを目指す。

## ① 事業の実績

年度	実績等
令和6年度	産学官が一体となって、講演会や企業説明会などの取組や、事業のキックオフとなる開学式を実施し、延べ75社のものづくり企業及び延べ1,165人の学生が参加した。

## ② 事業の成果

・ものづくり人材の確保等に向けて、県内の中小ものづくり企業の特色や魅力を学生に伝える取組を実施し、県内中小ものづくり企業の認知度向上に貢献しました。



開学式を開催



開学式において卒業生による  
トークイベントを実施

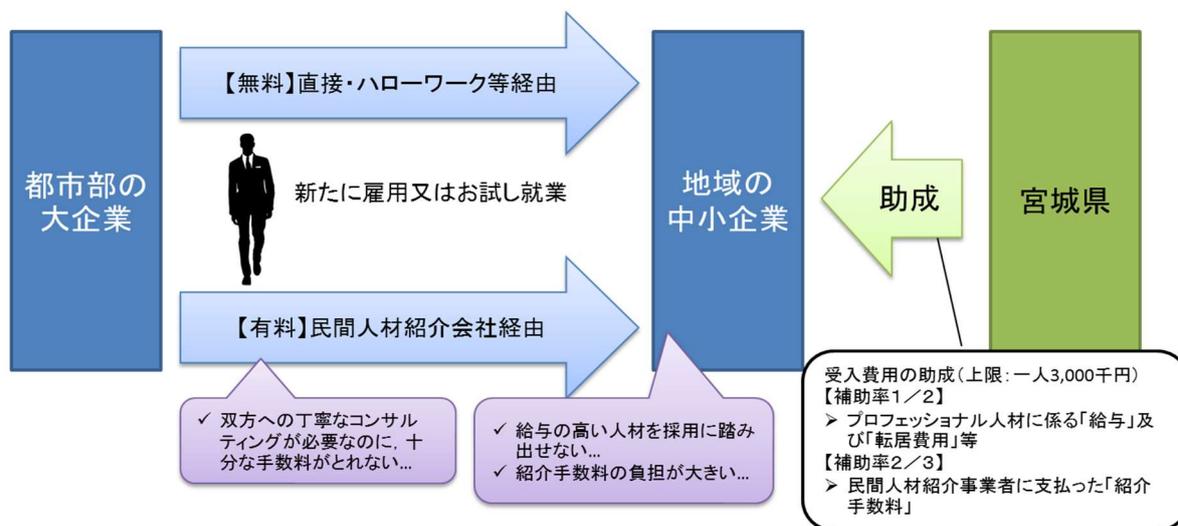
**(2)宮城U I Jターン助成金事業** ※平成28～29年度:地域産業振興促進

- 平成28～令和6年度事業費 219,825千円（基金活用額 219,825千円）
  - 〔第2期（平成28～29年度）事業費 51,786千円（基金活用額 51,786千円）〕
  - 〔第3期（平成30～令和4年度）事業費 116,241千円（基金活用額 116,241千円）〕
  - 〔第4期（令和5～6年度）事業費 51,798千円（基金活用額 51,798千円）〕
- 首都圏など県外に居住するプロフェッショナル人材を新たに雇用、またはお試し就業を実施した県内中小企業に対して助成金を支給することにより、県内企業の人材確保を図るとともに、本県へのU I Jターンを促進。
  - ※ お試し就業：中小企業等と県外に居住するプロフェッショナル人材双方が、県内移住を伴う正式雇用の採否を判断するために有期の雇用契約又は出向契約に基づいて、受入企業で就業すること。

**① 事業の実績**

- ・ 首都圏など県外に居住するプロフェッショナル人材を新たに雇用、またはお試し就業を実施した県内中小企業に対し、その経費の一部を助成しました。

年度	助成件数	助成金額
平成28年度	21件	23,236千円
平成29年度	25件	28,550千円
平成30年度	26件	39,321千円
令和元年度	15件	19,557千円
令和2年度	16件	17,040千円
令和3年度	18件	29,556千円
令和4年度	8件	10,767千円
令和5年度	22件	32,205千円
令和6年度	17件	19,593千円
第2期通算	46件	51,786千円
第3期通算	83件	116,241千円
第4期通算	39件	51,798千円
通算	168件	219,825千円



※令和元年度より紹介手数料のみ助成

## ② 事業の成果

- ・ 県内中小企業においては、当該補助金を活用し、県外からプロフェッショナル人材163人（平成28～令和6年度）を新たに雇い入れることにより、新規事業の立ち上げ、経営改善を行うことができました。

## 【主な事例(令和6年度)】

	業種	職務	成果
○社	製造業	部長相当	当該プロ人材は約24年間食品製造業の経験を有し、2010年からは生産管理課長として、工場内全般にかかわる管理、品質管理、社員教育等を担当してきた。受入企業では、同じく食品製造業会社として、複数工場体制で生産活動をしてきたが、生産量の増大等に伴い、実務経験豊富な人材を外部から採用し、更なる品質の向上と顧客ニーズへの対応を求めている。採用後は、品質管理に関する社内ルールや各種マニュアル等の見直しを行うとともに、年間取組計画の立案によるPDCAサイクルの構築等、受入企業の経営課題の解決に積極的に取り組んでいる。
F社	情報サービス業	課長相当	前職ではEC事業の総責任者として、商談からEC店舗運営までを担い、年間売り上げを倍増させるなどEC事業に精通しており、受入企業におけるEC事業の拡大、販促政策の提案など、新規カテゴリーへの参入や販路拡大に向けた経営戦略の策定などに取り組んでいる。

**(3)外国人材マッチング支援事業** ※平成30年度:外国人留学生マッチング事業 令和元年度・2年度:外国人雇用アシスト事業

- 平成30～令和6年度事業費 107,723千円（基金活用額 107,723千円）  
 [第3期(平成30～令和4年度) 事業費 75,625千円（基金活用額 75,625千円）]  
 [第4期(令和5～6年度) 事業費 32,098千円（基金活用額 32,098千円）]
- 県内での就労を希望する外国人材と県内企業のマッチングを支援。

**① 事業の実績**

- ・ 企業相談窓口を設置したほか、外国人材を採用する場合に必要な手続きについての企業向けセミナーや、外国人材を対象とした就職支援セミナー、合同企業説明会等を実施した。

年度	実績等
平成30年度	企業相談窓口設置、企業向けセミナー（3回）、留学生向けセミナー（17回）、合同企業説明会（3回）、企業見学ツアー（6回）、留学生と企業との座談会（2回）を行い、企業延べ180社、留学生延べ1,039人が参加。
令和元年度	企業開拓（191社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（10回）、留学生向けセミナー（10回）、合同企業説明会（3回）を行い、企業延べ289社、留学生延べ537人が参加。
令和2年度	企業開拓（60社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（7回）、留学生向けセミナー（9回）、合同企業説明会（3回）を行い、企業延べ237社、留学生延べ690人が参加。
令和3年度	企業バンク登録（116社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（11回）、留学生向けセミナー（6回）、合同企業説明会（3回）、企業見学ツアー（3回）、留学生と企業との交流会（1回）を行い、企業延べ280社、留学生延べ536人が参加。
令和4年度	企業バンク登録（200社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（3回）、留学生向けセミナー（5回）、合同企業説明会（3回）、企業見学ツアー（3回）、留学生と企業との交流会（2回）を行い、企業延べ391社、留学生延べ645人が参加。
令和5年度	企業バンク登録（91社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（2回）、外国人材向けセミナー（5回）、合同企業説明会（2回）、企業見学ツアー（3回）、外国人材と企業との交流会（2回）を行い、企業延べ503社、外国人材延べ1,593人が参加。
令和6年度	企業バンク登録（195社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（2回）、外国人材向けセミナー（2回）、合同企業説明会（4回）、企業見学ツアー（1回）、外国人材と企業との交流会（1回）を行い、企業延べ626社、外国人材延べ960人が参加。
通算	企業バンク登録（853社）、企業相談窓口設置、企業向けセミナー（38回）、外国人材向けセミナー（54回）、合同企業説明会（21回）、企業見学ツアー（16回）、外国人材と企業との交流会（8回）を行い、企業延べ2,506社、外国人材延べ6,000人が参加。

② 事業の成果

- ・ セミナー等を通して企業における外国人材の適切な活用を推進するとともに、平成30年度から7年間で、外国人材340人が県内企業から就職内定を受けるなど、県内企業の人材確保に寄与しました。



(4)外国人材現地ジョブフェア事業

- 令和6年度事業費 51,323千円（基金活用額 51,323千円）  
 [第4期（令和6年度）事業費 51,323千円（基金活用額 51,323千円）]
- 県内企業に対し、外国人材の採用ビジョンや現地人材のイメージについて理解を促進し、本事業実施後における外国人材採用の後押しを図るもの。

① 事業の実績

- ・ 県内企業 46 社がインドネシアに渡航し、1 日目に県内企業によるインドネシア人材への企業概要説明及び面談、2 日目に県内企業と現地の送出国機関による人材の送り出しに関する協議を実施した。

年度	実績等
令和6年度	インドネシアでのジョブフェア参加企業数：46社

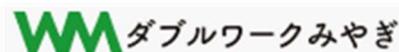
② 事業の成果

- ・ 計146人のインドネシア人が参加企業に就職（調整中を含む）し、県内企業の人材確保に貢献した。



「みやぎジョブフェア in インドネシア」当日の状況

(5) 副・兼(富っ県)みやぎマッチング促進プロジェクト



- 令和5～6年度事業費 76,449千円 (基金活用額 38,357千円)  
[第4期(令和5～6年度)事業費 76,449千円 (基金活用額 38,357千円)]
- 県内企業に対して、副業・兼業人材を活用するメリットや活用に当たっての留意事項等を周知するセミナーを開催し、普及啓発を図るとともに、受託事業者が保有するポータルサイトにも本プロジェクトの求人情報を掲載し、県内外の副業・兼業人材の求人閲覧・応募を実現。
- また、求人と求職をマッチングするためのWEBサイト「ダブルワークみやぎ」を運営するとともに、サイト掲載時における企業の魅力ある募集内容の作成支援や契約手続き等のサポートを実施。

① 事業の実績

年度	実績等
令和5年度	セミナー開催回数7回、登録企業数79社、マッチング数59件
令和6年度	セミナー開催回数43回、登録企業数104社、マッチング数51件

② 事業の成果

- ・ 県内企業に対し、副業兼業人材の活用を促すセミナーを実施した他、副業・兼業マッチングサイト「ダブルワークみやぎ」の運営を行い、51件のマッチングに繋がった。

【主な事例(令和6年度)】

	業種	募集内容	成果
F社	卸売業	人事システムの導入サポート	社内のDX化を進めるにあたり「リソース不足」と「コスト」がネックになっており、セミナー参加を通じて副業の求人を掲載。9名の応募があった中で、人事DXやバックオフィス業務のクラウドシステム部門立ち上げ経験のあるT氏とマッチングした。
O社	小売業	経営管理体制構築サポート	小売業として店舗を展開する中で効率的で効果的な経営管理体制構築、組織全体のパフォーマンス向上を目的に、ダブルワークみやぎを利用。飲食業界での経験を経て、コンサルティング事務所を独立開業したH氏とマッチングした。

(6) みやぎで就活応援プロジェクト

- 令和6年度事業費 15,056千円 (基金活用額 15,056千円)  
[第4期(令和6年度)事業費 15,056千円 (基金活用額 15,056千円)]
- 進学や就職を機にした首都圏への転出等により、県内の生産年齢人口が減少している中で、県外大学生による県内企業へのUIJターン就職を促進するため、県外大学生が県内での就職活動及びキャリア形成活動を行った際の交通費と宿泊費を助成。

① 事業の実績

年度	実績等
令和6年度	県外学生向け旅費・宿泊費補助：402件

② 事業の成果

- ・県が設置するみやぎジョブカフェ東京サテライトを学生が利用する際や、首都圏の大学のキャリア支援センターあて事業の周知を行い、402件の助成に繋がった。そのうち、卒業年次である学生は66名で、うち25名が県内の企業に就職した。

その他の人材確保支援に関する事業

1-5 人材確保支援	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
立地企業雇用確保支援対策事業	県内に立地した企業の雇用確保の支援を効果的に実施するため、高校生を中心とした就職予定者やその家族に対して立地企業の魅力を発信するための情報提供	令和2～6年度 10,631 (10,631)	立地企業22社を紹介する動画を作成し、県ホームページやYouTubeに掲載するとともに県内の高校107校へ動画を収録したDVDを配布	YouTubeは22社計約40,000回の再生回数(R7.7現在)があったほか、高校へDVDを配布し授業への活用を促すことで、高校生等の採用を希望する立地企業の認知度向上に貢献
国外半導体人材生活支援事業	半導体工場の立地に伴い、海外から移住される従業員・家族等向けに生活環境等を紹介	令和5～6年度 9,955 (9,955)	台湾の半導体関連企業向けに、本県での暮らしの魅力等を紹介する動画及びガイドブックを作成した	台湾向けの商談会や企業誘致活動、国際交流等の場で広く活用予定
プロフェッショナル人材戦略拠点(半導体)運営事業	半導体関連企業への訪問を通じ、プロフェッショナル人材の採用を支援	令和6年度 4,494 (2,864)	県内企業に642件の訪問を行い、全体で387件の人材マッチング成約を行った中で、半導体県連企業には44件の人材マッチングとなった。	県内企業との対話を通じて、経営課題や求人ニーズを明確化し、経営課題に資する人材を採用することで企業の持続性維持に貢献
台湾事業者支援事業	半導体工場の立地に伴い、台湾から移住される従業員・家族等の日常生活の支障解決に対応するため、受入環境を整備するとともに、現地政府や関係機関との交流を強化するための協議を行う。	令和6年度 224 (224)	令和6年9月1日に大衛村で開催された「台湾・半導体フェスティバル in 大衛2024」に仙台地方振興事務所と共同でブースを出展。	「多文化共生社会」「やさしい日本語」等の情報発信を行い、半導体企業誘致に伴い増加が見込まれている台湾の方々の受入環境整備の促進を図った。

## 1-6 地域産業振興促進

平成20～令和6年度事業費 7,093百万円(基金活用額 5,465百万円)

[第1期(平成20～24年度)事業費 908百万円(基金活用額 600百万円)]

[第2期(平成25～29年度)事業費 1,966百万円(基金活用額 1,812百万円)]

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 1,398百万円(基金活用額 1,315百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 2,821百万円(基金活用額 1,738百万円)]

「富県宮城の実現」に向けて主体的に取り組む事業への支援とともに、地域経済を支える商業の振興や農林水産業の競争力強化を図り、新たな課題等に対しても機動的に事業を展開しました。

## (1)地域ポイント等導入支援事業

○ 令和6年度事業費 1,869,900千円(基金活用額 817,610千円)

[第4期(令和6年度)事業費 1,869,900千円(基金活用額 817,610千円)]

○ デジタルポイントの活用により、自然災害避難支援アプリの普及と域内消費の拡大を推進。

## ① 事業の実績

- ・ 自然災害避難支援アプリ「みやぎ防災」の利用登録者にデジタルポイント「みやぎポイント」を付与するキャンペーンを実施しました。
- ・ コールセンターの設置や対面式相談会の開催により、アプリやデジタルに不慣れな店舗や県民の事業参加を支援しました。

年度	実績等
令和6年度	「みやぎ防災」の登録者数：621,451人(令和7年2月末時点) ポイント発行数(利用数)：1,854,825,500(1,798,805,076)ポイント ポイント利用店舗数：1,272店舗 相談会開催回数：46回 コールセンター架電数：7,353件

## ② 事業の成果

- ・ およそ18億円相当のデジタルポイントが県内で消費されることで、地域内の消費が喚起されるとともに、店舗のデジタル化が進みました。
- ・ およそ62万人の県民が「みやぎ防災」アプリを導入したことで、今後の避難所運営が円滑化され、県内の防災力向上が期待されます。
- ・ 「みやぎポイント」制度の県内における認知度が向上したことで、今後は県や市町村が共同利用するプラットフォームとしての活用も期待されます。



「みやぎポイント」キャンペーンポスター



利用店舗ステッカー

## (2)ものづくり海外販路開拓支援事業

- 令和6年度事業費 8,107千円（基金活用額 4,906千円）  
[第4期（令和6年度）事業費 8,107千円（基金活用額 4,906千円）]
- 海外で開催される展示会への出展支援やテストマーケティングの実施などにより、県内ものづくり企業の海外販路開拓を支援

### ① 事業の実績

- ・ものづくり企業の海外販路開拓を支援するため、欧州で開催された国際医療機器展への県内企業の出展を支援したほか、香港において県産工芸品のテストマーケティングを実施しました。

年度	実績等
令和6年度	企業の展示会出展支援：2社 県産工芸品テストマーケティングの実施：24社

### ② 事業の成果

- ・本県において高度電子機械産業の活性化に向けて重点市場の一つに位置付け、高い成長が期待されている「医療・健康機器」分野における国際医療機器展への出展支援を通じて2件の商談が成立しました。
- ・香港で実施した県産工芸品のテストマーケティングを通じて、13社22商品が販売されました。



国際展示会出展・テストマーケティングの様子

### (3)みやぎ IT 商品販売・導入促進事業

- 平成23～令和6年度事業費 174,851千円（基金活用額 174,851千円）  
 [第1期（平成20～24年度）事業費 26,658千円（基金活用額 26,658千円）]  
 [第2期（平成25～29年度）事業費 67,844千円（基金活用額 67,844千円）]  
 [第3期（平成30～令和4年度）事業費 57,299千円（基金活用額 57,299千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 23,050千円（基金活用額 23,050千円）]
- 情報関連産業の振興と地域産業のIT化を推進するために、地域産業が求めるIT商品の開発を支援するとともに、優れたIT商品を認定し、その商品の販売・導入を支援。

#### ① 事業の実績

##### イ みやぎ認定IT商品

県内IT企業が開発した優れたソフトウェア商品を「みやぎ認定IT商品」として認定し、専門家派遣による販売促進計画策定などにより販路拡大等を支援しました。

##### ロ IT商品開発支援（平成30年度まではIT商品開発スタートアップ支援）

IT導入を図ろうとする事業者への試用提供や市場での販促活動で得られる「顧客の声」を反映させた、実用的なIT商品の開発及び改良費用の一部を補助し支援しました。

年度	みやぎ認定IT商品（認定数）	IT商品開発支援（採択数）
平成23年度	2社 2商品	—
平成24年度	6社 7商品	
平成25年度	5社 6商品	2社 2商品
平成26年度	2社 2商品	5社 5商品
平成27年度	3社 3商品	5社 5商品
平成28年度	2社 2商品	2社 2商品
平成29年度	1社 1商品	2社 2商品
平成30年度	1社 1商品	1社 1商品
令和元年度	3社 3商品	6社 6商品
令和2年度	2社 2商品	7社 7商品
令和3年度	1社 1商品	8社 8商品
令和4年度	1社 1商品	1社 1商品
令和5年度	1社 1商品	1社 1商品
令和6年度	2社 2商品	5社 5商品
第1期通算	8社 9商品	—
第2期通算	13社 14商品	16社 16商品
第3期通算	8社 8商品	23社 23商品
第4期通算	3社 3商品	6社 6商品
通算	32社 34商品	45社 45商品

令和2～6年度みやぎ認定 I T 商品一覧

年度	商品の名称	商品の概要	事業者名
令和2年度	AI・IoT インフラメンテ ナンス プラットフォー ム「JUDGE!」	AI が世界中のVISIONとなり 安全な社会を実現する	株式会社SRA東北
令和2年度	サブスクリプション型 ホームページ構築シス テム - ivalue (アイバ リュー)	コミコミ定額でみんなにナ イスなホームページを	ivalue株式会社
令和3年度	GamcisSMART+	お客様管理に重点を置いた 「顧客管理システム」	オータス株式会社
令和4年度	ARキャラナビシステム	AR化したキャラクターがナビ ゲートする情報案内システム	サイバーノーツ合同会社
令和5年度	オガトレHIT	音楽にあわせてストレッチを 楽しめる新感覚AR音楽ゲーム アプリ	株式会社OGATORE
令和6年度	METARIS	AIによるメータ読取と判定	オータス株式会社
	CrewWorks	統合ビジネスコミュニケーシ ョンツール	テクノ・マインド株式会社

## ② 事業の成果

- 優れた I T 商品として認知度が高まり、売上げが好調な商品もあるほか、地域産業が求める I T 商品が新たに商品化され、地域産業への導入を促進するなど、地域産業の I T 化に寄与しています。

**(4) 先進的デジタル産業振興支援事業** ※令和3～5年度:AI・IoT産業創出・活用促進支援事業

- 令和3～6年度事業費 107,041千円（基金活用額 107,041千円）  
 [第3期（令和3～4年度）事業費 76,598千円（基金活用額 76,598千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 30,443千円（基金活用額 30,443千円）]
- 県内IT企業とユーザー企業の交流を促進することで、県内IT企業のビジネスチャンスを拡大。
- AI・IoTを用いた新ビジネスの創出・実証支援を行うことで、県内IT企業の新規領域への参入を促進。

**① 事業の実績**

イ 産業情報通信関連技術データベースの運用

ICTに関連した施策情報の周知と企業間交流促進を目的としたポータルサイトを運用し、掲載情報の充実を図り、ポータルサイトの利活用の促進を図りました。

ロ 異業種連携促進支援事業

県内ユーザー企業のニーズを踏まえたテーマを設定し、デジタル技術導入に関するセミナーや勉強会を開催しました。

年度	実績等
令和3年度	バックオフィス業務効率化セミナー（22社参加） AI・IoT等先進的デジタル技術関連セミナー（59社、4団体参加）
令和4年度	製造業基幹システム勉強会（4社参加）
令和5年度	DXへ進む経営者のための経営力アップセミナー（22名参加） ローカルDXスクール（全6回、44名参加） 女性とともに学ぶWell-being×DX勉強会（全3回、30名参加） みやぎDXアイデアソン～みやぎの地場企業を支えるDXを考える～ （14名参加）
令和6年度	異業種DX勉強会（全3回、19名参加） 女性とともに学ぶWell-being×DX勉強会（全2回、20名参加） DXスタディツアー（8名参加） 地域企業DXのためのアイデアワーク（11名参加）

ハ 先進的デジタル技術実証事業 旧：先進的AI・IoT活用ビジネス創出実証事業

AI・IoT等の先進的なデジタル技術活用による県内産業の振興を目的として、デジタル技術を活用したビジネスモデルの企画、システムの開発・実証を支援しました。

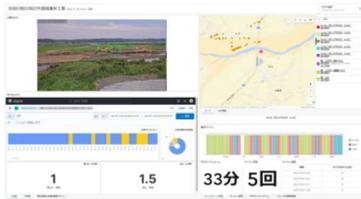
年度	採択数
令和元年度	2件（水産分野、自動車分野）
令和2年度	3件（物流分野、食品分野、製造分野）

年度	採択数
令和3年度	3件（獣害対策分野、ガス事業分野、倉庫分野）
令和4年度	1件（金型製造分野）
令和5年度	3件（製造業分野、介護分野、建設分野）
令和6年度	1件（陸運分野）

※令和2年度までは「みやぎIT市場獲得支援・形成促進事業」として実施

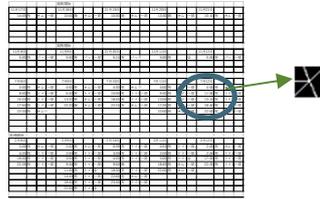
## ② 事業の成果

- ・ 企業間交流の場の創出などにより、県内IT企業とユーザー企業の交流を促進することで、地域産業のデジタル化や県内IT企業のビジネスチャンス拡大に寄与しています。
- ・ 先進的デジタル技術を活用したビジネスモデルの実証を支援するとともに、その結果を県内企業に共有することで普及促進を図り、県内におけるAI・IoT関連ビジネス創出に寄与しています。



建設機械

(AI映像解析+位置情報ダッシュボード)



介護（日誌作成支援AI）



配送（集配ルート最適化）

AI・IoTによる生産性向上の取組事例

## (5) 商店街NEXTリーダー創出事業

- 令和元～6年度事業費 33,983千円（基金活用額 33,983千円）  
 [第3期（令和元～4年度）事業費 19,148千円（基金活用額 19,148千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 14,835千円（基金活用額 14,835千円）]
- 商店街活動の新たな担い手やリーダーの創出を図ることを目的に、先進事例を学ぶためのセミナーを実施するとともに、商店街の若手・女性事業者による実践的な取組等を支援。

### ① 事業の実績

#### イ セミナーの開催

県内の若手・女性事業者等を対象に、商店街活性化に係る先進事例を学ぶため、基礎講座を全4回（うち1回は実地研修）、スキルアップ講座を全4回（うち1回は実地研修）、マネジメント講座を全4回それぞれ開催しました。

#### ロ 若手・女性事業者による取組の支援

商店街団体や任意の若手・女性事業者グループを対象に、商店街活性化に向けた実践的な取組に必要な経費を補助しました。

#### ハ ネットワークミーティングの開催

セミナー参加者や補助事業者のほか商店街関係者を参集し、補助事業者による活動報告と交流会を開催しました。

## IV「1 産業振興パッケージ」 「1-6 地域産業振興促進」

年度	セミナーの開催	若手・女性商業者による 取組の支援（補助）	ネットワークミーティング の開催
令和元年度	修了者7人	補助事業者8者	参加者55人
令和2年度	修了者7人	補助事業者10者	(開催見送り)
令和3年度	修了者5人	補助事業者6者	参加者42人
令和4年度	修了者22人	補助事業者8者	参加者35人
令和5年度	修了者24人	補助事業者10者	参加者49人
令和6年度	修了者25人	補助事業者10者	参加者54人
通算	90人	52者	235人

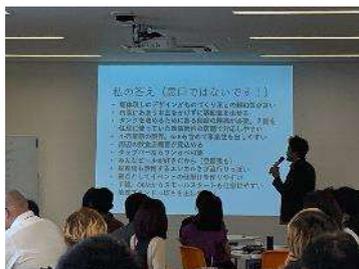
※令和2年度については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により開催見送り

### ② 事業の成果

- ・セミナーにより商店街の次代のリーダーとなり得る人材を育成したほか、実践的な取組への支援を通じて、若手・女性商業者における商店街活動のノウハウの蓄積に寄与しました。
- ・ネットワークミーティングを開催することで、各地域での取組事例を広く波及させることができました。



実地研修（岩手県一関市）の様子



セミナー（共通講座）の様子



ネットワークミーティングの様子

### (6) 観光地周遊促進事業

- 令和5～6年度事業費 43,653千円（基金活用額 43,653千円）  
[第4期（令和5～6年度）事業費 43,653千円（基金活用額 43,653千円）]
- 県内観光地3か所において、AIカメラ等を活用した混雑状況の分析、デジタルマップを活用した観光エリアの情報発信、観光客の属性や行動データの分析を行い、県内観光地間の周遊促進に向けた取組を推進。

### ① 事業の実績

年度	実績等
令和5年度	デジタルマップの運用（閲覧数延べ52,206回）、モデル地域における渋滞等解消時間の縮減（延べ137時間）、観光消費額の増加（モデル地域合計73,119千円）
令和6年度	デジタルマップの運用（閲覧数延べ14,623回）、モデル地域における渋滞等解消時間の縮減（延べ196時間）、観光消費額の増加（モデル地域合計109,805千円）

② 事業の成果

・栗駒山、鳴子峡、松島の3地区において、紅葉時期等の観光シーズンに合わせ、駐車場や観光施設にセンサーやAIカメラを設置して混雑状況を把握し、デジタルマップ「ミヤギタビマップ」による情報発信を実施した。



デジタルマップのイメージ

設置施設	駐車場	駐車場	観光施設	観光施設	観光施設
使用する機器	AIカメラ EDGEMATRIX	車両センサー	AIカメラ	人数計測センサー	サイコロセンサー
機器画像	 ※設置場所：アンカー打ち込みの場合、設置費用が多額になるため。				
設置台数	10台 (4カ所、5セット)	栗駒山:1台/鳴子峡:1台	松島:2台/栗駒山:1台/鳴子峡:2台	1台	9台



実証事業のイメージ

(7)DX 関連スタートアップ支援事業

○ 令和6年度事業費 22,620千円 (基金活用額 22,620千円)

[第4期 (令和6年度) 事業費 22,620千円 (基金活用額 22,620千円)]

○DX 関連スタートアップ創出に係るイベントの開催及び、Miyagi Pitch Contest2024 の登壇者に対するフォローアップ支援を実施。

① 事業の実績

業界著名人や投資家等に向けて起業家から革新的なビジネスモデルを提案するコンテストを開催しました。さらに、投資家や先輩起業家による講演及び相互交流を図るため、コンテストのプレイベントも合わせて開催しました。

また、企業等に挑む若者の裾野拡大のため事業創出体験プログラムを開催しました。

年度	実績等
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「Miyagi Pitch Contest2025」へのエントリー数：59者 一次、二次審査を経て10者登壇</li> <li>・「Miyagi Pitch Contest2025」プレイベント参加者数：来場者39名、オンライン配信によるライブ視聴26名</li> <li>・「Make a Move! in MIYAGI スタートアップチャレンジ Boot Camp」への学生参加者数：32人</li> <li>・「Miyagi Pitch Contest2024」の優勝者に対するフォローアップ支援の実施</li> </ul>

「Miyagi Pitch Contest2025」登壇者概要及び審査結果（主なもの）

登壇者	概要	結果
松本 拓朗	細隙灯顕微鏡検査をAI技術で自動化したデバイス。非眼科医や医療スタッフでも簡単に操作でき、患者が目にあてるだけで高精度な眼科疾患のスクリーニングが可能で、医療過疎地域や高齢者施設でも目の健康を守る。また、オンラインで眼科医に相談できる仕組みを提供する。	第1位
株式会社 Kiva	全てのwebサービスにコードを一行追加するだけで、即時にウェブアクセシビリティ機能をサポートできるツール。視覚や聴覚に障害がある方や高齢者などに、快適なウェブアクセスを提供する。	第2位
バイオソノ株式会社	喉の音と音響分析AIを用いて高齢者の食事を自動観察するプロダクト。誤嚥をはじめ食事に起因して亡くなる高齢者は多く、介護事業所に大きな負担である食事介護をサポートする。	第3位

※Miyagi Pitch Contest登壇順に記載。個人名は敬称略。

## ② 事業の成果

・ ピッチコンテストの開催により、登壇者にとってベンチャーキャピタルからの資金調達や事業会社からの商談・協業に向けた動き、支援団体と連携したイベントの開催につながるなど、多くのビジネスチャンスが生まれるイベントとなりました。資金調達や商談等に関する交渉が43件生まれました。



Miyagi Pitch Contest2025 集合写真

## (8) 県食品デジタルマーケティング展開支援事業

- 令和6年度事業費 21,720千円（基金活用額 11,006千円）  
[第4期（令和6年度）事業費 21,720千円（基金活用額 11,006千円）]
- 首都圏及び関西圏のターミナル駅等において、リアルとデジタルの双方のメリットを生かした顧客体験を提供するとともに、消費者が県産品を試飲試食後に、その場若しくは二次元コードの読み取り等によりECサイトで購入できる販売の場（「OMO物産展」又は「OMO型県産品常設コーナー」）を設置し、県産品の更なる露出機会の創出により認知度向上及び新規顧客開拓を図るとともに、ECへの誘導により事業者の自立的成長を推進。

### ① 事業の実績

- ・ 東京（新宿駅西口広場イベントコーナー）及び大阪（ディーズスクエア）において、各5日間のOMO物産展を開催した。
- ・ 千葉（おためし本舗試食屋イオンモール幕張新都心）において、3か月間のOMO型県産品常設コーナーを設置した。

年度	実績等
令和6年度	<p><b>【OMO物産展】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東京（新宿駅西口広場イベントコーナー） 日 時：令和7年1月15日（水）から1月19日（日）まで 出展者等：25事業者83商品</li> <li>・ 大阪（ディーズスクエア） 日 時：令和7年1月4日（土）から1月8日（水）まで 出展者等：22事業者66商品</li> </ul> <p><b>【OMO型県産品常設コーナー】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 千葉（おためし本舗試食屋イオンモール幕張新都心） 日 時：令和6年11月1日（金）から令和7年1月31日（金） 出展者等：22事業者27商品</li> </ul>

② 事業の成果

- ・OMO物産展及びOMO型県産品常設コーナーにおいて、延べ4,301人が試飲試食を体験し、延べ9,892件の試食数に関するアンケートを回収することができた。
- ・回収したアンケートをもとに、商品に対する率直な消費者の意見等を各事業者へフィードバックし、事業者の今後の販売戦略や商品開発（改良）等につながる支援を実施した。
- ・出品商品が開催地バイヤーの目に留まり、新しい販路先を開拓できた事業者が4者いた。また、EC販売において、今まで注文がなかった地域や新規顧客からの注文を受けるようになったという事業者も複数見受けられた。



OMO 物産展（大阪）の様子



OMO 型県産品常設コーナーの様子

(9)アグリビジネス経営体確保支援事業

- 平成20～令和6年度事業費 1,265,813千円（基金活用額 1,265,813千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 212,350千円（基金活用額 212,350千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 368,892千円（基金活用額 368,892千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 507,032千円（基金活用額 507,032千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 177,539千円（基金活用額 177,539千円）]
- 「競争力ある農林水産業への転換」を早期に実現させるため、高い企業マインドを有するアグリビジネス経営に取り組む人材や企業の育成、施設整備の支援。

① 事業の実績

- ・（公財）みやぎ産業振興機構に設置した「アグリビジネス支援室」を中心に、アグリビジネス経営体の育成を支援しました。

年度	実績等
平成20年度	アグリビジネス経営者養成講座開催、アグリビジネスステージアップ支援
平成21年度	アグリビジネス経営者養成講座開催、アグリビジネスステージアップ支援、経営体支援コアチームによる集中支援
平成22年度	年間販売額1億円を目指すビジネスプラン3件を認定し、米の販売展開、園芸経営の6次産業化、施設整備の助成（3件（アグリ3））を実施
平成23年度	甚大な震災被害の中でアグリビジネスに取り組む経営体の事業正常化と新しい事業展開を支援
平成24年度	アグリビジネスに取り組む経営体や、競争力のあるアグリビジネス経営体の育成支援、施設整備の助成（4件（園2／アグリ2））を実施
平成25年度	震災後設立した法人や被災した法人の「早期の経営安定化」を図るため、講座の開催（3コース、59人受講）や専門家派遣（12社、57回）、施設整備の助成（6件（園2／アグリ4））を実施

IV「1 産業振興パッケージ」 「1-6 地域産業振興促進」

年度	実績等
平成26年度	各種講座（3コース、62人受講）による人材育成支援や、専門家派遣（15社、63回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（4件（園2/アグリ2））を実施
平成27年度	各種講座（3コース、84人受講）による人材育成支援や、専門家派遣（18社、84回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（1件（アグリ1））を実施
平成28年度	各種講座（3コース、81人受講）による人材育成支援や、専門家派遣（18社、75回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（2件（園2））を実施
平成29年度	各種講座（3コース、55人受講）による人材育成支援や、専門家派遣（19社、72回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（1件（アグリ1））を実施
平成30年度	各種講座（3コース、60人受講）による人材育成支援や、専門家派遣（16社、77回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（1件（アグリ1））を実施
令和元年度	各種講座（3コース、63人受講）による人材育成支援や、専門家派遣（20社、90回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（2件（園1/アグリ1））を実施
令和2年度	次世代トップリーダーを対象とした講座（8人受講）や組織力向上のための社員研修支援（6社）、専門家派遣（14経営体、80回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（2件（園2））を実施
令和3年度	次世代トップリーダーを対象とした講座（7人受講）や組織力向上のための社員研修支援（5社）、専門家派遣（17経営体、82回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（2件（園1/フード1））を実施
令和4年度	次世代トップリーダーを対象とした講座（7人受講）や生産性向上や自主的な改善活動が継続できる組織づくり支援（2社、各社10人）、専門家派遣（18経営体、90回）による経営課題の解決を支援、施設整備への助成（4件（園3/フード1））を実施
令和5年度	次世代トップリーダーを対象とした講座（6人受講）や農産物販売力向上のためのECサイト運用講座（4社、3回）、専門家派遣（21経営体、74回）による経営課題の解決を支援した他、施設整備への補助（3件（園1/フード2））を実施
令和6年度	次世代トップリーダーを対象とした講座（5人受講）や農産物販売力向上のためのEC戦略構築講座（4社、3回）、専門家派遣（16経営体、70回）による経営課題の解決を支援した他、施設整備への補助（2件（園1/フード1））を実施

※施設整備について、（ ）内に内訳を記載。

（園：大規模園芸経営体育成事業、アグリ：アグリビジネス基盤整備事業、フード：フードバリューチェーン構築基盤整備事業）

## ② 事業の成果

- ・（公財）みやぎ産業振興機構アグリビジネス支援室で事業計画のブラッシュアップや経営課題の解決を支援するために専門家を派遣し、アドバイスをを行い、経営改善を促進しました。加えて、各種ビジネス講座を開催し、企業的経営感覚を持った農業経営者の育成や知識習得を支援しました。
- ・令和6年度は、いちごを生産する農業法人（1法人）に対して、高設栽培ベンチや環境制御装置等の整備、生産物の付加価値を高める選果施設等の整備に係る経費を助成し、アグリビジネス経営体の確保及び育成を図りました。

## IV「1 産業振興パッケージ」「1-6 地域産業振興促進」

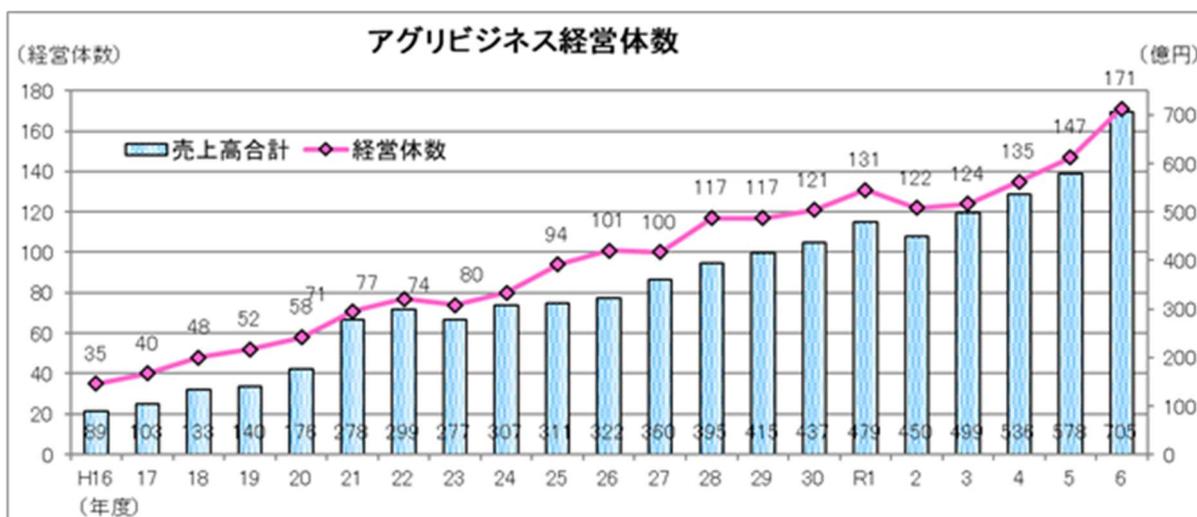
・令和6年度末の年間1億円以上の売上を達成したアグリビジネス経営体数及び売上額合計は、令和5年度末と比較して増加し、経営体数が171経営体、売上額の合計は約705億円となっています。



機構が実施したアグリビジネス次世代トップリーダー養成講座



イチゴの高設栽培ベンチや環境制御装置等の整備を支援



**(10)航空路線誘致促進事業**

- 令和5～6年度事業費 107,500千円（基金活用額 107,500千円）  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 107,500千円（基金活用額 107,500千円）]
- 仙台空港に新規就航する航空会社や既存路線の増便、機材の大型化等を実施した航空会社を対象に、仙台空港国際化利用促進協議会を通じて助成金を交付し、新規航空需要の創出を促進。

**① 事業の実績**

年度	実績等
令和5年度	助成実績 件数：3件（新規就航1、増便2） 金額：計29,500千円
令和6年度	助成実績 件数：7件（新規就航4、増便1、大型化2） 金額：計78,000千円

**② 事業の成果**

- ・ 需要が不安定な就航初期に係る費用を助成してリスクを低減することにより、航空会社の新規就航等を後押しし、仙台空港利用者の拡大に寄与しました。



新規就航セミナー（仙台空港）

# IV「1 産業振興パッケージ」 「1-6 地域産業振興促進」

## その他の地域産業集積促進に関する事業

1-6 地域産業振興促進	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
地域支援事業	地方振興事務所からの企画提案により、地域産業の持続的な発展に資する取組を実施	令和5~6年度 13,330 (13,330)	企業合同説明会、親子工場見学会の実施や観光人材の育成など地域産業の振興に寄与する事業を各地方振興事務所において実施	地元企業の周知や交流人口の増加等地域産業の持続的な発展に貢献
みやぎの伝統的工芸品産業振興事業	積極的な事業展開を行う伝統的工芸品製造業者に対する産学官連携等による需要開拓支援等	平成29~令和6年度 32,098 (30,421)	新商品開発や需要開拓等の事業への補助を実施するほか、展示会等への出展を支援	新商品開発等の促進や販路拡大に貢献
みやぎ優れMONO発信事業	県内の優れた工業製品を発掘し、「みやぎ優れMONO」として認定するとともに、認定製品の市場開拓や販路拡大等を支援	平成28~令和6年度 76,500 (76,500)	県内で生産された優れた工業製品の中から「みやぎ優れMONO」として認定	ホームページやパンフレット等による情報発信や展示会への出展により認定製品の販路拡大、知名度向上に貢献
再エネ電力調達マッチング支援事業	未利用地等を活用した再エネ電力と県内の需要家とのマッチング支援等	令和6年度 132 (132)	県内の再エネ需要家、発電事業者のマッチング参加意欲の把握、事業実施スキーム見直しのため、県有未利用地1箇所を対象に貸付公募の募集を開始した。	県内の再エネ需要家(企業)の再エネ調達支援と地域共生型再エネ事業の実現に貢献
次世代自動車技術実証推進事業	沿岸被災地をフィールドとした電動モビリティの活用実証事業に関し、実施主体(女川町、南三陸町)の実施費用を支援	令和元~6年度 15,982 (15,982)	環境負荷の少ない電動モビリティを活用した実証事業に対して補助金を交付したほか、関係機関との調整など側面支援を実施	地域における新ビジネスの創出や地域課題の解決、低炭素なまちづくりに貢献
ユニバーサルデザインタクシー普及促進事業	UDタクシー車両を新たに導入する事業者等に対し、導入費用を支援	令和2~6年度 121,800 (121,800)	ユニバーサルデザインタクシーを導入するタクシー事業者等に対して補助金を交付(114件166台)し、ユニバーサルデザインタクシーの普及及び利活用を促進	地域における取引拡大や地域課題の解決、低炭素なまちづくりに貢献
空・陸次世代モビリティ体感事業	本県自動車関連産業の更なる深化、発展を目指すため、将来の自動車関連産業を担う人材の裾野を拡大していくことを目的として、新たなモビリティ等も活用した自動車関連産業の認知度向上、将来のモノづくり産業を担う人材の確保を図るもの。	令和6年度 17,436 (17,436)	東北初の一般公開による空飛ぶクルマのデモ飛行を行ったほか、県庁で車両展示イベントを2回実施した。また、市町村が実施するモビリティイベント支援のため、開催に要する経費の補助を行った(1件)。	自動車関連企業の人材確保、認知度向上に貢献
次世代型商店街形成支援事業	商店街組合やまちづくり会社が商店街の課題を解決するために必要なソフト・ハード事業及びビジョン形成を支援	令和元~6年度 31,868 (31,868)	9地域の商店街将来ビジョンの作成と8地域の課題解決事業に補助を実施	時代に適合した商店街の構築に貢献
買い物機能強化支援事業	商店街組織や事業者等が実施する、従来の商業機能を強化・補完するための新たな販売手法の取組に対して費用を支援	平成30~令和6年度 11,020 (11,020)	6市町の地域買いもの機能強化事業に補助を実施	商業空白地域の新たな販売手法に取り組みることにより、買い物弱者対策に貢献
外国人観光客受入環境整備促進事業	外国人観光客受入基盤の充実、観光情報の提供環境を向上させるため、無線LAN及び観光案内版等を設置する事業者を支援	平成29~令和6年度 54,399 (54,399)	宿泊施設事業者、観光集客施設事業者、民間交通事業者、住宅宿泊事業者等80事業者に対し補助金を交付	本県を訪れる観光客の利便性の向上に貢献
教育旅行誘致促進事業	将来的な宮城県へのリピーターを獲得するため、北海道地区、中部以西地区の学校に対して震災復興をテーマとした教育旅行の招請を実施	平成26~令和6年度 36,025 (36,025)	国内教育旅行関係者を対象としたモニターツアーを実施し、延べ140名が参加	国内教育旅行モニターツアーに参加した学校のうち、21校が本県で教育旅行を実施
アンバサダーサミット開催事業	県産品や外国人材の受入体制等の本県の魅力を海外に発信するためのイベントを開催することにより、本県の認知度向上、海外との交流機会の拡大を推進	令和6年度 30,000 (30,000)	ウェルカムレセプション、外国人材・国際投資セミナー、エクスカッションを実施し、参加国等に対するおもてなしを行うとともに、本県のプロモーションを図った。	一連のプログラムを通して、本県の魅力を海外に向けて効果的に発信した
外国人観光客誘致促進事業	教育旅行やインセンティブツアーの誘致に取り組みるとともに、現地デスクの設置等により現地の情報発信機能を強化	平成28~令和6年度 167,675 (167,675)	台湾・中国・香港・韓国・欧米市場向けに、SNSを活用した情報発信を実施したほか、学校長等教育旅行関係者や旅行会社の招請事業を実施した。	各市場のSNSを一元管理し、効果的に発信することによって本県の認知度向上、訪日外国人観光客の拡大につなげたほか、招請した学校が教育旅行で本県を訪れた
県産食品海外ビジネスマッチングサポート事業	本県の農林水産物の輸出に取り組む事業者のスタートアップから海外ビジネス展開の段階に応じて細やかな個別支援を実施するとともに、輸出に当たって課題となる物流面などの課題解決に向けたバリューチェーンのモデル構築により、更なる輸出拡大を図る	令和3~6年度 26,557 (14,583)	国際ビジネス推進コーディネーターを設置し、県内企業の海外販路開拓を支援するとともに、県該等の海外ビジネスマッチング支援を実施	県内企業の海外販路開拓、利益拡大に貢献
東南アジアとの経済交流促進事業	東南アジア、台湾及び香港等における政府機関に対する県の窓口業務や県内企業向けのビジネスアドバイザーデスク業務を実施	平成26~令和6年度 54,619 (54,619)	アセアン等ビジネスアドバイザーデスクを設置し、県内企業のアセアン地域における販路開拓や進出等を支援するとともに、宮城県が当該対象地域を訪れる際の政府機関とのアポイント調整等も実施	県内企業の販路開拓・海外進出支援等に貢献
対宮城県直接投資促進事業	海外企業や研究機関等を招へいし、投資環境の視察や県内企業とのビジネスマッチングなどを実施することにより、海外からの投資を促進	令和6年度 7,318 (7,318)	海外企業を招へいし、ナノテラス等の県内投資環境PR及び県内企業とのビジネスマッチングを実施	海外からの投資及び海外企業と県内企業との連携・協業を促進
水素エネルギー産業創出事業	水素エネルギーに関する産業創出に向けた学術機関と連携した研究セミナーの開催	平成29~令和6年度 4,041 (4,041)	水素・燃料電池関連産業セミナー(19回)を開催	事業者等を対象に、関連産業への参入検討に必要な技術情報等を提供
みやぎ大規模施設園芸立地奨励金	大規模施設園芸の立地を優遇する制度を導入するとともに、農業参入フェア等を通して、県の施設園芸の取組事例を広く紹介し、県内外の農業法人等の誘致を図る	令和5~6年度 2,585 (2,585)	農業参入フェアにおける出展(4回)、農業参入にかかる企業訪問及び相談対応(74社)、PR動画作成(1本)、リーフレット作成(5種)、ターボリン作成(1種)を実施	農業参入フェア等を通して宮城県施設園芸に関する情報提供や外部講師を招待し、陸上養殖に関する国内事例やビジネスモデル等について講演を行うことで、漁業者、水産加工業者等に対して普及・啓蒙を図った
多様で特色のある県畜産物の生産消費促進事業	畜産の労働生産性向上と食品産業との連携強化を図るため、生産者のデジタル技術導入を支援するとともに、県内独自銘柄畜産物やその加工品の販売イベント開催を支援	令和4~6年度 30,608 (22,981)	生産者のICT・IoT等技術導入を支援(11件)するとともに、販売会の開催(18回)や出展支援(24件)を実施	県内畜産物における労働生産性の向上と消費拡大に貢献
水産業の持続的な発展を実現するための陸上養殖経営体育成事業	水産物を安定供給する体制を構築するため、漁業者等が閉鎖循環式陸上養殖システムを導入するために必要な費用の一部を補助するとともに、陸上養殖を普及させるためセミナーの開催や専門家派遣を実施	令和5~6年度 151,216 (151,216)	・令和5年度水産青年フォーラムにて情報提供 ・令和5年度水産青年フォーラムにて情報提供(R5) ・宮城県陸上養殖推進セミナー(R5)、陸上養殖に関する勉強会の開催(R6) ・補助金件数:2件(R6)	・閉鎖循環式陸上養殖システム導入支援事業に関する情報提供や外部講師を招待し、陸上養殖に関する国内事例やビジネスモデル等について講演を行うことで、漁業者、水産加工業者等に対して普及・啓蒙を図った ・閉鎖循環式陸上養殖の宮城県内への普及を促進するため、参入する事業者が同システムの導入に要する経費に対し支援を行った
仙台空港600万人・5万トン実現推進事業	仙台空港民営化を契機とした航空旅客及び貨物量拡大に向けた実証事業等を実施	平成28~令和6年度 165,408 (165,408)	LOC等と連携した利用促進事業や国内貨物量の拡大に向けた実証事業等を通じ、現状と課題の調査・分析を実施。	航空旅客の増加及び貨物量の拡大に向けた課題と今後の取組の方向性が整理されるとともに、具体的な取組等の展開に寄与

## 2 災害対策パッケージ

### 平成20～令和6年度事業費 5,765百万円(基金活用額 2,781百万円)

[第1期(平成20～24年度)事業費 3,462百万円(基金活用額 920百万円)]

[第2期(平成25～29年度)事業費 450百万円(基金活用額 352百万円)]

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 1,341百万円(基金活用額 1,313百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 512百万円(基金活用額 197百万円)]

「災害対策パッケージ」については、近い将来に発生が確実視される宮城県沖地震などの大規模な自然災害に備え、災害に対応する産業活動基盤の強化や防災体制の整備など、県民や企業の被害最小化のための施策を展開しました。

### 2-1 災害に対応する産業活動基盤の強化

### 平成20～令和6年度事業費 4,447百万円(基金活用額 1,741百万円)

[第1期(平成20～24年度)事業費 2,928百万円(基金活用額 537百万円)]

[第2期(平成25～29年度)事業費 101百万円(基金活用額 101百万円)]

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 1,047百万円(基金活用額 1,047百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 371百万円(基金活用額 56百万円)]

多くの県民が利用する施設の耐震化を推進するなど、災害時における県民生活の安全と経済活動の確保を図りました。

#### (1) 防災・減災森林インフラ整備事業

○ 令和5～6年度事業費 349,999千円(基金活用額 34,999千円)

[第4期(令和5～6年度)事業費 349,999千円(基金活用額 34,999千円)]

○ 頻発化・激甚化する自然災害に備え、指定避難所や避難路など重要施設を保全する治山施設の機能強化等を図るための対策を実施。

#### ① 事業の実績

年度	実績等
令和5年度	既存治山施設の維持補修・機能強化工事(22施設)
令和6年度	既存治山施設の維持補修・機能強化工事(24施設)

#### ② 事業の成果

- ・ 治山施設の機能が確保されたことにより、指定避難所や避難路など重要施設の安全性を確保することができ、地域防災力の向上に貢献しました。



涌谷町小里字菅の沢（菅の沢）



事業実施後の状況

## (2) 特定建築物等震災対策事業

- 平成20～23・25～令和2年度・令和5～6年度事業費 125,203千円  
 (基金活用額 125,203千円)  
 [第1期(平成20～23年度)事業費 17,527千円(基金活用額 17,527千円)]  
 [第2期(平成25～29年度)事業費 101,412千円(基金活用額 101,412千円)]  
 [第3期(平成30～令和2年度)事業費 5,464千円(基金活用額 5,464千円)]  
 [第4期(令和5～6年度)事業費 800千円(基金活用額 800千円)]
- 指定避難所等の耐震化を促進するため、市町村が実施する耐震診断に要する費用の一部を補助するほか、耐震診断が義務化された大規模な特定建築物耐震改修工事を促進するため、市町村が所有者に対して耐震診断、耐震補強設計、耐震改修工事費用を補助する場合に、市町村負担分の一部を補助。

### ① 事業の実績

- ・ 指定避難所89施設の耐震診断経費及び大規模特定建築物8施設の耐震診断、4施設の補強設計、10施設の改修工事助成経費を補助しました。

年度	実績等
平成20年度	指定避難所耐震診断(10件)
平成21年度	指定避難所耐震診断(13件)
平成22年度	指定避難所耐震診断(18件)
平成25年度	指定避難所耐震診断(5件)
平成26年度	指定避難所耐震診断(9件)、大規模特定建築物耐震診断(3件)
平成27年度	指定避難所耐震診断(8件)、大規模特定建築物耐震診断(5件) 大規模特定建築物補強設計(3件)、大規模特定建築物耐震改修工事(3件)
平成28年度	指定避難所耐震診断(5件)、大規模特定建築物耐震改修工事(3件)
平成29年度	指定避難所耐震診断(15件)、大規模特定建築物耐震改修工事(3件)
平成30年度	指定避難所耐震診断(5件)、大規模特定建築物補強設計(1件) 大規模特定建築物耐震改修工事(1件)
令和5年度	指定避難所耐震診断(1件)
令和6年度	(実績なし)

## IV「2 災害対策パッケージ」 「2-1 災害に対応する産業活動基盤の強化」

年度	実績等
第1期通算	指定避難所耐震診断（41件）
第2期通算	指定避難所耐震診断（42件）、大規模特定建築物耐震診断（8件） 大規模特定建築物補強設計（3件）、大規模特定建築物耐震改修工事（9件）
第3期通算	指定避難所耐震診断（5件）、大規模特定建築物補強設計（1件） 大規模特定建築物耐震改修工事（1件）
第4期通算	指定避難所耐震診断（1件）
通算	指定避難所耐震診断（89件）、大規模特定建築物耐震診断（8件） 大規模特定建築物補強設計（4件）、大規模特定建築物耐震改修工事（10件）



耐震改修完了（鳴子ホテル）



改修工事の状況

### ② 事業の成果

- 令和6年度末時点で、県内の指定避難所は、耐震化率が98.34%となり、耐震診断助成事業開始前の平成19年度末時点の69%から大幅な改善が図られています。
- また、市町村と防災協定を締結し、市町村地域防災計画の避難所に位置づけられたホテルなど民間大規模建築物の耐震化を促進することで、安全な民間施設を防災拠点に活用することができ、地域防災力の向上につながっています。

**(3) 小学校スクールゾーン内ブロック塀等除却助成事業**

- 令和2～6年度事業費 22,855千円（基金活用額 22,855千円）  
 [第3期（令和2～4年度）事業費 16,973千円（基金活用額 16,973千円）]  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 5,882千円（基金活用額 5,882千円）]
- スクールゾーン内の通学路等に面したブロック塀等の倒壊による事故を未然に防止し、学童をはじめとする歩行人の安全を確保するために、倒壊等のおそれのある危険なブロック塀等の所有者に対して市町村が除却工事に対する助成事業を行う場合に、市町村負担分の一部を助成。

**① 事業の実績**

- ・ 令和2年度から令和6年度で延べ25市町722件の助成を実施し、危険ブロック塀の安全確保を推進している。

年度	実績等
令和2年度	14市町126件
令和3年度	24市町185件
令和4年度	24市町221件
令和5年度	24市町94件
令和6年度	25市町96件
通算	延べ25市町722件

**② 事業の成果**

- ・ スクールゾーン内における危険なブロック塀等の安全性確保に向け、所有者に対する改善指導、フォローアップを継続して行った。その結果、平成30年の県等の調査で「除却が必要」と判定されたブロック塀のうち、令和元年度から令和6年度で242箇所が改善されました。(注1)
- ・ ひび割れや傾きがあるブロック塀を改善することで、倒壊や落下被害を防ぎ、スクールゾーン内の児童等の歩行者の安全を確保することができました。(注2)



(注1) 仙台市を除く改善件数（スクールゾーン外も含むなど、調査対象や範囲が県と異なるため）

(注2) 宮城県建築宅地課 HP より抜粋

なお、改善後の写真については個人の住居であるため、掲載をしておりません。

**その他の災害に対応する産業活動基盤の強化に関する事業**

2-1 災害に対応する産業活動基盤の強化	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
小規模防災機能強化補助事業	市町村が行う小中学校施設の防災対策事業のうち、国庫補助の対象とならない小規模な非構造部材の耐震対策工事を支援	平成30～令和6年度 45,604 (45,604)	市町村立小中学校施設の非構造部材の耐震対策工事に要する経費の一部を補助(11市町のべ44校)を実施	市町村立小中学校の耐震対策を支援

## 2-2 防災体制の整備

平成20～令和6年度事業費 1,318百万円(基金活用額 1,039百万円)

[第1期(平成20～24年度)事業費 534百万円(基金活用額 383百万円)]

[第2期(平成25～29年度)事業費 349百万円(基金活用額 250百万円)]

[第3期(平成30～令和4年度)事業費 294百万円(基金活用額 265百万円)]

[第4期(令和5～6年度)事業費 141百万円(基金活用額 141百万円)]

防災体制の充実に向け、東日本大震災などの大規模な災害の教訓を生かし、地域の防災対策の中心となる人材の養成等を実施しました。

## (1)被災した企業経営者等による中小企業向け防災研修事業

○ 令和5～6年度事業費 4,506千円(基金活用額 4,506千円)

[第4期(令和5～6年度)事業費 4,506千円(基金活用額 4,506千円)]

○ 次なる災害を見据えた防災・減災を進めるため、企業経営者等の災害時の経験や得られた教訓などを紹介し、県内企業の防災意識向上を推進。

## ① 事業の実績

- ・ 東北大学災害科学国際研究所との共同研究として研修プログラムを作成した。また、セミナー形式研修を1回実施した。

年度	実績等
令和5年度	プログラム策定。モニター研修1回実施。
令和6年度	プログラム策定。セミナー形式研修1回実施。

## ② 事業の成果

- ・ 研修実施の際に講師となる企業を選定し、聞き取りの上講義可能な内容を取りまとめた。また、また、セミナー形式研修において受講者にアンケートを実施した結果、「研修内容を具体的に自社に取り入れたい」旨の声もあり、県内企業の防災意識向上を図るとともに、次年度以降に実施する研修の参考とした。



セミナー形式研修の様子

**(2) 地域防災リーダー育成等推進事業** ※平成20～令和2年度:防災指導員養成事業

- 平成20～令和6年度事業費 175,941千円（基金活用額 172,571千円）
  - [第1期（平成20～24年度）事業費 19,544千円（基金活用額 19,544千円）]
  - [第2期（平成25～29年度）事業費 60,279千円（基金活用額 56,909千円）]
  - [第3期（平成30～令和4年度）事業費 59,220千円（基金活用額 59,220千円）]
  - [第4期（令和5～6年度）事業費 36,898千円（基金活用額 36,898千円）]
- 地震・津波、洪水及び土砂災害等についての基礎的事項や事前の防災対策などの知識を持つ地域防災リーダーや避難誘導方法などの知識を持つ企業防災リーダーを計画的に育成し、減災に役立つ具体的な行動の波及を図り、地域と企業の震災対策を推進することで、県全体の防災力の向上を目指すもの。

**① 事業の実績**

- ・ 地域防災リーダー等育成研修を実施し、地域・企業の防災知識の習得を図るとともに、講習受講者を対象に、平成24年度から地域防災コース、平成26年度から企業防災コースのフォローアップ講習を実施し、スキルアップを図りました。

年度	実績等
平成20年度	地域防災リーダー養成研修(9回、531人受講)
平成21年度	養成講習 地域防災コース(16回、766人受講)、企業防災コース(4回、142人受講)
平成22年度	養成講習 地域防災コース(17回、775人受講)、企業防災コース(5回、160人受講)
平成24年度	養成講習 地域防災コース(18回、607人受講)、企業防災コース(5回、141人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(5回、226人受講)
平成25年度	養成講習 地域防災コース(18回、608人受講)、企業防災コース(5回、142人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(5回、147人受講)
平成26年度	養成講習 地域防災コース(18回、761人受講)、企業防災コース(4回、88人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(8回、227人受講)、企業防災コース(2回、52人受講)
平成27年度	養成講習 地域防災コース(19回、712人受講)、企業防災コース(3回、59人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(9回、225人受講)、企業防災コース(1回、17人受講)
平成28年度	養成講習 地域防災コース(18回、622人受講)、企業防災コース(4回、102人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(8回、195人受講)、企業防災コース(1回、27人受講)
平成29年度	養成講習 地域防災コース(21回、767人受講)、企業防災コース(2回、35人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(8回、188人受講)、企業防災コース(1回、40人受講)
平成30年度	養成講習 地域防災コース(15回、657人受講)、企業防災コース(1回、30人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(17回、517人受講)、企業防災コース(1回、21人受講)
令和元年度	養成講習 地域防災コース(14回、580人受講)、企業防災コース(1回、20人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(14回、486人受講)、企業防災コース(1回、7人受講)
令和2年度	養成講習 地域防災コース(10回、417人受講)、企業防災コース(1回、43人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(11回、268人受講)、企業防災コース(1回、27人受講)

IV「2 災害対策パッケージ」 「2-2 防災体制の整備」

年度	実績等
令和3年度	養成講習 地域防災コース(13回、469人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(11回、264人受講) ※企業防災コースは新型コロナウイルス感染症のため、開催中止
令和4年度	養成講習 地域防災コース(18回、586人受講)、企業防災コース(1回、36人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(11回、316人受講)、企業防災コース(1回、34人受講)
令和5年度	養成講習 地域防災コース(13回、456人受講)、企業防災コース(1回、20人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(8回、200人受講)、企業防災コース(1回、29人受講)
令和6年度	養成講習 地域防災コース(16回、544人受講)、企業防災コース(1回、41人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(13回、385人受講)、企業防災コース(1回、23人受講)
第1期通算	養成講習 地域防災コース等(2, 679人受講)、企業防災コース(443人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(226人受講)
第2期通算	養成講習 地域防災コース(3, 470人受講)、企業防災コース(426人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(982人受講)、企業防災コース(136人受講)
第3期通算	養成講習 地域防災コース(2, 709人受講)、企業防災コース(129人受講)、 フォローアップ講習 地域防災コース(1, 851人受講)、企業防災コース(89人受講)
第4期通算	養成講習 地域防災コース(1, 000人受講)、企業防災コース(61人受講)、 フォローアップ講習 地域防災コース(585人受講)、企業防災コース(52人受講)
通算	養成講習 地域防災コース等(9, 858人受講)、企業防災コース(1, 059人受講) フォローアップ講習 地域防災コース(3, 644人受講)、企業防災コース(277人受講)

※ 通算において、平成20年度地域防災リーダー養成研修の受講者数は、養成講習地域防災コース等に含んでいる。

※ 受講者の人数は、教員（防災主任、安全担当主幹教諭等）を含めて集計している。

- 東日本大震災時の防災リーダーの活動実態を調査し、活動実態を取りまとめました。

実施年度：平成27年度

調査対象：東日本大震災前に宮城県防災指導員養成講習（地域防災コース）を修了した者

（調査対象数：1, 976人、有効回答人数：1, 230人、回答率：62. 2%）

② 事業の成果

- 養成した防災リーダーは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災時において、自主防災組織での活動の中などで、安否確認や情報収集・伝達等について先導的な役割を果たしました。



養成講習の様子

## IV「2 災害対策パッケージ」 「2-2 防災体制の整備」

### (3) 地域建設産業災害対応力強化支援事業

- 令和5～6年度事業費 38,540千円（基金活用額 38,540千円）  
 [第4期（令和5～6年度）事業費 38,540千円（基金活用額 38,540千円）]
- 大規模な災害の発生に備え、県の防災力の更なる強化を図るために、県内の建設企業等が取り組む防災体制の構築や対応力の強化等に必要な費用の一部を補助するもの。

#### ① 事業の実績

年度	補助件数	金額	主な事業内容
令和5年度	25件	17,023千円	レーザースキャナーの購入、測量用ドローンの購入等
令和6年度	29件	21,517千円	トータルステーション、発電機の購入、BCP策定等

#### ② 事業の成果

- ・ 防災体制の構築や災害対応力の強化が図られました。
- ・ BCP（事業継続計画）を策定済み又は策定することを誓約した企業を補助事業者の要件としていることから、令和6年度に交付した29者のうち未策定だった21者について、BCPの策定促進が着実に図られました。

### その他の防災体制の整備に関する事業

2-2 防災体制の整備	事業概要	全体事業費 単位:千円 (うち基金充当額)	事業の実績	事業の成果
私立学校施設設備災害対策支援事業	私立学校の防災対策を支援するため学校施設整備の非構造部材の耐震化などを支援	平成25～令和6年度 88,163 (80,660)	私立学校施設の非構造部材に係る耐震化等に要する経費の一部を補助	私立学校の防災対策を支援
中小企業等BCP・事業継続力強化計画実践支援事業	災害発生時における中小企業等の事業継続及び地域住民との連携推進を目的として、中小企業等がBCP・事業継続力強化計画を実践するための設備等の導入を支援	令和6年度 11,128 (4,906)	非常食や簡易トイレ等の備蓄品の購入(4件)、非常用発電機の設備の導入(1件)を支援	災害発生時における中小企業等の事業継続及び地域住民との連携推進に貢献
水災補償付き火災保険等加入支援事業	大規模災害時における経済的な被害の最小化につなげるため、水災・地震補償を付帯した保険に新規加入する者を支援	令和3～6年度 43,376 (43,348)	新たに水災・地震保険に加入した世帯に対し補助(5,431件)を実施	県民の自助の取組に対する意識の向上及び地域防災力の向上に貢献
災害用石油製品備蓄事業	災害対応時に必要な揮発油等石油製品の備蓄及び管理	平成27～令和6年度 15,354 (15,354)	災害対応型中核給油所(R6末時点 35か所)及び小口燃料配送拠点(R6末時点 5か所)での揮発油等石油製品の備蓄及び管理を行うための経費の一部を支援	災害時の緊急車両等へ給油する燃料を確保
みやぎ防災ジュニアリーダー養成事業	自主防災組織等における将来の地域防災活動の担い手となる、「みやぎ防災ジュニアリーダー(高校生)」を養成	令和3～6年度 933 (933)	みやぎ防災ジュニアリーダー養成研修会を実施	将来の地域防災活動の担い手として、県内高校生421名を「みやぎ防災ジュニアリーダー」に認定し、申請者全員が宮城県防災指導員に認定された

V 令和6年度「みやぎ発展税」活用事業一覧

(単位:千円)

対象パッケージ / 事業	担当部局 課室	決算額 (繰越額)		事業実績等	
			うち基金活用額		
産業振興パッケージ 合計 A ①～⑥ (84事業計)		8,174,819	6,837,732		
小計 ① (7事業計)		4,171,916	3,936,555		
1-1 企業集積 促進	1 みやぎ企業立地奨励金事業	経済商工観光部 産業立地推進課	3,044,170	3,044,170	県内に製造業に係る工場等を新設又は増設した自動車関連産業・高度電子機械産業・食品関連産業の企業等18件に対し、企業立地奨励金を交付した。
	2 名古屋産業立地センター運営事業	経済商工観光部 産業立地推進課	11,119	11,097	自動車関連企業を中心とした企業訪問(346件)を実施し、企業誘致や地場企業との取引拡大につながる情報収集を行った。
	3 工場立地基盤整備事業貸付金	経済商工観光部 産業立地推進課	1,000,000	770,061	工業団地開発に積極的に取り組む市町村に対し、工業用地造成事業に係る事業費を無利子で貸し付け(1件)、新たな工業用地の造成を促進した。
	4 企業誘致活動強化事業	経済商工観光部 産業立地推進課	39,998	39,998	半導体や蓄電池をはじめとする成長産業の誘致・集積に向けた業界・市場動向に関する調査やセミナー等を実施した。
	5 産業用地整備設計等事業補助金	経済商工観光部 産業立地推進課	20,000	20,000	工業団地開発に積極的に取り組む市町村に対し、工業用地造成事業のための設計等事業に係る事業費に対する補助金の交付を行い(2件)、新たな工業用地の造成を促進した。
	6 情報通信関連企業立地促進奨励事業	企画部 産業デジタル推進課	49,329	49,329	情報通信関連企業の集積のため、13件に対し奨励金を交付した。また、本県の立地環境を首都圏等に情報発信し、更なる企業集積を図るため、全国の情報通信関連企業が集まる展示会へ出展した。
	7 企業立地型交通安全施設整備事業	警察本部 交通規制課	7,300	1,900	黒川郡大街村において、交通信号機1基を整備し、企業立地等による交通量の増加等に対応した物流の円滑化を図った。
小計 ② (14事業計)		509,171	504,452		
1-2 技術高度化 支援	8 産学連携プロジェクト推進事業	経済商工観光部 新産業振興課	1,957	1,957	宮城県に設置された次世代放射光施設の県内食産業への利用促進を目指し、放射光施設を利用した食品分野での商品開発や食材・商品のブランド化に関する調査を行う産学共同研究会を、県内学術機関に委託して実施した(委託件数1件)。
	9 産学官連携素材技術活用支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	8,887	8,887	産学連携を通じた県内事業者の技術開発力・競争力向上を図ることでより県の産業発展に貢献することを目的として、セミナー及びポスター発表会(2回開催)、情報収集及び課題解決支援(産学共同での技術開発・課題解決活動6件)を行った。
	10 富良野宮城技術支援拠点整備拡充事業	経済商工観光部 新産業振興課	199,100	199,100	地域の中小企業が独自に保有することが困難な三次元座標測定機ほか1機種を産業技術総合センターに設置することにより、技術支援機能の強化を図った。
	11 デジタルエンジニアリング高度化支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	18,951	18,708	三次元CADや3Dプリンターを高度に活用した製品開発を行うデジタルエンジニアを養成するため、産学官連携によるセミナー等(5回延べ85人参加)、研究会(3回延べ99人参加)、研修(3コース延べ12人参加)を開催したほか、地域企業が抱える個別課題について、デジタルエンジニアリングの手法を用いた解決支援を行った。
	12 高度電子機械産業集積促進事業 (人材育成センターを除く)	経済商工観光部 新産業振興課	55,602	51,157	展示会への出展支援(5回)や川下企業への技術プレゼンテーションの実施、今後成長が見込まれる「半導体・エネルギー」「医療・健康機器」「航空宇宙」の各分野の特性に合わせたセミナー等(16回)を開催し、県内企業の取引拡大や新分野進出を図った。
	13 高度電子機械産業集積促進事業 (ビジネスマッチング強化促進事業)	経済商工観光部 新産業振興課	14,440	14,440	「半導体・エネルギー」「医療・健康機器」「航空宇宙」のみやぎ高度電子機械産業振興協議会の重点3分野及び高度電子機械産業の振興を図るため、みやぎ産業振興機構に、首都圏の大手川下企業のニーズ調査等をするBM推進員、県内企業の技術シーズの把握等をするBM専門員を配置し、個別商談会の開催(8件)、個別あつせん(72件)を通じて商談機会を創出し、県内企業の取引創出・拡大を図った(商談成立22件)。
	14 ものづくり基盤技術高度化支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	10,430	10,430	県内中小企業等が技術開発等を進める上で有効な国補助事業(戦略的基盤技術高度化・連携支援事業及び成長型中小企業等研究開発支援事業)を活用するためには、事業管理機関が必須であるが、県内の支援体制が十分ではないため、(公財)みやぎ産業振興機構の専門員を配置(4人)し、体制強化を図った。
	15 ものづくり中小企業”生産性向上実現”DX戦略推進事業	経済商工観光部 新産業振興課	41,555	41,555	講演会・展示会(1回、95人参加)やワークショップ(2回、30人参加)を開催し、ものづくり中小企業のDX、デジタル化の機運を醸成した。また、AI・IoT等の先端技術の導入経費を支援(4件)するとともに、産業技術総合センターによるAI・IoTのデモ見学から実証までの一連の内製化を支援する身の丈DXラボ(177社・334人参加)、AI・IoT体験会(3回、73人参加)、技術相談(295件)、伴走支援(17件)等を通じて、AI・IoT等の活用による生産性向上等の取組を加速化した。
	16 新規参入・新産業創出等支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	57,477	57,477	高度電子機械産業分野等での新事業、新産業創出などを促進するための産学官連携による技術高度化等に必要な技術製品開発(地域イノベーション創出型:4件、グループ開発型:3件)、川下企業への参入を目指した試作開発(成長分野参入支援型:5件)の費用を助成し、新事業の実用化・商品化に取り組んだ。
	17 放射光施設利用促進事業	経済商工観光部 新産業振興課	24,958	24,958	令和6年4月に稼働したナノテラスの利用促進を図るため、放射光利用に関する講演会(新潟・郡山)の開催やナノテラスを利用した放射光利用実地研修事業(2件)を実施するとともに、研究機関等が集積するリサーチコンプレックス形成に向け、県外企業等を対象としたセミナーを開催した。また、放射光利用の裾野の拡大などを目的に、高校の授業の一環でのナノテラス利用を実現した(測定実施3校)。
	18 地域企業競争力強化支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	10,936	10,936	産業技術総合センターが主体となり、企業等との連携協力のもと、自動車関連・医療機器関連・高度電子機械産業等の分野に関連する3つの研究課題等を実施し、地域企業に技術移転を図るなど、地域企業の競争力強化を支援した。

対象パッケージ / 事業	担当部局 課室	決算額 (繰越額)		事業実績等	
			うち基金活用額		
19 自動車関連産業におけるカーボンニュートラル推進支援事業	経済商工観光部 自動車産業振興室	41,600	41,600	県内自動車関連企業のカーボンニュートラル化支援のためのセミナー(1回)の開催やエネルギー診断及び脱炭素化促進計画策定支援(8社)を実施したほか、脱炭素化促進計画に従って導入する設備の整備費用について、補助金(2社)を交付した。	
	20 自動車関連産業参入支援事業	経済商工観光部 自動車産業振興室	2,860	2,860	県内企業の取引機会を更なる創出のため、(公財)みやぎ産業振興機構に対して、自動車関連企業向け展示商談会(オンライン、訪問)の実施費用を補助した(参加企業13社)。
	21 自動車関連技術支援事業	経済商工観光部 自動車産業振興室	20,418	20,385	自動車産業への新規参入・取引拡大を目指す企業が、自動車部品の性能を把握し、新技術・新工法の提案に繋げることを目的に自動車部品の性能分析・調査等の技術支援を実施するとともに、県内企業に対し具体的な開発部品の実用化・量産化に向けた個別支援を実施した(個別プロジェクト支援・技術検討17件)。また、県内企業への技術相談支援体制の強化として、リバーエンジニアリング用ソフトウェアの更新および新たなワークステーションの導入を行った。
小計③(15事業計)		464,096	464,096		
1-3 中小企業・ 小規模事業者 活性化	22 ものづくり産業起業家等育成支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	4,631	4,631	県内の中小企業者13社に対して、民間賃貸オフィス等に係る資料を補助した。
	23 テック系スタートアップ成長支援事業	経済商工観光部 新産業振興課	12,621	12,621	「テック系スタートアップ・サポートコンソーシアム宮城(略称・テクスタ宮城)」を設置・運営し、支援機関と東北大学発等スタートアップとの個別マッチング(58件)やマッチングのきっかけとなる主催イベント(5回)、共催イベント(8回)を開催した。
	24 富県宮城資金等円滑化支援事業	経済商工観光部 商工金融課	2,077	2,077	「伊達な旅」整備促進資金の新規融資実績(3件)に係る信用保証料軽減について、減収分を一部補助した。
	25 ステージアップ支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	13,764	13,764	自社の課題解決や目標達成を目指すステージアップ支援事業認定企業3社に対し、設備導入や販路開拓に要する経費の一部を補助した。
	26 スタートアップ加速化支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	58,413	58,413	県内で創業等する事業者41者(新規22件、継続19件)に対してスタートアップ資金を補助した。
	27 みやぎ創業推進支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	13,676	13,676	創業情報提供(27回)、創業イベントの開催(8回112人参加)、本県での創業に関する相談や個別の創業計画に係る相談への対応(92件)、市町村創業支援ネットワーク会議(2)を実施した。なお、本事業により県内で創業した事業者は4者である。
	28 新事業創出支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	16,703	16,703	地域資源等を活用して新商品等の開発を行う11社に補助を行った。
	29 生産現場改善強化支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	40,994	40,994	県内のものづくり産業の生産現場における生産性改善を支援するため、専門家派遣(17社)を実施するとともに、生産性向上のための設備導入等支援(9社)、現場改善セミナーの開催(3回)を実施した。
	30 取引拡大チャレンジ支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	18,491	18,491	みやぎ広域取引商談会(参加企業数344社)及びびこ県合同商談会(参加企業数145社)、個別商談会(4回)を開催した。また、商談会への参加や受注後のアフターフォローのための費用を補助(86件)し、そのうち4件について、専門家による販売促進のための動画作成費用を補助した。
	31 事業承継支援体制強化事業	経済商工観光部 中小企業支援室	14,474	14,474	事業承継専門員2人を配置し、支援機関の訪問等を通じ、事業者の事業承継を支援し、事業承継診断を3,191件実施した。
	32 水産加工業企業力強化支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	23,429	23,429	県内の水産加工業者の経営課題の解決を図るため、専門家派遣(25社134回)を実施するとともに、新たな経営戦略の導入に取り組み事業者に一貫した伴走支援(3社)を実施した。また、生産性改善活動支援(3社)により、生産効率の向上や人材育成を実施した。
	33 中小企業等デジタル化支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	217,476	217,476	生産性向上等を目的とした中小企業等のデジタル化の取組についてアドバイザー派遣(571回)及び導入経費の補助(112件)を実施した。
	34 中小企業共同化チャレンジ事業	経済商工観光部 中小企業支援室	3,823	3,823	複数事業者で構成されるグループ(2者)での、新事業展開や業務共同処理に係る取組を支援し、補助を実施した。
	35 小規模事業者伴走型支援体制強化事業	経済商工観光部 中小企業支援室	6,204	6,204	小規模事業者の持続的経営や経営革新の促進を図るため、商工会・商工会議所においてセミナーの開催(18回)や個別指導(107件)を実施し、経営計画等の策定(43件)を支援した。これらの支援により、販路開拓や生産性向上の取組を支援する小規模事業者持続化補助金の獲得に寄与した(1件)。
	36 食品製造業経営力強化サポート事業	農政部 食産業振興課	17,318	17,318	専門家派遣事業として12社に対し9人の専門家を延べ56回派遣し、100時間35分の指導を実施した。また、専門家派遣事業のうち8社に対しては専門家からのアドバイスに基づき実践する経営改善活動の一部を補助した。さらに、県内食品製造業事業者を対象としたフードビジネス塾を開催し全3回の連続した講座に8社が参加した。
小計④(7事業計)		383,366	382,396		
37 半導体人材育成・産学連携推進事業	経済商工観光部 新産業振興課	14,500	14,500	半導体PR冊子(1,400部)の作成・配付、むすび丸半導体バージョンの作成、小中学生向けイベントの開催(参加881人)、音部園UIターン向けイベント(参加23人)を通して、主に若年層に向けて、半導体産業に対する興味関心を喚起し、人材確保につなげるための取組を行った。また、東北大学が教育プラットフォームを開発する費用を補助したほか、大学・高等等の情報共有(会議)、高校教員の理解促進(研修会)のための取組を実施した。	
	38 現地人材サポート体制構築事業	経済商工観光部 国際政策課	58,657	58,657	台湾、ベトナム、インドネシアの3か国に相談窓口を設置し、外国人材の企業等への就職又は留学希望者等の公立日本語学校への留学に関する相談や問い合わせ等に対応した。また、外国人材及び教育機関等を対象としたセミナーやフェアなどを開催したほか、特設ホームページの開設及びSNSによる情報発信等を行い、県内企業等とのマッチング支援及び留学希望者等の母集団形成及び留学生募集等の支援を図った。
	39 外国人材受入体制モデル構築事業	経済商工観光部 国際政策課	270,000	270,000	「大崎市立おおさき日本語学校」の設置者である大崎市に対し、「外国人材受入体制モデル構築奨励金」を交付し、外国人材受入体制構築のモデルとなる地域における取組の推進を図った。

対象パッケージ / 事業		担当部局 課室	決算額 (繰越額)		事業実績等
				うち基金活用額	
1-4 人材育成 促進	40 デジタル人材採用・育成支援事業	企画部 産業デジタル推進課	37,167	37,167	学生等の県内IT企業等への就業を促進し、県内IT企業の認知度向上のために行う事業(3件)に対して経費の一部を支援するとともに、県内IT企業へ採用された未経験者等、中堅層、高度IT技術者向け育成研修を実施した(50社130名)。
	41 産業デジタル化支援事業	企画部 産業デジタル推進課	360	360	中小企業等の経営者や担当者向けに、デジタル技術利活用等に関するセミナーを全4回(参加者計189人)開催した。
	42 産業人材養成教員研修事業	教育庁 教職員課	872	872	最先端の技術・技能を有する専門学校及び企業8団体に、延べ10人の工業等を担当する教諭を派遣するとともに、企業から招聘型の研修には13人の教諭が参加し、産業分野での最新技術を習得することで、教職員の指導力の向上を図った。
	43 専門教育次世代人材育成プロジェクト事業	教育庁 高校教育課	1,810	840	石巻地域の専門学校4校(石巻商業、水産、石巻工業、石巻北)で学校間の学びを融合した新たな視点から地域の課題解決プロジェクトに取り組んだ。パートナーシップ協議会を編成し、地域を学びをフィールドとした学習展開について意見交換を行った。生徒委員会(12回)、運営委員会(2回)を開催し、商品開発のアイデアやプロジェクト成果中間発表会(延べ282人参加)を実施した。
小計 ⑤(10事業計)			163,519	142,843	
1-5 人材確保 支援	44 ものづくりカレッジプロジェクト推進事業	経済商工観光部 富県宮城推進室	8,649	8,649	産業界や理工系学部を有する県内私立大学と一体となって、講演会や企業説明会などの県内中小ものづくり企業の認知度向上に向けた取組を実施し、延べ1,165人の学生が参加した。
	45 立地企業雇用確保支援対策事業	経済商工観光部 産業立地推進課	472	472	立地企業と合同による高校等への訪問(計41回)を行い、立地企業の雇用確保に向けた支援を行った。
	46 国外半導体人材生活支援事業	経済商工観光部 半導体産業振興室	9,955	9,955	台湾の半導体関連企業向けに、本県での暮らしの魅力等を紹介する動画及びガイドブックを作成した。
	47 宮城Uターン助成金事業	経済商工観光部 雇用対策課	19,593	19,593	Uターンによりプロフェッショナル人材を受け入れた県内中小企業等に対し17件の助成金を支給した。
	48 副・兼(富っ県)みやぎマッチング促進プロジェクト	経済商工観光部 雇用対策課	38,356	19,310	県内企業に対し、副業兼業人材の活用を促すセミナーを延べ43回実施したほか、副業・兼業マッチングサイト「ダブルワークみやぎ」の運営を行い、51件のマッチングに繋がった。
	49 みやぎで就活応援プロジェクト	経済商工観光部 雇用対策課	15,056	15,056	県外に住む大学生等が、県内で就職活動を行うために要した交通費及び宿泊費の一部の助成(402件)を行った。そのうち、卒業年次である学生は66名で、うち25名が県内の企業に就職した。
	50 プロフェッショナル人材戦略拠点(半導体)運営事業	経済商工観光部 雇用対策課	4,494	2,864	県内の半導体関連企業へプロフェッショナル人材戦略マネージャー等を派遣し、半導体関連において44件の人材マッチングに繋がった。
	51 外国人材マッチング支援事業	経済商工観光部 国際政策課	15,398	15,398	県内企業と外国人材をマッチングするため、合同企業説明会、企業向けセミナー、外国人材向けセミナー等を行い、外国人材100人が県内企業から内定を受け就職した。
	52 外国人材現地ジョブフェア事業	経済商工観光部 国際政策課	51,323	51,323	インドネシア共和国からの動態人材の確保に向けて、県内企業46社がインドネシアに渡航し、県内企業によるインドネシア人材への企業概要説明及び面談、県内企業と現地の送出機関による人材の送り出しに関する協議を実施した。
	53 台湾事業者支援事業	経済商工観光部 国際政策課	224	224	令和6年9月1日に大衡村で開催された「台湾・半導体フェスティバル in 大衡2024」に仙台地方振興事務所と共同でブースを出展し、「多文化共生社会」「やさしい日本語」等の情報発信を行い、半導体企業誘致に伴い増加が見込まれている台湾の方々の受入環境整備の促進を図った。 ※後にPSMC社とSBPホールディングスの提携解消が発表されたため、本年度の取組みは上記1件。
小計 ⑥(31事業計)			2,482,750	1,407,391	
54 地域支援事業	経済商工観光部 富県宮城推進室	6,392	6,392	各地方振興事務所、地域事務所において、企業紹介ガイドブック(4圏域204社掲載)作成、親子工場見学会(3圏域32社633人参加)、管内企業に対する社員研修・DX推進支援などを行い、地元企業の周知や地域産業の持続的な発展に繋がった。	
55 地域ポイント等導入支援事業	経済商工観光部 富県宮城推進室	1,869,900	817,610	デジタルポイント「みやぎポイント」を活用したキャンペーンを展開して自然災害避難支援アプリの登録者をおよそ62万名まで拡大するとともに、18億円相当のポイント発行により域内消費を喚起した。	
56 みやぎの伝統的工芸品産業振興事業	経済商工観光部 新産業振興課	8,103	6,426	国及び県指定の伝統的工芸品の需要開拓事業等への補助として8事業者に対し支援した。また、(一財)伝統的工芸品産業振興協議会等が主催する展示販売会等への出展や、県による展示販売会の主催等により、販路拡大を支援したほか、伝統的工芸品を生産する新たな担い手確保を目的としたインターンシップを開催し、担い手1名が誕生した。	
57 みやぎ優れMONO発信事業	経済商工観光部 新産業振興課	8,500	8,500	県内で生産された優れた工業製品の中から、技術、品質、安全安心など10項目の基準をクリアした8製品を第17回「みやぎ優れMONO」として認定し、各種の特典や支援を実施した。	
58 次世代自動車技術実証推進事業	経済商工観光部 自動車産業振興室	5,621	5,621	環境負荷の少ない電動モビリティを活用した実証事業(2町)に対して補助金を交付したほか、関係機関との調整など側面支援を行った。	
59 ユニバーサルデザインタクシー普及促進事業	経済商工観光部 自動車産業振興室	41,800	41,800	ユニバーサルデザインタクシーを導入するタクシー事業者等(30社)に対して補助金を交付(33件97台)し、ユニバーサルデザインタクシーの普及及び利活用を促進した。	
60 空・陸次世代モビリティ体感事業	経済商工観光部 自動車産業振興室	17,436	17,436	東北初の一般公開による空飛ぶクルマのデモ飛行を行ったほか、県庁で車両展示イベントを2回実施した。また、市町村が実施するモビリティイベント支援のため、開催に要する経費の補助を行った(1件)。	

対象パッケージ / 事業	担当部局 課室	決算額 (繰越額)		事業実績等
			うち基金活用額	
61 次世代型商店街形成支援事業	経済商工観光部 商工金融課	6,897	6,897	時代に適合した商店街を構築するため、商店街の将来ビジョン形成(1団体)を支援するとともに、ビジョンに基づき課題を解決するための事業(3団体)を支援し、商店街の活性化に取り組んだ。
62 商店街NEXTリーダー創出事業	経済商工観光部 商工金融課	8,174	8,174	商店街活動を継続していくため、セミナーの開催(修了者25人)、トライアル事業の助成(10団体)、交流会の開催により、若手や女性リーダーを育成し、商店街活性化に向けた機運を高めた。
63 買い物機能強化支援事業	経済商工観光部 商工金融課	26	26	買い物弱者対策のための事業開始について、事業者の相談に対応し、地域の買い物機能強化に取り組んだ。
64 外国人観光客受入環境整備促進事業	経済商工観光部 観光戦略課	7,970	7,970	外国人観光客の満足度向上を図るため、デジタルサイネージの導入や多言語での施設紹介動画作成など、先進的な外国人観光客受入環境整備等を行う県内の宿泊施設に対し、補助金を交付した。(交付決定件数4件)
65 観光地周遊促進事業	経済商工観光部 観光戦略課	19,942	19,942	県内3地区において、紅葉時期等の観光シーズンに合わせて、駐車場や観光施設にセンサーやAIカメラを設置して混雑状況を把握し、デジタルマップによる情報発信を実施した(デジタルマップ閲覧数計14,623回)。
66 アンバサダーサミット開催事業	経済商工観光部 観光戦略課	30,000	30,000	ウェルカムレセプション、外国人材・国際投資セミナー、エクスカージョンを実施し、本県の認知度向上、海外との交流機会の拡大を図った。
67 教育旅行誘致促進事業	経済商工観光部 観光戦略課	5,618	5,618	修学旅行等の教育旅行の誘致を促進するため、関係機関と協力・連携し、北海道や関西・中部圏において、旅行会社や学校教員を対象とした説明会等を実施したほか、学校教職員等を対象としたモニターツアーを開催した。 また、訪日教育旅行の誘致を促進するため、教育関係者を対象としたモニターツアーを開催したほか、台湾現地説明会を実施した。
68 外国人観光客誘致促進事業	経済商工観光部 観光戦略課	22,262	22,262	台湾、大連に設置しているサポートデスクにおいて、現地での情報発信を行ったほか、県公式SNSで県内観光情報発信の強化を図った(フォロー数は約30万人)。
69 県産食品海外ビジネスマッチングサポート事業	経済商工観光部 国際ビジネス推進室	8,401	4,522	コーディネーターによる個別相談対応を281件実施し、75企業(うち31企業は輸出に初挑戦)の延べ350商品が(うち118商品は初)輸出された。
70 東南アジアとの経済交流促進事業	経済商工観光部 国際ビジネス推進室	4,996	4,996	宮城県アセアンアドバイザーデスクを設置し、計22社86件の海外ビジネス支援(現地市場状況の調査・取引先候補の発掘・商談設定等)を実施した。
71 ものづくり海外販路開拓支援事業	経済商工観光部 国際ビジネス推進室	8,107	4,906	海外で開催される国際展示会(1回・2社)への出展を支援したほか、香港において県産工芸品のテストマーケティングを実施し(参加事業者は24社)、海外での販路開拓を支援した。
72 対宮城県直接投資促進事業	経済商工観光部 国際ビジネス推進室	7,318	7,318	海外企業を招へいし、現地視察などによる県内投資環境のPRを行うとともに、県内企業や大学研究者とのビジネスマッチング(32件)を実施した。
73 みやぎIT商品販売・導入促進事業	企画部 産業デジタル推進課	11,945	11,945	IT商品の開発に対する支援(5社5商品)、優れたIT商品の認定(2社2商品)及び過年度に認定した商品の販売支援(3社3商品)を実施した。
74 先進的デジタル産業振興支援事業	企画部 産業デジタル推進課	10,344	10,344	AI/IoT技術等の先進的デジタル技術を活用した実証事業に対して、費用の一部を補助した(1件)。また、産学情報技術データベースの運用及び交流イベント等の開催(7回、延べ58人参加)により、異業種間交流を促進した。
75 DX関連スタートアップ支援事業	企画部 産業デジタル推進課	22,620	22,620	ピッチコンテストを開催し、革新的なスタートアップ10者が登場。資金調達や商談等に関する交渉が43件生まれた。起業等に挑む若者の裾野拡大のため事業創出体験プログラムを開催し、32名の大学生等が参加した。
76 再エネ電力調達マッチング支援事業	環境生活部 環境政策課	132	132	県内の再エネ需要家、発電事業者のマッチング参加意欲の把握、事業実施スキーム見直しの上、県有未利用地1箇所を対象に貸付公募の募集を開始した。
77 水素エネルギー産業創出事業	環境生活部 次世代エネルギー産	546	546	水素エネルギーに関する将来の産業創出に向けて、業界団体、大学・研究機関、先進的取組を行う大手企業などから講師を招き、水素・燃料電池関連産業セミナーを5回開催し、事業者等を対象に、水素エネルギー利活用の動向や水素エネルギーの普及に向けた企業の取組、技術ニーズ、産学官連携による研究開発状況などの事例紹介等、関連技術に関する情報を提供した。
78 県産品デジタルマーケティング展開支援事業	農政部 食産業振興課	21,720	11,006	リアルとデジタルの双方のメリットを活かした県産品の新たな露出機会を創出するため、商品の試食試飲後にその場でECサイトから購入できる「OMO物産展(東京・大阪で各5日間、計20事業者85商品)」を開催したほか、「OMO型県産品常設コーナー(千葉1店舗3か月間、計22事業者27商品)」を設置した。また、商品の試食試飲後にはアンケートを行い、商品に対する消費者の声を収集・分析し、事業者へフィードバックを実施した。
79 アグリビジネス経営体確保育成事業	農政部 農業振興課	71,742	71,742	次世代トップリーダーを対象とした講座(5人受講)や農産物販売力向上のためのEC戦略構築講座(4社、3回)の開催及び専門家派遣(16経営体、70回)による経営課題の解決を支援した他、施設整備への補助(2件)を実施した。
80 みやぎ大規模施設園芸立地奨励金	農政部 園芸推進課	941	941	農業参入フェア(2回)にて、参入を検討する企業(38社)の相談に対応したほか、来庁やweb会議により23社の参入相談、うち13社について企業訪問を行い、本県への参入を促した。また、企業誘致に活用する先進的な取組事例や事業等を紹介するリーフレットや各種イベントで使用する垂れ幕(ターボリン)を作成した。
81 多様で特色のある県畜産物の生産消費促進事業	農政部 畜産課	10,318	6,719	県内2事業者のICT機器導入を支援し、労働生産性の向上が図られた。県内の特色ある畜産物(鶏卵、豚肉)の販促資材作成と販売会やフェアの開催(6回)のほか、各販売会等への出展支援(12事業者)を行った。
82 水産業の持続的な発展を実現するための陸上養殖経営体育成事業	水産林政部 水産業基盤整備課	151,008	151,008	漁業者や水産加工業者等に対して、陸上養殖の普及を図るため、陸上養殖に関する勉強会を行った(1回)、加えて、閉鎖循環式陸上養殖のモデルとならざる事業者に対して、本システムの導入に係る費用の支援を行った(2者)。
83 仙台空港600万人・5万トン実現推進事業	土木部 空港臨空地域課	15,971	15,971	仙台空港の旅客数拡大への寄与が期待されるLCCやRJと連携し、メールマガジン会員獲得や就航地先紹介等の利用促進に向けた取組を通じて、新たな航空需要の創出を図った。また、航空貨物取扱量増加に向け「仙台空港貨物便産地直送フェア」を開催し、核となる商材の振り起こしと輸送に係る課題の調査・分析を実施した。
84 航空路線誘致促進事業	土木部 空港臨空地域課	78,000	78,000	仙台空港に新規就航する航空会社や既存路線の増便、機材の大型化を実施した航空会社等に対して、仙台空港国際化利用促進協議会を通じて助成金を交付し、新規航空需要の創出を促進した(助成金実績:7件)。

1-6  
地域産業  
振興促進

対象パッケージ / 事業	担当部局 課室	決算額 (繰越額)		事業実績等	
			うち基金活用額		
災害対策パッケージ 合計 B ⑦・⑧ (12事業計)		256,405 (103,361)	102,690 (19,361)		
小計 ⑦ (4事業計)		182,251 (93,361)	28,551 (9,361)		
2-1 災害に対応する 産業活動基盤の 強化	85 防災・減災森林インフラ整備事業	水産林政部 森林整備課	170,805 (93,361)	17,105 (9,361)	頻発化・激化する自然災害に備え、指定避難所や避難路など重要施設の安全性を確保するため、老朽化した既存治山施設(24施設)の機能強化等対策を実施した。
	86 特定建築物等震災対策事業	土木部 建築宅地課	800	800	令和6年度は、耐震性が不十分な指定避難所24件(令和6年3月末時点)のうち1件に耐震診断補助を実施した。 (令和5年度繰越分)
	87 小学校スクールゾーン内ブロック塀等 除却助成事業	土木部 建築宅地課	3,010	3,010	小学校のスクールゾーン内の危険なブロック塀等の除却工事に対する助成事業を行う市町村に対して、市町村負担分の一部を助成(25市町96件)し、危険なブロック塀等の改善を図った。
	88 小規模防災機能強化補助事業	教育庁 施設整備課	7,636	7,636	市町村が実施する小中学校施設の防災対策事業(非構造部材の耐震対策工事)に要する経費の一部を補助し、耐震性の促進を図った。 (4市町8校)
小計 ⑧ (8事業計)		74,155 (10,000)	74,140 (10,000)		
2-2 防災体制 の整備	89 私立学校施設設備災害対策支援事業	総務部 私学・公益法人課	183	183	私立学校設置者が行う学校施設設備の非構造部材の耐震化など、災害対策事業に要する経費の一部を補助し、私立学校(幼稚園1園)の防災対策を支援した。
	90 中小企業等BCP・事業継続力強化計 画実践支援事業	経済商工観光部 中小企業支援室	11,128 (10,000)	11,128 (10,000)	災害発生時における中小企業等の事業継続及び地域住民との連携推進を図るため、中小企業等がBCP・事業継続力強化計画を実施するための備蓄品(4件)及び設備(1件)の導入を支援した。
	91 被災した企業経営者等による中小企 業向け防災研修事業	復興・危機管理部 復興支援・伝承課	2,506	2,506	東北大学災害科学国際研究所との共同研究として研修プログラムを作成し、講師となる企業を選定するとともに講義可能な内容を取りまとめた。また、セミナー形式研修(1回)において、受講者へアンケートを実施し、次年度以降に実施する研修の参考とした。
	92 水災補償付き火災保険等加入支援事 業	復興・危機管理部 復興支援・伝承課	16,701	16,686	新たに水災保険・地震保険等に加入した方々が負担する経費の一部を補助(1,316件)し、災害からの円滑な生活再建に向けた自助の取組の促進を図った。
	93 地域防災リーダー育成等推進事業	復興・危機管理部 防災推進課	20,427	20,427	防災指導員養成講習(地域防災コース、企業防災コース)を17回開催し、585人の防災指導員を養成した。また、フォローアップ講習(地域防災コース、企業防災コース)を14回開催し、408人が修了するなどし、地域・企業における防災知識の習得を図った。
	94 災害用石油製品備蓄事業	復興・危機管理部 防災推進課	1,474	1,474	東日本大震災における燃料不足の教訓を踏まえ宮城県石油商業組合・宮城県石油商業協同組合と締結した協定に基づき、揮発油等の石油製品を災害対応型中核給油所35か所及び小口燃料配送拠点5か所で適正な備蓄及び管理を行うための経費の一部を支援した。
	95 地域建設産業災害対応力強化支援事 業	土木部 事業管理課	21,517	21,517	県内の建設業者26者及び建設関連業者3者の計29者に21,517千円の補助金を交付し、防災体制の構築や災害対応力の強化を図った。また、本事業では、BCP(事業継続計画)を策定済み又は策定することを誓約した企業を補助要件としていることから、交付決定した者のうち未策定の21者について、BCPの策定促進が寄与に図られた。
	96 みやぎ防災ジュニアリーダー養成事業	教育庁 保健体育安全課	219	219	将来の地域防災活動の担い手を育成するため、県内の高校生を対象とした研修会を開催し、研修修了者107人を「みやぎ防災ジュニアリーダー」に認定した。また、全員が「宮城県防災指導員」に認定された。
総合計 A+B (96事業)		8,431,224 (103,361)	6,940,422 (19,361)		

※ 事業ごとに千円未満を四捨五入しているため、合計額とは合致しない場合がある

※ カッコ内の金額は、令和6年度から7年度への繰越額

宮城県経済商工観光部  
富県宮城推進室

〒980-8570

仙台市青葉区本町三丁目 8 - 1

宮城県庁 1 4 階

TEL022-211-2792 FAX022-211-2719

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/fukensui/>

E-mail [fukensui@pref.miyagi.lg.jp](mailto:fukensui@pref.miyagi.lg.jp)